ISSN 0915－1613

年　報　24

２００７年度
（平成19年度）

２００８．１１

山梨県埋蔵文化財センター

年　報　24

２００７年度
（平成19年度）

２００８．１１

山梨県埋蔵文化財センター

序

山梨県埋蔵文化財センターは、昭和57年（1982年）に開所し、すでに四半世紀が経ちました。この間、県内各地における発掘調査の実施や資料の保管、及びそれらのデータや出土品を用いたさまざまな資料普及活動等、文化財の保存や活用にかかわる各種の事業を実施してまいりました。

本書は、このような活動にかかわる平成19年度（2007年度）の事業報告であります。その内容につきましては、発掘調査、試掘調査、県内中世寺院分布調査、遺跡の整備に伴う調査などがあります。さらに普及事業として、遺跡調査発表会を始めとした講座・講演会の実施、発掘調査体験セミナーの開催、県内小中学校を対象とした出前支援事業等さまざまな活動をおこなってまいりました。

まず発掘調査については、３箇所の遺跡で記録保存のための調査を実施しました。４年目を迎えた都留バイパス建設に伴う玉川金山遺跡の調査では、縄文時代早期の炉穴等の遺構や土器・石器類が数多く発見されましたが、これらは本県における縄文早期の研究に大いに役立つものとみられています。

富士川舟運にかかわる遺跡として、鰍沢河岸跡と、青柳河岸跡の発掘も行いました。特に鰍沢河岸跡については、平成８年度以来調査を行っておりますが、今回の調査は平成12年度以降継続して実施されてきた「一般国道52号改築（甲西道路建設）事業」に伴うもので、最終年度となるものです。今回の調査は鰍沢河岸にかかわる商人居住地区が対象となり、建物の石垣や江戸時代の大火災に伴う焼土などが確認できました。また青柳河岸跡の調査は、富士川築堤護岸工事に伴い実施したものです。河岸本体を確認するまでには至りませんでしたが、それに繋がる道等にかかわる遺構の一部を検出することができました。これら２カ所の河岸跡の成果が、富士川舟運の実情を探る上での一助になれば幸いです。

県内中世寺院分布調査は５年継続で実施しており、４年目を迎えた平成19年度は小菅村内の古観音遺跡や、富士山二合目富士御室浅間神社境内地、忍野村中尾根遺跡など信仰の場を調査しました。これまでの調査成果に新たなデータが加わったことになります。

整備にかかわる事業も２カ所で行いました。まず国指定史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳の整備にあたっては、銚子塚古墳周溝から出土した立柱の復元及び現地への設置を始めとした、環境整備を実施したところであります。また県指定史跡甲府城跡でも、舞鶴城公園整備事業の一環として石垣の補修・修繕工事を行い、一層整った甲府城の姿が浮かび上がりました。

資料普及事業についても、積極的に活動を行いました。まず、県内小中学校への出前支援事業は23件を数え、大勢の小中学生が火おこしや土器づくり等の体験にふれることができました。他にも学校関係には、修復なった土器や石器の貸出も行っております。また一般の方々を対象とした遺跡調査発表会や講座・講演会も実施し、合計1,432名の方が参加してくれました。その他、発掘体験セミナーや職場体験の受け入れ等、埋蔵文化財センターの特質を生かした普及活動も行ってきたところであります。

当センターは、調査研究、資料の保管・収蔵、教育普及活動といった事業を進めることを目的としておりますが、これからもさらなる事業推進に知恵を絞り、そして実行してまいる所存であります。今後ともご支援ご協力をお願い申し上げます。

2008年11月

山梨県埋蔵文化財センター
所　長　新　津　　健

目　次

序

凡例・職員組織

第Ⅰ章　2007年度の事業概要

1　発掘調査等…… 1

2　整理作業…… 1

3　資料普及事業…… 2

4　収蔵資料の貸し出し及び掲載許可一覧…… 4

5　第20回市町村埋蔵文化財専門職員研修会…… 7

6　遺跡調査発表会…… 7

7　埋文シンポジウム…… 8

8　山梨の遺跡展2008…… 9

9　埋文やまなし…… 10

10　県指定史跡甲府城跡活用事業…… 10

11　遺跡データ管理（ＧＩＳ）…… 13

12　発掘・整理作業標準化…… 13

13　寄贈・購入図書…… 13

第Ⅱ章　各遺跡の発掘調査等概要

1　記録保存のための発掘調査

１－１　玉川金山遺跡…… 14

１－２　鰍沢河岸跡Ｃ…… 16

１－３　青柳河岸跡…… 18

2　整備事業に伴う調査

２－１　国指定史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳…… 20

２－２　県指定史跡甲府城跡…… 21

3　分布調査

山梨県内中世寺院分布調査…… 23

4　県内分布調査…… 25

第Ⅲ章　県内の概況

1　届出件数と内容…… 43

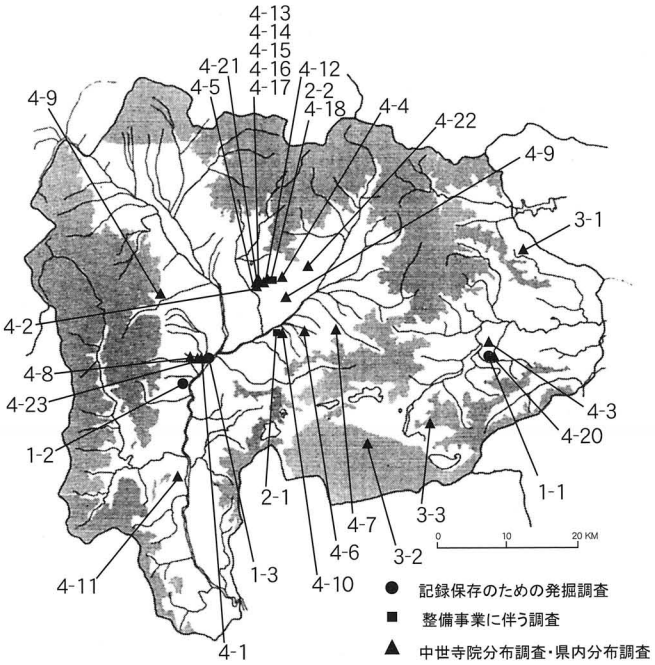
2　発掘調査…… 43

3　県指定文化財（考古資料）及び県指定史跡…… 43

4　発掘調査の成果と保存整備事業…… 43

5　発掘調査体制…… 44

発掘届出件数・発掘調査件数の推移・2007年度県内発掘調査一覧表…… 45･46



2007年度　発掘調査等遺跡位置図

凡　例

1　本書は、2007年度の山梨県埋蔵文化財センターの事業をまとめたものである。

2　本書の編集は、高野・小澤が行った。

3　2007年度の収蔵資料の貸出し及び掲載許可一覧、発掘調査一覧表は2008年３月末日現在で集計したものである。

4　第２章各遺跡の発掘調査等概要における発掘調査面積の（　）内は、調査対象面積である。

5　左記の地図は、2007年度発掘調査遺跡の位置図である。なお、地図中の番号は、１頁の発掘調査の表に対応している。

2007（平成19）年度　職員組織

所長	末木　健
次長	小澤　稔
次長	小野正文
総務課長（兼）	小澤　稔
調査研究課長	坂本美夫

総務課	
主査	佐藤　浩
副主査	厚芝　司
主事	浅川史郎

調査研究課　調査第一担当	
副主幹・文化財主事	小林広和
副主査・文化財主事	田口明子
主任・文化財主事	依田幸浩
非常勤嘱託	正木季洋

資料普及課　資料第一担当	
主査・文化財主事	村石眞澄
副主査・文化財主事	笠原みゆき
主任・文化財主事	輿石逸子
主任（事）（兼）	中山尚行
臨時職員	上野　桜
非常勤嘱託	大木丈夫

調査研究課　調査第二担当	
副主幹・文化財主事	山本茂樹
主査・文化財主事	猪股一弘
副主査・文化財主事	野代幸和
非常勤嘱託	上原健弥

資料普及課　資料第二担当	
主査・文化財主事	吉岡弘樹
主任・文化財主事	小林孝子
主任・文化財主事	野代恵子
非常勤嘱託	長田隆志
臨時職員（1月採用）	古郡雅子

調査研究課　調査第三担当	
副主査・文化財主事	保坂和博
主任・文化財主事	堀込紀行
主任・文化財主事	網倉邦生
非常勤嘱託（1月退職）	酒井玄暁

第Ⅰ章　2007年度の事業概要

1　発掘調査等

2007年度の発掘調査等は、以下のとおりである。各遺跡の概要は、第Ⅱ章で述べることとする。

1）記録保存のための発掘調査

番号	調　査　名　他	番号	調　査　名　他
1－1	玉川金山遺跡（都留バイパス建設）	1－3	青柳河岸跡（富士川築堤護岸工事）
1－2	鰍沢河岸跡Ｃ（一般国道52号改築）		

2）整備事業に伴う調査

番号	調　査　名　他	番号	調　査　名　他
2－1	国指定史跡　銚子塚古墳附丸山塚古墳	2－2	県指定史跡　甲府城跡

3）分布調査

番号	調　査　名　他
3－1～3	山梨県内中世寺院分布調査

4）県内分布調査

番号	調　査　名　他	番号	調　査　名　他
4－1	防災ステーション建設事業に伴う試掘調査（青柳河岸跡）	4－13	県庁構内西門の電柱設置事業に伴う立会調査（甲府城跡）
4－2	国道52号改良工事事業に伴う試掘調査（荒川の渡し）	4－14	県庁構内水道修理事業に伴う立会調査（甲府城跡）
4－3	都留バイパス建設事業に伴う試掘調査（美通遺跡）	4－15	舞鶴陸橋（主要地方道甲府・山梨線）北側歩道拡幅改良事業に伴う立会調査（甲府城跡）
4－4	法務省甲府地方裁判所所長宿舎解体事業に伴う試掘調査（甲府城下町遺跡）	4－16	主要地方道甲府・山梨線（舞鶴通り）配水管敷設工事に伴う立会調査（甲府城跡）
4－5	甲府工業高等学校室内トレーニングルーム増設事業に伴う試掘調査事業（塩部遺跡）	4－17	主要地方道甲府・山梨線（舞鶴通り）舗装工事に伴う立会調査（甲府城跡）
4－6	山梨リニア実験線建設事業に伴う試掘調査（笛吹市境川工区）	4－18	山梨県議員会館解体事業に伴う立会調査（甲府城跡）
4－7	山梨リニア実験線建設事業に伴う試掘調査（笛吹市八代・御坂工区）	4－19	御勅使川福祉公園（５番堤）整備事業に伴う立会調査
4－8	中部横断自動車道建設に伴う試掘調査（藤田池遺跡）	4－20	都留バイパス建設事業に伴う立会調査（玉川金山遺跡）
4－9	平等川河川改修事業に伴う試掘調査（堤防遺跡推定地・七沢の渡し場）	4－21	県営住宅千塚北団地解体事業に伴う立会調査
4－10	生活関連土木施設整備事業に伴う試掘調査（丸山塚古墳）	4－22	兄川県単河川改良事業に伴う立会調査
4－11	中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査	4－23	峡南高等技術専門校下水道接続事業に伴う立会調査
4－12	県営住宅湯村団地建て替え事業に伴う立会調査		

2　整理作業

2007年度の整理作業は、以下のとおりである。

1）基礎的整理作業

番号	遺　跡　名
1	玉川金山遺跡
2	青柳河岸跡

2）本格的整理作業

番号	遺　跡　名
1	甲府城跡
2	鰍沢河岸跡
3	天正寺遺跡
4	延命寺遺跡
5	北田中遺跡
6	西畑Ｂ遺跡
7	甲府城下町遺跡（甲府地方裁判所）
8	甲府城下町遺跡（北口県有地）
9	山梨県内分布調査

3）報告書刊行

番号	報　告　書　名
第247集	滝沢遺跡・疱橋遺跡・谷抜遺跡
第248集	天正寺遺跡
第249集	甲府城下町遺跡（甲府地方裁判所地点）
第250集	県指定史跡甲府城跡　平成19年度調査・整備報告書
第251集	延命寺遺跡
第252集	西畑Ｂ遺跡・北田中遺跡
第253集	国指定史跡　銚子塚古墳附丸山塚古墳
第254集	鰍沢河岸跡Ⅵ
第255集	小井川遺跡Ⅲ
第256集	小井川遺跡Ⅳ
第257集	山梨県内分布調査報告書
第258集	甲府城下町遺跡（北口県有地）

3　資料普及事業

今年度も、県内小中学校等への「出前支援事業」、中高生を発掘作業や整理作業の現場に実際に受け入れる「職場体験」、様々な研修会などにおいて埋蔵文化財調査の成果等を報告する「講師派遣」などを実施した。

また、実際に発掘調査現場を利用し発掘調査を体験する「発掘体験セミナー」や学校教員を対象として埋蔵文化財の学習を広めるための指導者を育成する「先生のための文化財活用支援講座」も実施した。

さらに文化庁の補助金（埋蔵文化財保存活用整備事業費）を得た「埋蔵文化財学習活用事業」では、学校教育等で広く活用するために弥生・古墳時代土器127点を補修し、これを広報するパンフレット（見る！触る！学ぶ！～弥生・古墳時代の土器編～）のほか、リーフレット（山梨県の縄文土器もよう）・体験学習シート（甲府城編・発掘体験編）を作成した。

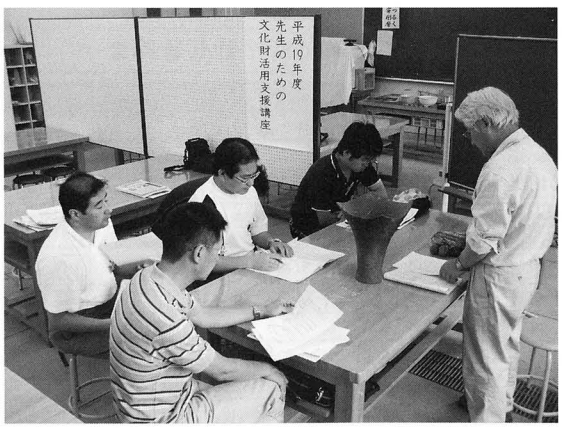
桐原中学校　地域の歴史の話

大国小学校　火おこし体験

梁川小学校　土器づくり体験

宮尾根C遺跡　発掘体験セミナー

職場体験受け入れ



先生のための文化財活用支援講座

普及事業集計表

月	学校への出前支援事業	人数	月	講座・講演	人数	月	遺物など貸出のみ	月	発掘体験セミナー	人数	月	職場体験受入	人数
5	境川小/火おこし／地域の歴史の話	44	5	「甲府城御案内仕隊」養成講座	25	4	英和中/遺物貸出キット・映像ライブラリー	6	玉川金山遺跡（都留市）	32	5	職場体験/丹波中	1
	落合小/縄文土器施文方法	36		塩山高校講座「地域の文化財」	18	5	芦安中/遺物貸出キット・火おこしセット・映像ライブラリー		玉川金山遺跡（都留市）	28	7	職場体験/山梨大学付属中	2
	大国小/火おこし体験	113		ことぶき勧学院南巨摩学園「古代の甲斐」	32		富竹中/火おこしセット・映像ライブラリー	7	朝気遺跡（甲府市）	145		職場体験/白根高	2
6	塩山南小/火おこし/地域の歴史の話	76	6	ことぶき勧学院甲府学園「古代の甲斐」	50		甲府東高/遺物貸出キット		朝気遺跡（甲府市）	32	8	職場体験/北西中	9
	梁川小Ⅰ/土器作り（成形）	19		ことぶき勧学院南都留学園「古代の甲斐」	32	6	カブ・スカウト隊/火おこしセット		朝気遺跡（甲府市）	37		職場体験/小淵沢中	1
	櫛原中/県内の遺跡の話/実物の出土品に触れる	12	7	ことぶき勧学院西八代学園「古代の甲斐」	24		北杜市教委/シカの角	8	宮尾根C遺跡（北杜市）	28		職場体験/城南中	3
	早川南小I/土器作り（成形）	4		ことぶき勧学院北巨摩学園「古代の甲斐」	38		城南中/遺物貸出キット		宮尾根C遺跡（北杜市）	29		職場体験/北西中	1
	一宮南小1/土器作り（成形）	28	8	先生のための埋蔵文化財活用講座第1回	6		大河内小/映像ライブラリー	9	中世寺院古観音見学会（小菅村）	20	11	職場体験/笛南中	4
7	梁川小Ⅱ/土器作り（焼成）	19		先生のための埋蔵文化財活用講座第2回	6	7	石和東小/映像ライブラリー	10	中世寺院行者堂見学会（富士河口湖町）	35			
	石和東小Ⅰ/土器作り（成形）	80		銚子塚立柱イベント第1回	50		早川南小/映像ライブラリー		甲府城詰め石体験（甲府市）	23			
	早川南小Ⅱ/土器作り（焼成）	4		銚子塚立柱イベント第2回	50	8	北東中/映像ライブラリー	11	玉川金山遺跡（都留市）	6			
	大河内小Ⅰ/土器作り（成形）	19	10	ことぶき勧学院北都留学園「古代の甲斐」	31		笛川中/映像ライブラリー		玉川金山遺跡（都留市）	26			
	一宮南小Ⅱ/土器作り（焼成）	28		2007年度上半期遺跡調査発表会	62		双葉東小/映像ライブラリー		探検「甲府城のひみつ」（甲府市）	28			
	石和東小Ⅱ/土器作り（焼成）	42	11	やまなし再発見講座「富士川水運」	80		久那土小/映像ライブラリー	12	玉川金山遺跡見学会（都留市）	10			
	牧丘第二小/火おこし体験/土器に触れる	30		やまなし再発見講座「若彦路」	110		八幡小/映像ライブラリー						
	鰍沢教委Ⅰ/土器作り（成形）	13	1	ことぶき勧学院東八代学園「古代の甲斐」	25		国母小/映像ライブラリー						
8	ひまわり学校/火おこし体験	51	2	埋文シンポ第1回	128	9	三富小/映像ライブラリー						
	鰍沢教委H/土器作り（焼成）	13		埋文シンポ第2回	123	10	竜王中/遺物貸出キット						
9	三富小Ⅰ/土器作り（成形）	9		埋文シンポ第3回	136		桂高校/遺物貸出キット・映像ライブラリー						
	大河内小皿/土器作り（焼成）	19		市町村職員研修会	40	11	一宮南小/火おこしセット・映像ライブラリー						
	三富小Ⅱ/土器作り（焼成）	9	3	埋文シンポ第4回	136		やまびこ支援学校/施文具・映像ライブラリー						
10	羽黒小/火おこし体験	25		埋文シンポ第5回	140								
11	明見中/縄文原体づくり	19		2007年度下半期遺跡調査発表会	90								
	23件	712		23件	1432		21件		14件	479		8件	23

人数総計　2,646人

件数総計　89件

4　収蔵資料の貸し出し及び掲載許可一覧

収蔵資料貸出許可一覧

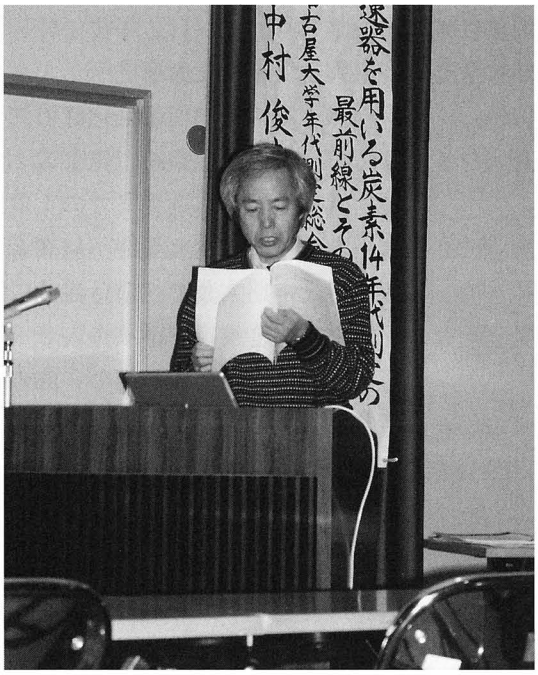
番号	貸出期間	申　請　者	利　用　目　的	申　請　物　件　名	
1	4.12～9.30	北杜市教育委員会	北杜市長坂郷土資料館第17回企画展「北杜の戦国時代～人、山城、そして道～」に展示のため	金生遺跡	茶臼（上臼）1点
					内耳土器1点
					灰釉碗1点
					灰釉丸皿3
					灰釉段皿1点
					鉄釉水滴2点
					鏡1点
					小柄1点
					小札3点
					毛抜2点
					刀子1点
					火打金2点
					刀装具1点
					煙管1点
					鉄鈴1点
2	5.19～H20.3.31	山梨平和ミュージアム	開館記念「甲府空襲展」に展示のため	塩部遺跡	焼夷弾（弾頭）1点
					焼夷弾2点
3	7.19～12.4	山梨県立博物館	企画展「人と動物の昭和誌」、常設展「川を彩る高瀬舟」コーナーに展示のため	鰍沢河岸跡	ニワトリ骨40点
					魚骨・イルカ骨50点
4	8.1～H20.3.31	北杜市教育委員会	谷戸城ふるさと歴史館に展示するため	横針前久保遺跡	石器28点
				天神遺跡	縄文土器2点
				海道前C遺跡	縄文土器1点
				酒呑場遺跡	縄文土器2点
				柳坪遺跡	縄文土器1点
				金生遺跡	縄文土器3点
				西川遺跡	土師器3点
				城下遺跡	緑釉碗1点
				大豆生田遺跡	緑釉陶器片17点
				寺所遺跡	鋸1点
					やっとこ1点
				上平出遺跡	鋤先1点
5	9.27～12.20	釈迦堂遺跡博物館	特別展「いただきますの考古学」に展示のため	金生遺跡	イノシシ下顎骨7点
					縄文土器2点
					土製耳飾1点
					石剣4点
				花鳥山遺跡	縄文土器3点
					エゴマ塊1点
					ボタン状貝製品1点
				水呑場遺跡	縄文土器1点
				大月遺跡	縄文土器3点
					クリ炭化物一括
				現生資料	イノシシ頭顎骨1点
6	11.3～11.5	山梨県立博物館	かいじあむ講座の参考資料とするため	酒呑場遺跡	縄文土器1点
7	11.16～H20.3.31	山梨県立博物館	山梨県における人と牛馬の関わり史の動物考古学的研究のため	大師東丹保遺跡	ニワトリ骨ほか50点
8	H20.3.7～6.14	兵庫陶芸美術館	特別展「縄文－いにしえの造形と意匠」に展示のため	天神遺跡	縄文土器1点
				一の沢遺跡	縄文土器2点
				安道寺遺跡	縄文土器1点
9	H20.3.13～6.20	釈迦堂遺跡博物館	企画展「ひとの形－人形・ひとがた」に展示のため	岡遺跡	容器形土偶2点（複製）
				塩部遺跡	人形2点
				大師東丹保遺跡	人形1点
				鰍沢河岸跡	泥面子10点
10	H20.5.8～11.28	サントリー美術館ほか	「ＫＡＺＡＲＩ　日本美の情熱」展に展示のため	花鳥山遺跡	縄文土器1点
				酒呑場遺跡	縄文土器1点
				殿林遺跡	縄文土器1点

写真資料の貸出並びに掲載許可一覧

番号	申請日	申　請　者	利　用　目　的	申　請　物　件　名	
1	4月5日	山本典幸	『考古学』5（安斎正人発行）に掲載のため	小坂遺跡	縄文土器2点
2	4月23日	社団法人　山梨県電設協会	山梨県電設協会創立35周年記念誌に掲載のため	考古博物館	外観・展示室内の様子5点
3	4月27日	株式会社　社会評論社	『動物のお墓をなぜつくるのか』に掲載のため	安道寺遺跡	縄文土器1点
4	5月15日	山梨平和ミュージアム	開館記念「甲府空襲展」に展示のため	塩部遺跡	焼夷弾(弾頭)出土状況1点
					焼夷弾出土状況1点
5	6月5日	株式会社　小学館クリエイティブ	『一冊でわかる　イラストでわかる　図解古代史』	宮の前遺跡	埋甕検出状況1点
6	6月11日	仁野信平	『仁野信平の山梨発見シリーズ』第2号に掲載のため	一の沢遺跡	縄文土器1点
7	6月23日	財団法人　武田信玄公宝物館	企画展「馬と馬具」に掲載のため	百々遺跡	ウマ骨出土状況1点
8	6月26日	川生五十鈴	ホームページ「小さなうつわのメッセージ」に掲載のため	立石遺跡	石器集合1点
				兄川	ナウマンゾウ臼歯1点
				丘の公園第2遺跡	石器集合1点
				海道前C遺跡	縄文土器3点
					石棒1点
				原町農業高校前遺跡	縄文土器2点
				金生遺跡	土偶1点
					装身具集合1点
				宿尻遺跡	縄文土器1点
				岡遺跡	容器形土偶1点
				向河原遺跡	水田跡1点
				米倉山B遺跡	貨泉1点
				身洗沢遺跡	木製農具集合1点
				金の尾遺跡	弥生土器集合1点
					石器集合2点
					ガラス玉集合1点
				長田口遺跡	鏡片垂1点
				上の平遺跡	遺跡全景1点
9	6月27日	株式会社　小学館	『日本の歴史』第1巻「列島創世記」に掲載のため	一の沢遺跡	縄文土器1点
10	7月3日	株式会社　至文堂	『日本の美術』第497号「縄文土器　前期」に掲載のため	上野原遺跡	縄文土器1点
11	7月5日	社団法人　日本陶磁協会	『陶説』653号に掲載のため	殿林遺跡	縄文土器1点
12	7月5日	株式会社　至文堂	『日本の美術』第497号「縄文土器　前期」に掲載のため	天神遺跡	縄文土器2点
				花鳥山遺跡	縄文土器3点
13	7月13日	株式会社　山川出版社	『日本史図録』（仮称）に掲載のため	天神遺跡	ヒスイ大珠1点
14	7月13日	山梨県立博物館	常設展「川を彩る高瀬舟」コーナーに展示のため	鰍沢河岸跡	口留番所跡地区木枠遺構1点
15	7月24日	株式会社　至文堂	『日本の美術』第498号「縄文土器　中期」に掲載のため	殿林遺跡	縄文土器1点
				安道寺遺跡	縄文土器1点
16	7月27日	朝日新聞社出版本部	東洋美術誌『國華』第1275号に掲載のため	安道寺遺跡	縄文土器1点
17	8月3日	総合研究大学院大学	「体験型土器年表」におけるマグネットを製作するため	天神遺跡	縄文土器1点
18	8月7日	株式会社　至文堂	『日本の美術』第498号「縄文土器　中期」に掲載のため	原町農業高校前遺跡	縄文土器1点
19	8月7日	株式会社　サンニチ印刷	甲府広域観光ガイドに掲載のため	上野原遺跡	縄文土器1点
20	8月9日	東京法令出版株式会社	高校歴史資料集『新日本史総覧』（仮称）に掲載のため	天神遺跡	縄文土器1点
21	8月20日	株式会社　至文堂	『日本の美術』第498号「縄文土器　中期」に掲載のため	上野原遺跡	縄文土器1点
22	8月21日	山梨県造形教育研究会	中学校美術科副読本『美術資料』に掲載のため	一の沢遺跡	縄文土器1点
				安道寺遺跡	縄文土器1点
23	8月27日	株式会社　雄山閣	『季刊　考古学』第101号に掲載のため	金生遺跡	配石遺構3点
24	9月3日	株式会社　至文堂	『日本の美術』第498号「縄文土器　中期」に掲載のため	上野原遺跡	縄文土器2点
				一の沢遺跡	縄文土器2点
25	9月11日	山梨市史編纂委員会	『山梨市史』通史編上巻に掲載のため	銚子塚古墳附丸山塚古墳	航空写真1点

番号	申請日	申　請　者	利　用　目　的	申　請　物　件　名	
26	9月18日	株式会社　至文堂	『日本の美術』第499号「縄文土器　晩期」に掲載のため	金生遺跡	土偶1点
27	9月17日	釈迦堂遺跡博物館	特別展「いただきますの考古学」への展示、及び撮影、関連印刷物へ掲載のため	金生遺跡	土坑完掘状況1点
					出土骨集合1点
				花鳥山遺跡	住居跡2点
28	9月26日	株式会社　小学館	『日本の歴史』第1巻「列島創世記」月報に掲載のため	殿林遺跡	縄文土器1点
29	10月9日	山梨英和大学人間科学部	「表現文化講演会」チラシ・ポスターに掲載のため	海道前C遺跡	縄文土器1点
30	10月26日	兵庫陶芸美術館	特別展「縄文－いにしえの造形と意匠」に展示のため	天神遺跡	縄文土器1点
				一の沢遺跡	縄文土器2点
				安道寺遺跡	縄文土器1点
				釈迦堂遺跡	土偶集合1点
31	12月4日	株式会社　学研	歴史群像シリーズ『図説・全国版　日本の古墳・古代遺跡』(仮称) に掲載のため	金生遺跡	土偶1点
					耳飾り1点
					土器集合1点
					石棒・石剣1点
					イノシシ下顎骨1点
					発掘状況1点
32	12月14日	山梨県教育委員会義務教育課	郷土学習資料『ふるさと山梨』に掲載のため	考古博物館	ナウマンゾウ復元模型写真1点
				丘の公園第2遺跡	石器1点
				横針前久保遺跡	石器1点
				一の沢遺跡	縄文土器1点
				金生遺跡	土偶1点
				身洗沢遺跡	木製農具集合1点
				金の尾遺跡ほか	弥生土器展示風景1点
				銚子塚古墳	航空写真2点
					三角縁神獣鏡(複製)1点
					埴輪集合1点
				大丸山古墳	短甲1点
				かんかん塚(茶塚)古墳	馬具1点
33	12月19日	株式会社　石文社	『月刊石材』2008年1月号へに掲載のため	金生遺跡	配石遺構2点
34	12月20日	北杜市長坂郷土資料館	長坂町郷土研究会会誌『きょうど長坂』に掲載のため	酒呑場遺跡	発掘状況1点
35	2月10日	甲府市社会科研究会	小学校社会科資料集『わたしたちの甲府市』に掲載のため	銚子塚古墳	航空写真1点
36	2月12日	株式会社　学研	歴史群像シリーズ『図説・全国版　日本の古墳・古代遺跡』(仮称) に掲載のため	一の沢遺跡	縄文土器1点
37	2月26日	株式会社　筑摩書房	小林達雄著『縄文人の知的世界』に掲載のため	安道寺遺跡	縄文土器1点
38	2月27日	南アルプス市教育委員会	遺跡説明板「御勅使川扇状地末端の遺跡群」に掲載のため	十五所遺跡	遺跡全景1点
					方形周溝墓1点
					弥生土器集合1点
				村前東A遺跡	遺跡全景1点
					土師器集合1点
				新居道下遺跡	遺跡全景1点
39	3月1日	釈迦堂遺跡博物館	企画展「ひとの形－人形・ひとがた」関連印刷物等に掲載のため	岡遺跡	容器形土偶2点
				塩部遺跡	人形2点
40	3月3日	サントリー美術館ほか	「ＫＡＺＡＲＩ　日本美の情熱」展関連印刷物等に掲載のため	花鳥山遺跡	縄文土器1点
				殿林遺跡	縄文土器1点
41	3月6日	栃木県埋蔵文化財センター	栃木県教育委員会文化財課委託事業における発掘情報誌に掲載のため	一の沢遺跡	縄文土器1点
42	3月14日	山梨日日新聞社メディア企画局出版部	山日ライブラリー『甲斐の歴史をよみ直す』に掲載のため	酒呑場遺跡	縄文土器土器1点
				甲ツ原遺跡	縄文土器土器1点
				二之宮遺跡	鉄製紡錘車1点
				寺所遺跡	土師器1点
					鋸・やっとこ1点
				東原遺跡	小鍛冶遺構1点

5　第20回市町村埋蔵文化財専門職員研修会



本研修会は、山梨県内の市町村埋蔵文化財担当者を対象に、最新の考古学研究の方法や技術、埋蔵文化財行政が抱える問題などを考え、埋蔵文化財に従事する専門職員の資質向上と技術習得を目的として研修を行っているものであり、今回で20回を数える。2007年度については「加速器を用いる炭素－14年代測定法の最前線とその考古学への応用」と題し、文化財担当者のほか一般の参加者も募集して、2008年２月６日午後１時30分から４時まで、風土記の丘研修センターを会場に名古屋大学年代測定総合研究センター教授中村俊夫先生をお招きし、ご講演をいただいた。内容は、炭素年代測定の良いところや誤差の存在などを考慮し、資料採取の方法、何を調べたいのか明確にするなどパワーポイントを使用しながら興味深いお話を伺うことができた。翌日7日には、南アルプス市教育委員会並びに韮崎市教育委員会のご協力を得て、資料サンプルの取り方などの実習も行った。２日間での参加者数は、県内市町村職員と一般参加者を合わせて52名であった。

6　遺跡調査発表会

遺跡調査発表会は、県内で当該年度に発掘調査された遺跡について、調査内容や成果を広く公表する場として上半期と下半期の年に２回開催している。開催は山梨県考古学協会と共催で実施し、出土品や写真パネルのミニ展示も併設している。

○2007年度上半期遺跡調査発表会【参加人数約60名】

開催日時　2007年10月27日（土）午後1時30分～4時30分

開催会場　風土記の丘研修センター　講堂

発 表 1　北杜市　頭無Ａ遺跡（発表者　北杜市教育委員会　村松佳幸）
八ヶ岳南麓では２例目の方形周溝墓群で鉄剣１振りと鉄釧などが発見された。

発 表 2　甲府市　朝気遺跡（発表者　甲府市教育委員会　伊藤正彦）
古墳時代から江戸時代までの遺構・遺物が検出された。中でも、頭部を南に向けて埋葬された馬の全身骨格が目を引く。

発 表 3　甲府市　国指定史跡　武田氏館跡（発表者　甲府市教育委員会　佐々木満）
史跡整備事業に伴って大手口を中心として発掘調査が実施され、館の正面と東側一帯の状況が明らかとなってきた。

発 表 4　山梨市　県指定史跡　連方屋敷（発表者　山梨市教育委員会　三澤達也）史跡整備に伴って調査が行われ、礎石建物跡や掘立柱建物跡が発見されている。

発 表 5　都留市　県指定史跡　勝山城跡・中津森館跡（発表者　都留市教育委員会　森谷雅幸）
勝山城跡では絵図に描かれた石垣が、中津森館跡からは館をめぐると考えられる堀が発見された。

上半期遺跡調査発表会

○2007年度下半期遺跡調査発表会【参加人数約90名】

開催日時　2008年３月23日（日）午後１時～５時

開催会場　帝京大学山梨文化財研究所　大ホール

報告　　平成19年度の県内埋蔵文化財の調査と保護（発表者　山梨県教育庁学術文化財課　今福利恵）

発 表 1　都留市　玉川金山遺跡（発表者　山梨県埋蔵文化財センター　網倉邦生）
縄文時代早期から近世までの土地利用が明らかとなった。

発 表 2　富士吉田市　上中丸遺跡（発表者　富士吉田市教育委員会　篠原武）
縄文時代中期末葉の注口付浅鉢に磨製石斧と黒曜石を納めた埋納遺構が発見されている。

発 表 3　北杜市　宮尾根Ｃ遺跡（発表者　北杜市教育委員会　佐野隆）
縄文時代中期の環状集落の一部のほか古墳時代や中世の集落が発見された。

発 表 4　甲斐市　間々下遺跡・お舟石古墳（発表者　甲斐市教育委員会　大嶌正之）
微高地上に平安時代の集落が発見されるとともに、6世紀末から7世紀初頭築造と推される古墳が調査された。

発 表 5　甲府市　甲府城跡（発表者　帝京大学山梨文化財研究所　宮澤公雄）
清水曲輪にあった乾櫓のあった地点で野面積み石垣や大量の瓦類が発見された。

7　埋文シンポジウム

埋蔵文化財シンポジウムは、遺跡発掘調査から得られた調査成果を、関連分野の専門家を交えて、多角的な視点から、県民一般の方にわかりやすく解説する企画である。当埋蔵文化財センターの関連事業である「遺跡調査発表会」や「山梨の遺跡展」は、最新の調査成果を速報するのに対して、この埋蔵文化財シンポジウムは、発掘資料をじっくりと調査研究した成果を発信するという位置づけである。

平成19年度は、生涯学習推進センターの「やまなし再発見講座」と連携して、「平成の兵どもの城づくり」と題して実施した。県内の史跡整備を行っている中世の城館跡に注目した。中世につくられた城館跡が、現在も保存整備が進められ、往時の姿を取り戻そうとしている。この保存整備は、最新の調査成果をもとに行っている。そこで、城館跡の保存整備をしている担当者から、それぞれの城館跡の特徴や最新の調査成果、実際の保存整備で重点を置いていることなど、城館跡探訪のポイントを話していただいた。講演の内容は以下のとおりである。

日　時　平成20年２月14日（木）「谷戸城を探る」　北杜市教育委員会　渡辺泰彦
平成20年２月20日（水）「武田氏館跡を探る」　甲府市教育委員会　佐々木満氏
平成20年２月27日（水）「新府城跡を探る」　韮崎市教育委員会　山下孝司氏
平成20年３月５日（水）「甲府城跡を探る」　埋蔵文化財センター　野代幸和氏

これらの講演は、山梨県生涯学習推進センター・セミナー室で午後２時～４時の間に行われた。さらに、講演は各サテライトスクール（韮崎・甲州市・鰍沢町・都留市）へ配信された。

上記の講演を受け、特別講演とパネルディスカッションを実施した。特別講演は、甲斐・信濃の武田氏城館について、最新の研究成果をもとに、信州大学人文学部教授笹本正治氏に話していただいた。先に実施した各講師の講演とこの特別講演の内容をふまえて、パネルディスカッションをした。内容は以下のとおりである。

日　時　平成20年３月15日（土）
会　場　山梨県立男女共同参画推進センター「ぴゅあ総合」・大研修室
日　程　13：30～13：35　開催挨拶
　　13：35～15：00　特別講演
　　「甲斐信濃の武田氏城館とその後」　信州大学教授　笹本正治氏
　　15：00～15：10　休憩
　　15：10～16：30　パネルディスカッション
　　「やまなしの城館跡の歴史的価値」
　　コーディネーター　山梨県埋蔵文化財センター所長　末木　健氏

8　山梨の遺跡展2008

「山梨の遺跡展2008」は、2007年度中に県内各地で行われた発掘調査等の成果、資料普及活動の様子などを広く一般に公開することと、いち早く県民に紹介することを目的として、平成20年３月15日～４月6日まで、県立考古博物館の多目的室で開催した。入場は無料とした。

展示の内容は、（１）当センターによって発掘された遺跡の展示、（２）市町村によって発掘された遺跡の展示、（３）当センターの資料普及活動などの展示、（４）新聞報道展示の４種類である。（１）では、鰍沢町の鰍沢河岸跡横町地区で、県内2例目となる「元禄一分判金」をはじめ、近世・近代の陶磁器、銭貨などを、鰍沢河岸と同じく甲州三河岸の一つである増穂町の青柳河岸跡では、土堤状の斜面上に多量に出土した近世・近代の陶磁器・ガラス類を、都留市の玉川金山遺跡では、縄文時代早期の稜磨石・石鏃・石核・剥片などをそれぞれ展示した。

甲府城跡では、鍛冶・数寄屋曲輪の東面石垣の修繕工事の様子や木坑、敷石、瓦、釘、棹鉛などの城内からの出土品を、銚子塚古墳の保存修復事業では、2004年度に発見された立柱を古代の木工技術で復元した様子を、2004年からの５カ年計画で実施している中世寺院分布調査では、古観音遺跡など３遺跡の土器片・古銭などを写真パネルと共にそれぞれ紹介した。また、山梨リニア実験線建設に伴う試掘調査では、竜安寺川西遺跡、三光遺跡を中心に出土した縄文時代中期の深鉢形土器などを展示した。

（２）では、甲府市教育委員会の発掘で、平安時代の馬の全身骨格・頭骨が検出された朝気遺跡、八ヶ岳南麓で最古の弥生時代後期の周溝墓群が発見され、副葬品の鉄剣や鉄釧とともに、注目されている北杜市教育委員会の頭無Ａ遺跡、南アルプス市教育委員会・山梨文化財研究所の調査で、平安時代～中世とされる墓から出土した青銅製和鏡や須恵器窯の存在をうかがわせる窯内の礫が付着した須恵器片などが多量に発見された野牛島・西ノ久保遺跡、甲州市教育委員会が、県史跡「武田勝頼の墓」を保存修復中に、法華経などが書き込まれた「経石」が約5400点も発見され、話題になっている景徳院、都留市教育委員会で調査した武田氏の時代に活躍した小山田氏が建立されたと言われている中津森館跡や地中レーダー探査等が行われた謎の多い勝山城跡からそれぞれ出土遺物や写真を借用して展示した。

（３）では、土器づくり等の体験学習を支援する出前支援事業、中高生の職場体験学習、先生のための文化財活用支援講座、遺跡発掘体験セミナーなどの様子を写真・新聞記事等で紹介した。（４）では、2007年度中に県内各地で発掘され、新聞報道された記事を集め紹介した。また、今回は北杜市長坂町の酒呑場遺跡から、縄文ダイズ圧痕をもつ蛇体把手付き土器を発見した研究の成果も展示・紹介した。

これらの展示を通して、県民の皆様に埋蔵文化財への理解、郷土山梨への歴史認識を深めていただくことができたと考えている。

9　埋文やまなし

第27号

本号では、「発掘が語る風林火山」と銘打ち、武田信玄に関連する遺跡の特集号とした。巻頭では、南アルプス市二本柳遺跡から出土した兜の前立てを紹介し、そのほか武田氏の館跡である武田氏館跡（甲府市）、武田勝頼が築いた新府城跡（韮崎市）、武田勝頼の墓である景徳院（甲州市）、武田氏の懐を支えた金山の一つである湯之奥中山金山（身延町）などの発掘調査成果を掲載した。また資料普及課でおこなう出前支援事業のメニュー紹介や、先生のための文化財活用支援講座、貸し出しキット、発掘体験セミナーなどについて紹介した。

第28号

本号は、当センター資料普及課の事業の一つである「発掘体験セミナー」を特集した。平成16年度から開始した発掘体験セミナーのこれまでの開催遺跡や、参加人数等の実績を報告した。また平成18年度に開催した女夫石遺跡（韮崎市）や平成19年度に開催した朝気遺跡や甲府城跡（甲府市）・宮尾根C遺跡（北杜市）など、セミナーの様子を写真を用いて紹介しており、発掘体験セミナーをコンパクトに紹介した号となった。また、他の普及事業の開催報告やこれから開催するイベントのおしらせ等を掲載した。

第29号

本号は、「遺跡からみた山梨の地域性」と題し、平成19年度発掘調査を行った4遺跡について、速報を掲載した。具体的には静岡県の影響が色濃く見られる土器が多く出土した「玉川金山遺跡」、山梨県と東京都の県境に位置し、国の重要文化財に指定されている長作観音堂の前地と伝承のある「古観音遺跡」、発掘調査によって度重なる災害の痕跡が明らかになった「鰍沢河岸跡」、甲州三河岸の一つである「青柳河岸跡」である。また整理室だよりとして甲府城から出土した鉛製品について掲載した。

10　県指定史跡甲府城跡活用事業

県指定史跡甲府城跡は、都市公園舞鶴城公園としても憩いの場として親しまれてきた。1990（平成２）年より県土木部により舞鶴城公園整備事業が着手され、また2004（平成16）年には稲荷櫓が完成し、史跡公園としての整備が一段落した。近年においては観光名所として訪れる県内外からの訪問者も多く、利活用にむけた検討の必要性も増している。そのような状況の中、「現地にインフォメーション施設が無く利用しづらい」といった来場者の方々からの多数のご意見を反映して、出土資料の公開や甲府城のインフォメーションセンター的な要素を付け加えた内容で、稲荷櫓を活用して常設展示コーナーを設置した。それでも現地に専門職員が常駐していないこともあり、所管する学術文化財課や調査を実施した当センター、資料を保管する考古博物館には多数の質問や依頼がよせられており、一元的に対応できる機関の必要性もあることから検討が必要な段階にある。

当センターでは甲府城に関わる様々な調査等を継続的に行い、1590年代の築城以降長い歴史を育んできた甲府城の正確な歴史や姿を知り、次世代に伝えるように努めている。

甲府城保存活用等調査検討委員会

県教育委員会が主催する標記の委員会が平成17年度に発足し、甲府城に関わる歴史史料の充実や整備事業など広範な検討を行っていくことを確認した。

本年度は第５回を６月29日（金）に開催し、昨年度より検討を行ってきた大型鯱瓦の調査成果について報告を行い、築城期に位置づけられる瓦の検討を実施していくことによって建物像を検討することを確認した。第６回を３月４日（月）に行い、出土瓦の検討結果について報告を行った。次年度の報告書作成に向けた計画案が提示

された。

本委員会に関係し、近隣織豊城郭ならびに関連城郭出土の瓦類について検討を行うために現地調査を行った。6月21・22日に長野県の事例として、松本城、上田城、小諸城の調査を実施した。7月19･20日に群馬県の事例として、沼田城の調査を実施した。また、浅野氏関連城郭として1月15・16日に和歌山城の調査を行った。

講演会等

観光振興課より依頼があり、観光ボランティアガイド「甲府城御案内仕隊」養成講座として、5月13日に「甲府城の史跡や建造物」に係るテーマで講演を行った。城内踏査や常設展示等の紹介も合わせて実施し、情報の共有化を図ることに一役買った。

生涯学習推進センターと当センター主催によるやまなし再発見講座＆埋蔵文化財シンポ「平成の兵どもの城づくり」と題する講座を行い、県内各地で城館跡の保存整備が進む史跡の一つとして、3月5日に「甲府城跡を探る－県指定史跡－」を生涯学習推進センター・セミナー室、3月15日に特別講演＆シンポジウムを男女共同参画推進センター・大研修室において実施した。参加者の興味関心も深く、最新の情報を提供することができた。

啓蒙普及活動等

甲府城稲荷櫓において「甲府城発掘展－金箔瓦を探る－」と題して、4月6日から15日に特別展示を実施。築城期の大型鯱瓦の破片資料から全体像を検証。関連城郭に存在する鯱瓦と比較検討を行い、大型建物の存在をアピールする素材を提供。観光キャンペーンと重なったことから開館時間を午後8時まで延長して対応を行った。

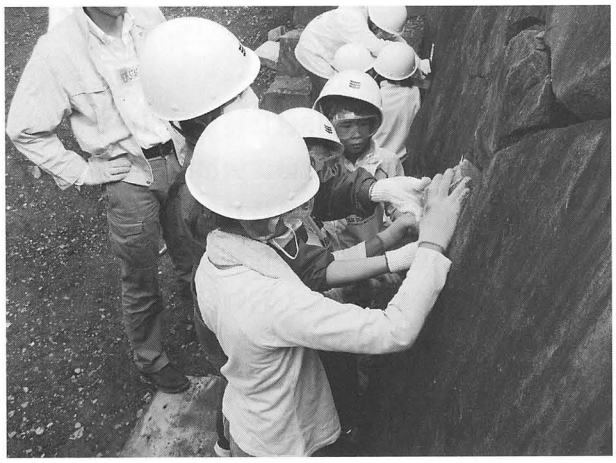
また、埋蔵文化財としての甲府城跡や石垣修繕工事について、その目的や意義、歴史や伝統的な石工技術に対する理解を深めてもらうために、城内の見所を掲載した印刷物の作成、一般を対象にした石割・詰石体験や見所ツアーを開催した。印刷物については、文化庁の補助事業である埋蔵文化財保存活用整備事業の一環で、財団法人柳沢文庫保存会のご協力の下、絵図を基にした下敷きを製作し、次の事業で活用した。また石割・詰石体験事業については、公共事業のイメージアップの一環として土木部・施工業者と協力して実施したもので、見所ツアーと同様に埋蔵文化財センター発掘体験セミナーの一事業として実施した。内容は以下のとおりである。

平成19年10月20日（土）10：00～12：00「県指定史跡　甲府城跡で石割に挑戦！」と題して、石垣の石材を作る作業の一環としての「石割」や、石肌の面を調整する「ハツリ」、また実際に石垣の修繕工事で実施している「詰石」といった石工技術の体験学習を行った。準備段階から当日の体験まで、熟練した石工職人や工事関係者の協力を得ながら、中世から現代に至る石割技術のデモンストレーションをはじめ、実技指導など幅広くご指導いただいた。当日は23名の親子が参加し、実体験をとおして楽しく学ぶ機会を提供した。

平成19年11月20日（火）県民の日13：00～15：00「探検してみよう！甲斐府中城のひみつ！」と題して、城内の見所探検ツアーを行った。導入として甲府城から発見された瓦や鉄製品などを実際に手で触れて実感するところから入り、遺構の分布や往時の痕跡など、絵図史料や発掘成果を基に現地を訪れながら解説を行った。当日は石切り場において、職人から道具などを利用して石工技術について臨場感あふれる解説や、参加した子供たちに矢穴や門跡の実測を行なうことにより規模など実感してもらう体験を行った。28名の参加があった。

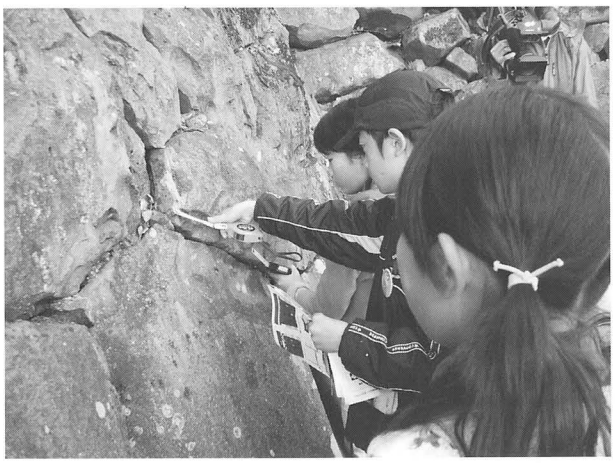
石割に挑戦：築城期の木製四寸矢のよる石割デモ

石割に挑戦:：石割にチャレンジ

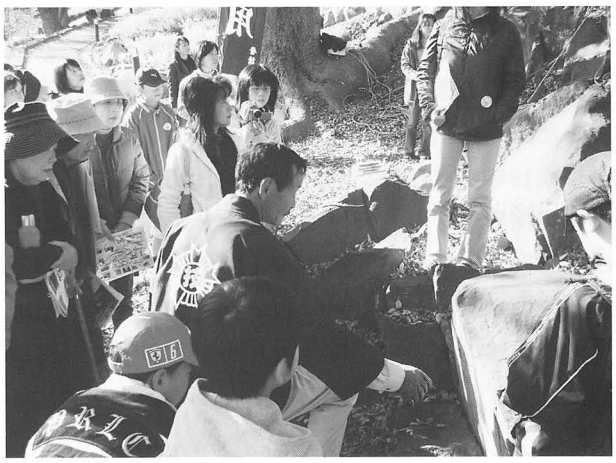


石割に挑戦：詰石を体験

探検甲府城：鉄門の実測



探検甲府城：矢穴を実測



探検甲府城：石工技術の解説(石工さんによる)

11　遺跡データ管理（ＧＩＳ）

今年度、新たに遺跡の発見や遺跡範囲の変更などがあったもので、遺跡情報管理システム（Geographic Information System）に登録した件数は７件であった。その内訳は、遺跡の発見（北杜市：上川手遺跡、市川三郷町：陣平遺跡）２件と、遺跡の範囲変更（笛吹市：竜安寺川西遺跡、都留市：美通遺跡、中央市：小井川遺跡、山梨市：延命寺遺跡、甲州市：西畑Ｂ遺跡）５件である。

12　発掘調査・整理作業の標準化に関する検討

平成16年度に文化庁がまとめた「行政目的で行う埋蔵文化財調査についての標準」を基に、平成17年度から各リーダーを中心に標準化案を検討してきた。17年度は各担当が、「試掘・確認調査」「集落調査」、「古墳の発掘調査」、「整理作業」、「報告書」に分かれて原案をまとめた。18年度はこれらの統合し、全体としての文章の統一を図った。そのため、新たに「基本事項」、「旧石器時代の調査」、「中世城館跡」を付け加えた。

統合は12月末に修了し、「山梨県埋蔵文化財センター発掘調査標準（案）」を学術文化財課に提示して、市町村担当者の意見を聞くため検討会を３回行ったが、検討中途で年度末を迎えた。

13　寄贈・購入図書

毎年約3､000～4,000冊が寄贈・購入されている。寄贈図書の内容は、全国の都道府県・市町村教育委員会から送られてくる発掘調査報告書・年報・研究紀要、博物館・資料館等の企画展・常設展の図録などである。そのほかに、業務に関する考古学・歴史学の専門書、学術雑誌を購入している。

平成19年度（2007年度）は、約3,000冊の図書を登録した。また、業務に関する考古学・歴史学の専門書、学術雑誌等は、41冊購入した。総登録数約81,000冊と大塚文庫約11,000冊と合わせ、約92,000冊が現在、収蔵されている。

登録された図書のデータは、図書データベース（マイクロソフト社データベースアクセス）で管理している。そして、図書データベースで蔵書の検索もできるようにしている。

年々増え続ける図書を収蔵するスペースが不足し、今年度は書棚設置場所を確保し、書棚を６棚増設したが、書架の設置場所も限界にある。新たな収納スペースの確保が非常に大きな課題であり、閲覧スペースを含めた新たな保管場所の整備等も強く望まれる。

年度別登録図書数

年　　度	新規登録図書	総登録数
平成９年度（1997）以前	－	37,252
平成10（1998）	3,842	41,009
平成11（1999）	4,252	45,351
平成12（2000）	3,515	48,886
平成13（2001）	3,314	52,180
平成14（2002）	3,395	55,575
平成15（2003）	4,141	59,716
平成16（2004）	1,256	64,790
平成17（2005）	4,453	69,240
平成18（2006）	2,505	71,745
平成19（2007）	2,884	80,827

＊大塚文庫を除く

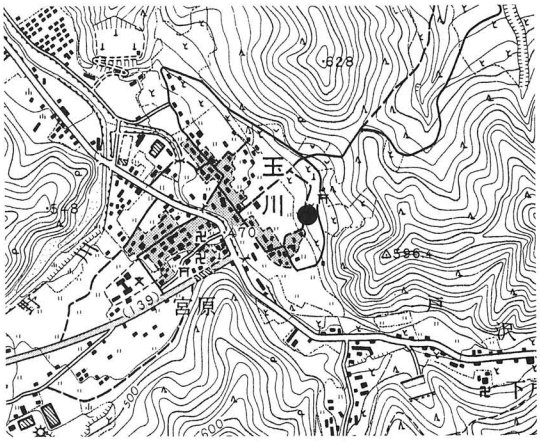
＊平成16年度よりアクセスデータ数（それ以前は台帳での数）

第Ⅱ章　各遺跡の発掘調査等概要

1　記録保存のための発掘調査

1－1　玉川金山遺跡（たまがわかなやま）

所 在 地　山梨県都留市玉川字上ノ原200－1他
事 業 名　都留バイパス建設事業
調査期間　2007年9月3日～2008年1月31日
調査面積　1,864㎡
調査担当　網倉邦生・酒井玄暁



玉川金山遺跡

玉川金山遺跡は桂川の支流戸沢川と菅野川が合流する付近の平坦地に位置する。遺跡の北側には縄文・古墳時代の散布地である玉川遺跡や縄文時代早期の住居跡が発見された生出山山頂遺跡、西側に縄文時代の散布地である宮原遺跡や「和同開珎」が出土した奈良・平安時代の三ノ側遺跡がある。

今回の調査は、一般国道139号都留バイパスの建設工事に伴う発掘調査である。平成15年度に玉川地区を対象にした試掘調査が行われ、調査の結果、縄文・平安・中世の遺物が出土したため、新規に玉川金山遺跡として周知した。発掘調査は平成16年度より行われており、今年度で4年目である。平成16～18年度の調査により、焼土集中50基・土坑248基・住居跡8軒・地下式坑1基・礫集中4基・溝状遺構107条・柱穴20基・集石6基・配石1基・石組2基が検出されている。

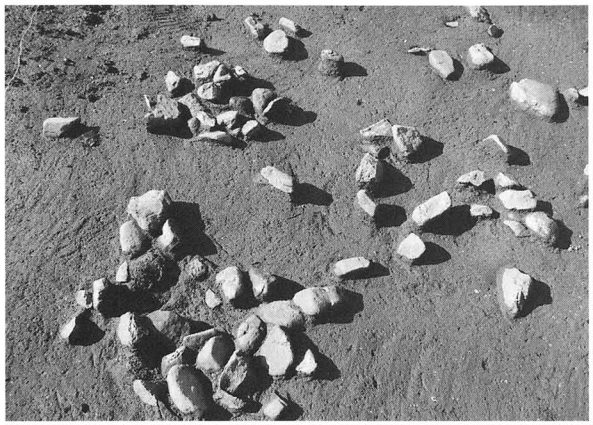
平成19年度の発掘調査は5区の第Ⅲ面と9・10区を対象として行った。また、12月に実施した工程会議により、調査を要する箇所が確認されたため、11区として調査した。調査の結果、平成16～18年度調査と同様に3つの遺構面が確認され、第Ⅱ面の下において遺構面（第Ⅱ面下）が検出され、第Ⅲ面として認識していた面の上層である暗褐色土層の上面からも遺構が確認された。各面ごとの成果は次の通りである。

第Ⅰ面は灰褐色土で構成され、深さは地表下約1mに位置する。ただし、10区では削平されていたため、この遺構面は確認されなかった。この面は中近世に比定されるが、今年度の調査では遺構・遺物は確認されなかった。第Ⅱ面は黒褐色土層で構成され、深さは地表下約1.4～1.6mに位置する。この面からは土坑11基・溝状遺構4条が検出された。この面は中世に比定される。第Ⅱ面下は褐色土で構成され、深さは地表下約1.7～1.9mに位置する。この面からは土坑1基・溝状遺構3条が確認された。この面は奈良時代に比定される。第Ⅲ面上は暗褐色土で構成され、深さは地表下約1.7～1.9mに位置する。この面からは焼土集中2基・土坑2基・礫集中2基・集石3基・配石1基が検出された。この面は縄文時代早期に比定される。この面からは縄文時代早期後半における鵜ヶ島台式期の完形土器が確認されている。また、黒曜石の原石が数点出土している。

第Ⅲ面は明茶褐色土で構成され、深さは地表下2.8～3.1mに位置する。この面からは焼土集中1基・土坑51基が確認された。この面は縄文時代早期に比定される。土坑の内、26基は底面が焼けているか、焼土が堆積しており、炉穴であると判断できる。また、19基は平面形がアメーバ状を呈し、3基以上の炉穴が切り合っており、廃絶と再構築を繰り返し使用したことが分かる。炉穴からは子母口式併行期の土器が出土している。土器型式にばらつきがないことと、複雑に炉穴が切り合っている状況から、限定された時間幅の中で使用・廃絶された遺構であると評価できる。

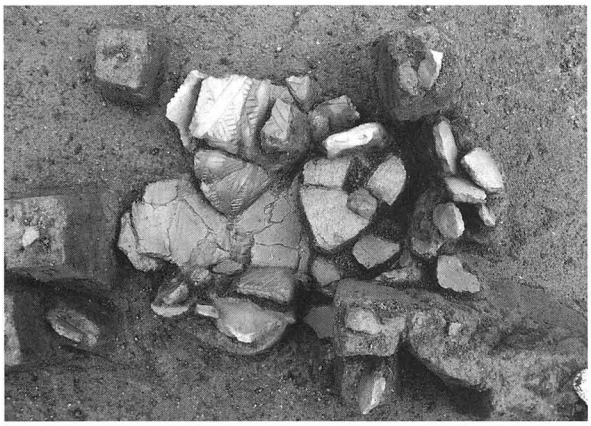
調査の結果をまとめると、中世・奈良時代の遺構は調査区に広く分布し、縄文時代早期の遺構群は調査区の東側に集中していることが分かった。基本的に旧地形は現在とほぼ同じ傾斜を有し、炉穴の覆土内から確認される焼土は、炉穴の東側（山側に当たる）から検出されることが多い。これは自然地形を利用して炉穴を構築した結果だと言える。また、時期幅が限定された遺物を検出したことは、今回の調査における成果と言える。

また、遺構が調査区の外側に広がることから、隣接地について開発や工事を行う際には発掘調査が必要である。

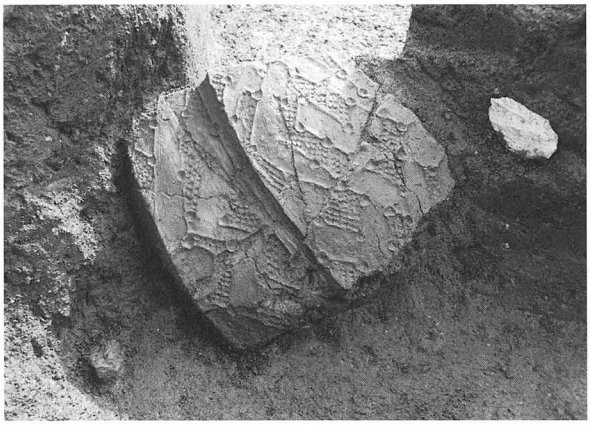


5区　第Ⅲ面上面　1号集石検出状況

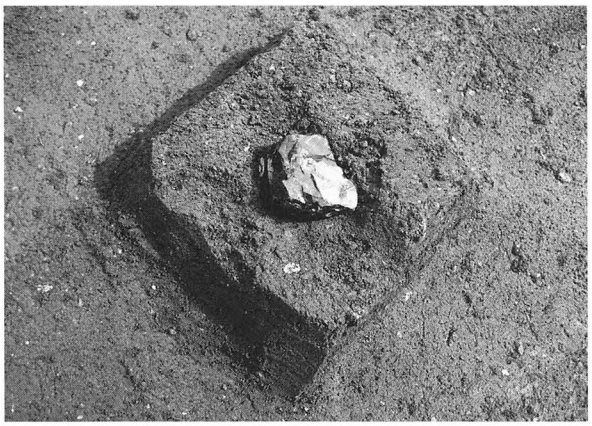
11区　第Ⅲ面上面　1号集石検出状況



5区　第Ⅲ面上面　土器出土状況1



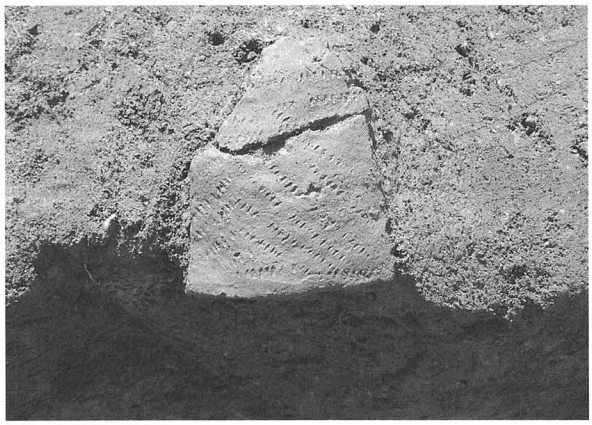
11区　第Ⅲ面上面　土器出土状況2



5区　第Ⅲ面上面　黒曜石出土状況

5区　第Ⅲ面下面　炉穴検出状況1

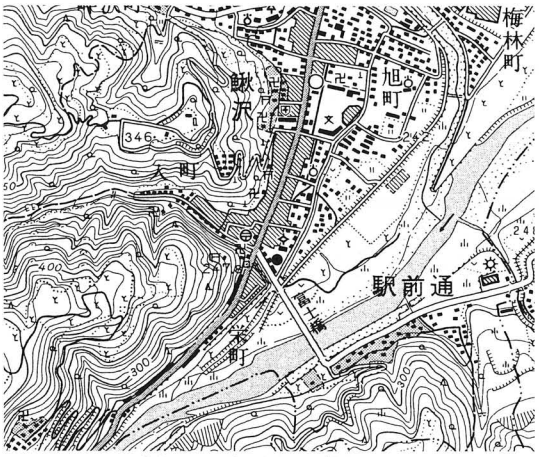
11区　第Ⅲ面下面　炉穴検出状況2



5区　第Ⅲ面下面　土器出土状況

1－2　鰍沢河岸跡（かじかざわかしあと）C

所 在 地　南巨摩郡鰍沢町八幡1513－３外（横町地区）
事 業 名　一般国道52号改築（甲西道路建設）事業
調査期間　2007年５月28日～８月３日
調査面積　約340㎡（約170㎡×2面）
調査担当　保坂和博・堀込紀行

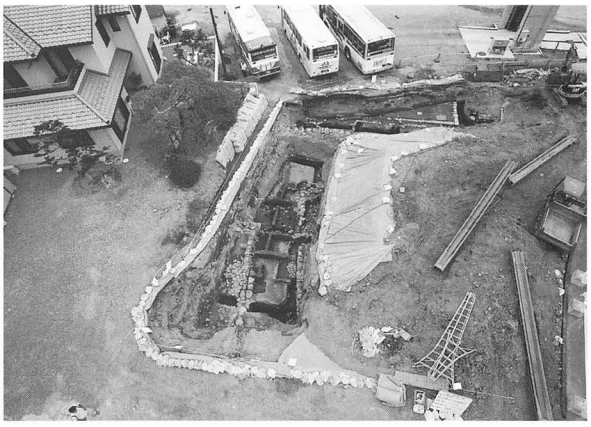


鰍沢河岸跡C　位置図

鰍沢河岸跡は、甲府盆地の二大河川である笛吹川と釜無川の合流地点より3km下流の甲府盆地南西端、標高244mに所在する。鰍沢河岸跡は1614（慶長19）年京都の豪商、角倉了以によって開削された富士川舟運の拠点的な河岸（川の港）であり、青柳河岸（増穂町）、黒沢河岸（市川三郷町）とともに「甲州三河岸」と呼ばれ、江戸幕府の直轄領である甲府盆地一円の年貢米を江戸へ廻送するため、廻米を集積する米蔵が幕府により設定された。また、陸上交通路の駿州往還の拠点である宿駅も設置されたことから、陸路、水路の要衝として繁栄を極め、1928（昭和３）年の富士身延鉄道（現在のJR身延線）の全線開通により舟運の役目を終えるまで甲府盆地の経済・文化の玄関口としての役割を担っていた。鰍沢河岸跡の当センターによる発掘調査は、1996（平成８）年の富士川堤防改修事業（明神白子護岸建設）に先立つ調査に始まり、2000（平成12）年度から2004（平成16）年度の白子明神地区宅地水防災事業に伴う調査「鰍沢河岸跡A区」、2000（平成12）年度から今年度までの一般国道52号線改築（甲西道路建設）に伴う調査「鰍沢河岸跡B区・C区」を実施してきており、今年度が最終年度となる。これまでに行われた調査の成果としては、鰍沢河岸の中核をなす年貢米を集積した御米蔵跡や口留番所、年貢米の荷積み台跡、御役人のための御詰所跡、駿州街道から御米蔵跡に至る道路跡、船宿の商家が集中した河岸問屋街などをはじめ、江戸時代から明治時代にかけての大規模な土地造成の痕跡や石垣などが検出され、遺物については、土器・陶磁器・瓦のほか、「甲州金壱分判」、「南鐐二朱判」などの銭貨や金属製品（装飾品・生活用品）などが出土している。2007（平成19）年度の調査は、2005（平成17）年度から引き続き、鰍沢河岸の運営に係わる商人の居住地域とされる河岸跡最北端に位置する横町地区「鰍沢河岸跡C区」において２層にわたり延べ約340㎡で実施され、石垣６基、石列５基、集石３基、埋甕１基、土器集中区１基、道路１基、建物跡１基、礎石１基、瓦集中区１基、廃棄帯１基の総数21基が確認された。主な検出遺構として第１面では、昭和30年代中頃の造成により埋め立てられた石垣、石列、道路、建物礎石などが検出され、幕末から明治初期以降の陶磁器などの出土遺物から当該期に帰属するものと考えられる。第２面では、文政４（1821）年１月16日の鰍沢文政大火で焼け出された陶磁器などが一括廃棄された土器集中区や対面する石垣の間から被災した陶磁器や建築部材の混在した焼土が一括投棄され、片づけられた二次的な状態で検出されている。特筆される遺物としては、「元禄一分判金」が、建物基礎の石垣脇から発見されている。鍛造加工による短冊形の板金で、縦16.5mm、横10mm、厚さ1.2mm、重さ4.44ｇ、金の含有量は約56.6%（雑分は銀）である。表面は長方形の圏点に囲まれ、その上部には扇枠に桐紋が、中央には横並びで右から左に「一分」の文字が、下部には裸桐が配されている。裏面向かって右上端に見える「元」字銘から「元禄一分判金」と特定され、「元」字は、書体が寸づまりの「短元」と称されるものである。裏面には幕府の「御金銀改役」だった後藤庄三郎光次の「光次（花押）」極印が見られ、裏面および両側面には、両替商が包封した際に打刻した、自家の験極印が幾つか見られる。

これまでの調査成果同様、今年度の調査においても埋没した石垣が検出され、度重なる洪水や氾濫に対応するため、石垣を築き盛土による嵩上げを繰り返し行なった状況が明らかにされるとともに「甲州金壱分判」や「元禄一分判金」などの出土は、いずれも建物基礎の石垣脇から発見されていることから、家や蔵を建てる前に繁栄の祈りを込めて大地に奉納されたものと考えられ、幾多の災害にの中、当地に生き続けた人々の祈りのこころを知る大変貴重な資料を得ることができた。

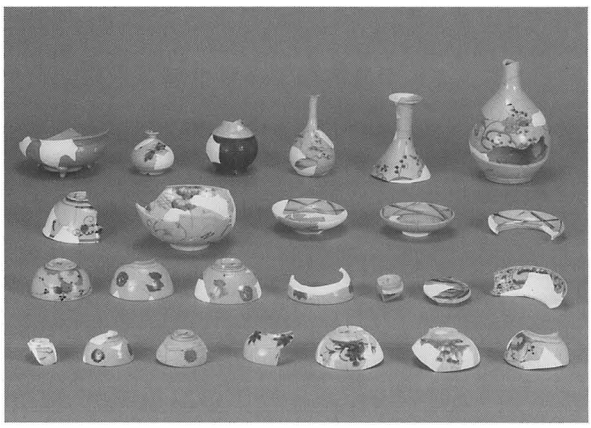
調査区全景（東から）



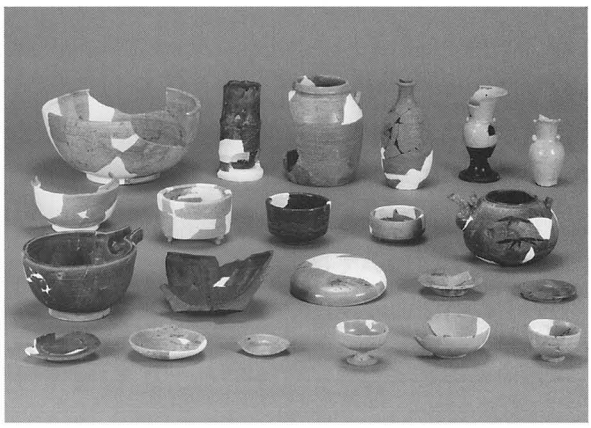
調査区全景（南から）

１号土器集中区検出状況

文政大火に伴う焼土層堆積状況



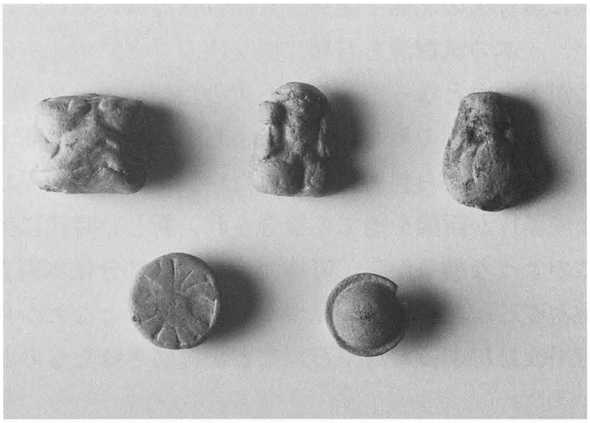
１号土器集中区出土遺物（磁器）



１号土器集中区出土遺物（陶器）

（表）　　（裏）

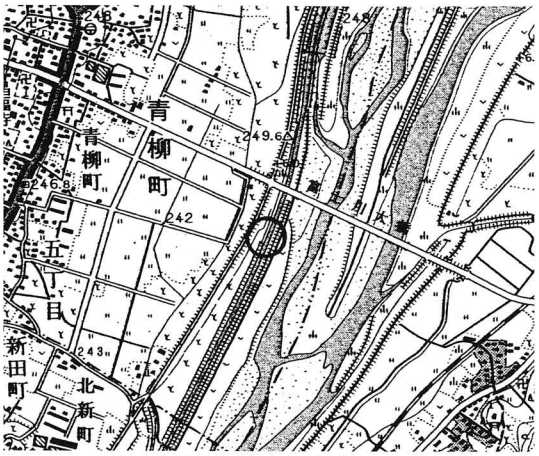
元禄一分判金



土製品（泥めんこなど）

1－3　青柳河岸跡（あおやぎかしあと）

所 在 地　山梨県南巨摩郡増穂町青柳地内　富士川河川内
事 業 名　富士川築堤護岸工事
調査期間　2007年６月４日～９月27日
調査面積　2,250㎡
調査担当　山本茂樹・猪股一弘



青柳河岸跡　位置図

平成15年度に160,000㎡の試掘調査を実施し、その結果、埋蔵文化財の発掘調査が必要な面積2,250㎡を本年度実施した。

６月４日から同月22日まで重機による表土掘削を実施し、７月10日には、現地に発掘用器材を搬入し、11日から発掘調査を開始した。

試掘調査で既に確認されていた土堤状の高まりの位置と、土堤状の斜面に多量の陶磁器類を確認するとともに、発掘調査の際、重機掘削により調査区内の北側で新たに東西方向へ延びる石垣が確認された。

土堤状の高まりについては、青柳河岸本体に続く東西方向へ延びる道の上に存在し、砂を盛って構築されていた。そして構築の際、道の部分が広く掘削されていたことが明らかとなった。

この砂を盛った中には、陶磁器片や自転車のペダルなどが見つかり、土堤の斜面上に存在していた多量の陶磁器類やガラスビンの中には、電線を巻きつけた碍子（がいし）や薬ビン、ワインビン、瓦片などもあり、時代的には明治時代から昭和にかけてのものと思われる。

碍子については、増穂町、鰍沢町に電気が灯るのは明治40年であり、おおよそその時期のものと考えられる。また、出兵の際の「杯」も見つかっているので、昭和16年以降のものと考えられる。

このことから、斜面に存在しているものは、昭和16年以降のものと考えられる。磁器片については、明治時代のものも含まれていた。

青柳河岸跡は、寛永15年に御米蔵が建設され、明治26年に青柳運輸会社となり明治36年解散に至っている。その後、明治38年には御米蔵が移設されたことから、土堤状の高まりは、38年以降から昭和16年頃までの間に造られた構築物と考えられるが、その性格は現段階では不明である。

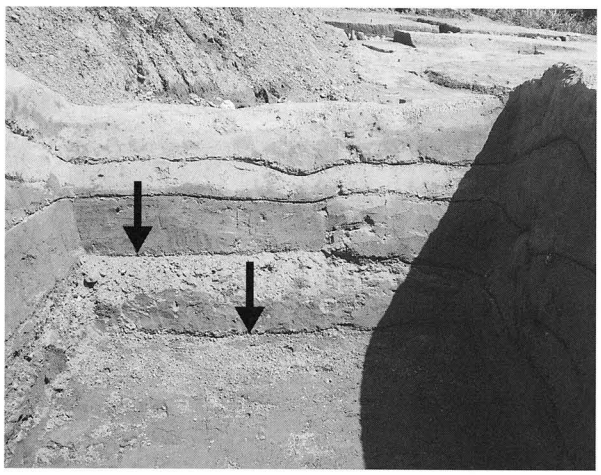
土堤の下の道については、３面存在していたことが明らかとなった。第1面は土堤状の直下に硬化面が確認され、その下に第２面の硬化面が、さらにその下には第３面の硬化面が確認された。この３面からは、江戸時代の磁器片が１点ではあるが出土し、一緒に瓦片も確認されたことにより、該期に属する面と考えられ、１面および２面については、一部分を残し広く掘削されていたため、時期的には現段階では明らかではないものの、出土遺物から明治時代頃と考えられる。

次に調査区の北側で発見された東西方向へ延びる石垣であるが、石を確認した時点では畑の地境の石と思われたが、４本の試掘溝を石列に直交するように南北方向に設定し掘り下げたところ、北側に面をもつ石垣であったことが明らかとなった。この石垣の性格については、江戸時代末から明治時代の初期頃に描かれた絵図や明治21年の陸地測量部の地図からでは、石垣の存在は確認することはできず、構築時期については、今後の整理作業により出土遺物から判断していきたい。ただし、土堤状の高まりから見つかっている陶器片と、石垣周辺から出土した陶器片が距離を隔てて接合され、新しい時代に築かれた石垣と判断される。

このような結果から、青柳河岸の本体部分は本調査区の東側に存在しているものと思われ、試掘調査結果からも建物礎石が並んで３個見つかっていることなどからも明らかとなった。そして、本調査区は、近接した五明川の河川改修によって道や石垣などが掘削されたものと判断される。

土堤状の高まりの調査１

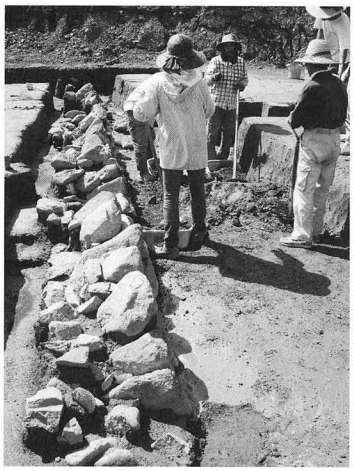
土堤状の高まりの調査２



土堤状の高まりの下に存在する硬化面

土堤状の高まりの調査３

石垣の状況（左に富士川）

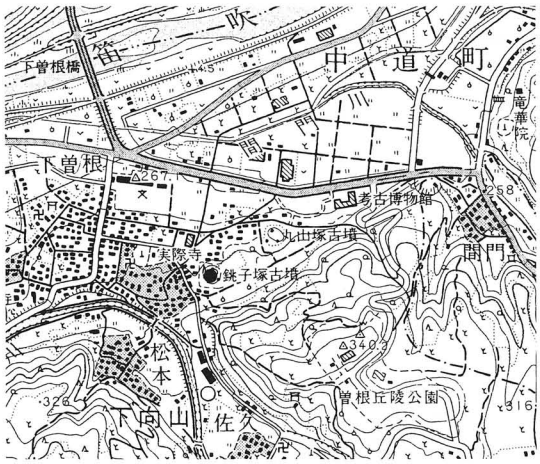


石垣の調査（手前に富士川）

2　整備事業に伴う調査

2－1　国指定史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳（くにしていしせきちょうしづかこふんつけたりまるやまづかこふん）

所 在 地　甲府市下曽根町字山本外
事 業 名　史跡等環境整備事業
調査期間　2007年４月１日～2008年３月31日
調査面積　約92㎡
調査担当　笠原みゆき・上野桜



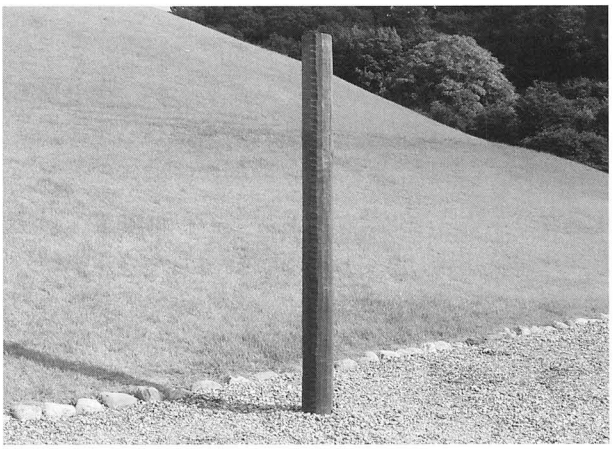
銚子塚古墳　位置図

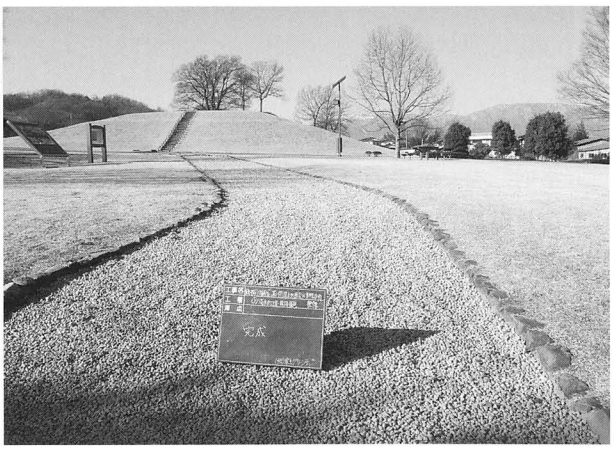
銚子塚古墳は、山梨県甲府市南部（旧中道町）に所在し、甲斐風土記の丘・曽根丘陵公園内の北西に位置する。この場所は、甲府盆地南縁に、東西に延びる曽根丘陵の東端の一角にあたり、古くからたくさんの遺跡が確認されている地域である。

古墳は４世紀後半に築造され、全長は169m、県内では最大、東日本でも最大級の前方後円墳である。墳丘の周りには周濠がめぐり、墳丘には葺石や埴輪が確認されている。また、墳丘端では突出部や立柱が発見され、周濠内からは、木製品・埴輪・土器などの貴重な遺物も発見されている。昭和５年に隣接する丸山塚古墳とともに国指定史跡に登録された。

史跡整備は昭和58年から昭和62年度の第１次整備と平成13年から平成19年度の第２次整備の２度に分けて行われ、今年度は、第２次整備の最終年となる。史跡の西側と北側に一部未整備地を残してはいるが、史跡地内の整備がこれで、ほぼ完了することになった。第２次整備の大規模な工事は平成17年度に行われ、墳丘の成形・芝張り、周濠の復元、突出部の復元などを行い、古墳を歩いて全周することができるようになった。平成18年度には、老朽化した古墳案内板の撤去・新設、遺構・遺物などの解説板の設置を行い、利用者への利便性の向上に努めた。

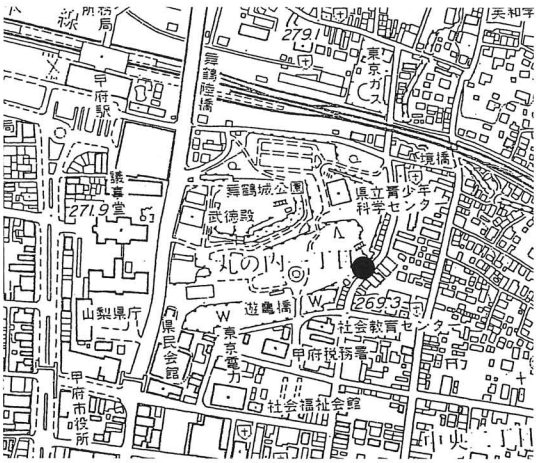
今年度については、立柱の復元・設置、史跡境界標の設置、総合案内板の改修、史跡西側の滞水処理および園路の滞水処理と砂利補填など史跡内の環境整備を行った。立柱は、地上に2m70cmの高さで、甲州市産のスギ材を、古代の大工技術を想定しながら復元した。加工については、機械を一切利用しない方法をとり、出土位置に設置した。総合案内板は、盤面のみの改修であるが、第1次整備以降の史跡周辺の情報を盛り込んだ内容となっている。史跡境界は、史跡範囲の北側から西側にかけて民地との境界を明確にし、史跡内の環境整備向上のために設置した。史跡西側と園路には、雨天後などに滞水がみられ、その環境改善のために行ったものである。暗渠管を埋設し、既存の排水管に接続することによって、地表面にみられる滞水を緩和する方法で設置した。


復元立柱設置状況


園路の滞水処理完了状況

２－２　県指定史跡甲府城跡（けんしていしせきこうふじょうあと）

所 在 地　甲府市丸の内１－６－１
事 業 名　舞鶴城公園石積補修事業
調査期間　2007年７月19日～12月28日
調査面積　約711㎡
調査担当　野代幸和・上原健弥



甲府城跡　位置図

県指定史跡甲府城跡では、県土木部が「舞鶴城公園整備事業」として平成2年度から園路・広場・電気・給排水・便益施設等の整備や、鍛冶曲輪門・稲荷門・内松陰門・稲荷櫓の復元に連動した発掘調査・石垣改修工事を実施している。

本年度は、８月に稲荷曲輪石垣の補修工事を実施した。当該地点では、一部で盛土が流出している状況が確認されていたことから、盛土流失防止対策を行った。また、石垣の天端が揃っていない状態であったため、石材を３点追加する工事も併せて実施した。

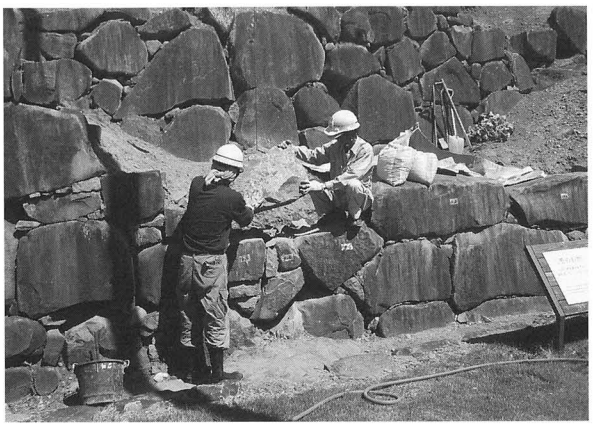
また、平成17年度より実施している石垣の維持管理事業として、鍛冶曲輪・数寄屋曲輪東面石垣で石垣補修工事を実施した。本石垣は、築城期の野面積み石垣が残る場所で、内堀に面していた部分にあたる。当該石垣は、築城以後の大きな改修はないが、土塀の補修に伴い天端石を中心に積み直しと、詰石の落下防止の補強工事が一部行われている。また、戦後の市街地化のなか、石垣に面して店舗が立ち並んでいた時期もあったことから、石垣にコンクリートの付着や生活雑器の混入が確認された。これまでに補修工事を実施した天守台等と同様、明治以降の維持管理がなされていないため、詰石の欠落・石材の破損・孕みといった傷みが生じていた。この石垣は道路に面しているため、工事では、文化財の保存と安全性の確保を目的として、県土木部と県教育委員会が協力しておこなった。工事は、詰石や裏栗石の補充を中心とした作業を実施し、石垣の補強と保存に努めた。

石垣部分の工事期間は、８月から11月初旬までのおよそ３ヶ月で、対象となった石垣の面積はおよそ711㎡である。現場では、工事に先行する形で事前調査を実施して、傷みの状態とその原因や施工方法等をカードに記入し、写真撮影と併せて現状の記録とした。調査の結果、施工対象地点は2538ヶ所にも上り、施工面積711㎡に対する面積比から0.28㎡につき１ヶ所であった。これを平成17年度実施した天守台東面と比較すると2.5倍に、平成18年度の二の丸西面石垣とは1.6倍になっている。また、石垣面積と施工面積から施工面積率を割り出すと、今年度は天守台の1.9倍、二の丸の1.6倍に増加している。今年度では、工業製品を使用した補強や割れ部分の除去作業を過去に比べ多く実施しており、これまでの施工地点に比べて石材自体の傷みが激しかったことが施工数・施工面積の増加につながったと考えられる。

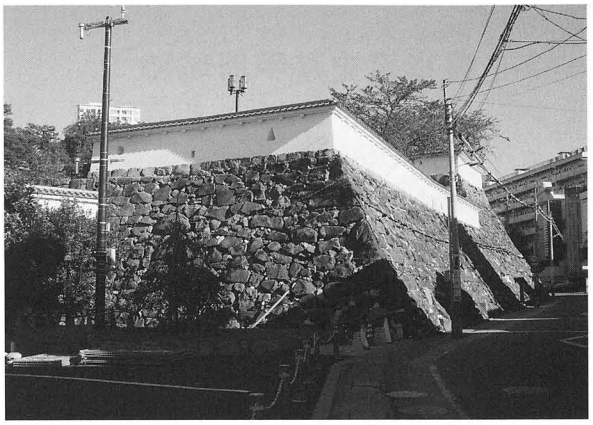
石垣の清掃中に隙間から遺物が発見されている。出土した瓦は、土嚢袋５袋分で、軒丸・軒平瓦に加え、輪違い瓦や谷瓦も出土している。土製品は、ニツケータン２点で、昭和16年以降に流通していたものである。七輪の底上げをして燃料（炭）を節約するために作られたもので、「国策炭」や「火玉弾」の名称で知られている。その他、鉄製品では角釘とハラシヤなどが発見されている。

補修工事期間中に、落石防止のための応急措置工事を実施した。施工石垣は、補修工事石垣の南側で、鍛冶曲輪南東面にあたる。全体的には安定した石垣であり、また緩衝地帯もあることから、施工対象外となっていた。しかし、２ヶ所で落石の危険が想定されたため、この石材の交換・補充作業を実施した。

また今年度は、本事業に関連して２つの委託業務を行った。昨年同様に、石垣の３次元測量、定点測量を実施し、施工前後の石垣立面図作成を行うことで作業の効率化を図った。なお、この定点観測測量は、石垣の変異変形の経過観察をする目的で実施したものである。また、補修工事中の調査過程において、線刻画が２石発見したため石材の保存処理を実施した。



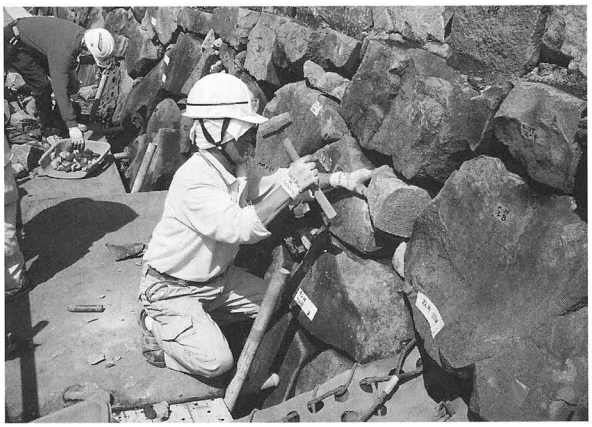
稲荷曲輪石垣の補修工事



鍛冶曲輪・数寄屋曲輪東面石垣（施工後）

補修工事の施工事例（施工前）

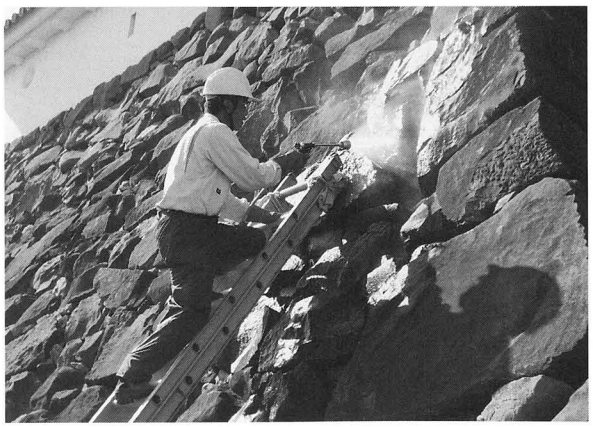
補修工事の施工事例（施工後）



補修工事作業状況

落石防止応急措置工事（鍛冶曲輪K-30）

石垣測量作業状況



線刻画保存処理状況

3　分布調査

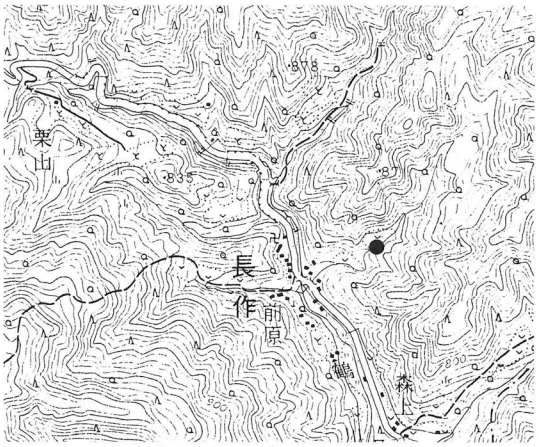
やまなしけんないちゅうせいじいんぶんぷちょうさ
山梨県内中世寺院分布調査

3－1　古観音遺跡

所 在 地　北都留郡小菅村長作古観音地内
事 業 名　山梨県内中世寺院分布調査
調査期間　2007年９月18日～９月25日
調査面積　55㎡

遺跡は、小菅村と東京都奥多摩町の県境に位置する三頭山の南西で、鶴川の支流である神楽入沢支流の左岸に所在する。遺跡は、国の重要文化財である長作観音堂がかつて所在していたと伝承の残る地点である。長作観音堂は、鎌倉時代後期の建造物であるが、元は長谷寺の観音堂であった。しかし長谷寺は明治時代に廃寺となり、その後は長作地区で管理・運営を行ってきた。地元には信仰にかかわる地名や伝承が多く残るものの、長作観音堂の背景についてはほとんど明らかになっていないため、詳細を知る目的で発掘調査を実施した。

発掘調査は、テラス上に6m×6mのトレンチを設定し、掘り下げを行った。その結果、中世もしくは近世の確認面で、南北２間、東西１間の礎石建物跡を確認した。礎石の石材は、他地域から搬入されたものである。さらに建物跡の東側では２ｍ×２ｍの方形の集石遺構２基を確認した。礎石建物跡の下層からは、広範囲で焼土跡が確認され、それに伴って平安時代の甕片が出土した。今回確認した礎石建物跡は長作観音堂とは規模が異なっており、直ちに前地とは断定しがたい。今後さらに資料を蓄積する必要がある。



古観音遺跡　位置図

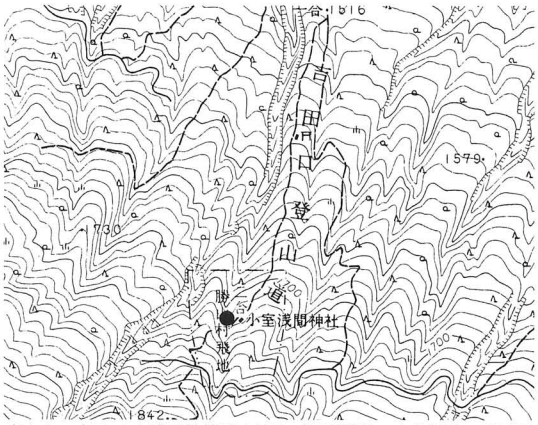
古観音遺跡

3－2　富士山二合目冨士小室浅間神社境内地及び行者堂跡・定善院跡

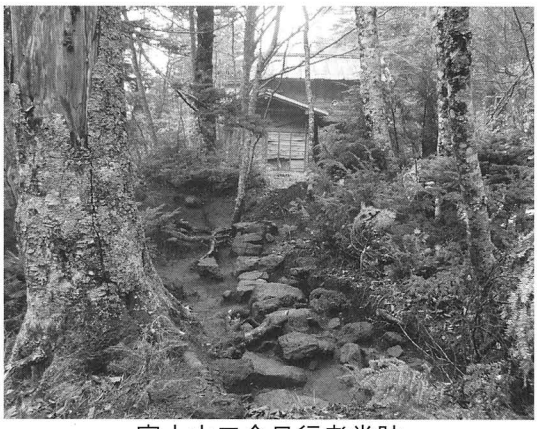
所 在 地　南都留郡富士河口湖町勝山3953－１
事 業 名　山梨県内中世寺院分布調査
調査期間　2007年10月11日～31日
調査面積　82㎡

遺跡は、富士山登山道のうち富士吉田市に起点を発する吉田口登山道二合目の、冨士小室浅間神社境内地西側の登山道沿いに所在する。江戸時代末に描かれた複数の絵図・文献資料等から、この地点には奈良時代に甲府盆地から富士山までの登山道を開いたといわれる修験道の祖「役行者」を祀る行者堂が所在したことが伝えられる。今回の調査では、行者堂の創建年代やより詳細な建物構造について等の基礎資料を得ることを目的としている。

発掘調査では、確認面まで人力による掘削を行った。その結果、調査区西側において、現在の登山道に沿うように、北東から南西



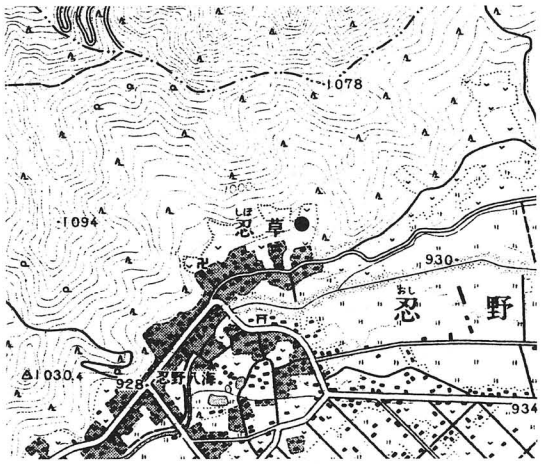
富士山二合目 小室浅間神社境内地及び行者堂跡・定善院跡　位置図


富士山二合目行者堂跡

方向へのびる石列を確認した。石列は人頭大より一回り大きな礫を用いており、全長は約7.1mを測る。谷側である北西方向に平坦面を向けている。絵図にはこの石列の記載は見られないが、行者堂の範囲を区画する石列の一部ではないかと考えられる。また石列に沿った北西側包含層からは、近世のかわらけ・陶磁器・銭・鉄製品など約400点が出土した。石列を検出した位置を勘案すると、行者堂は現在の登山道にかかって建っていた可能性もあるのではないかと思われる。

3－3　中尾根遺跡（東円寺前地地点）

所 在 地　南都留郡忍野村忍草487番地外
事 業 名　山梨県内中世寺院分布調査
調査期間　2007年11月１日～11月22日
調査面積　74㎡



中尾根遺跡　位置図

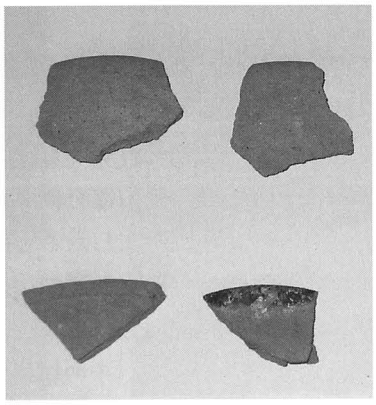
今回調査対象となった東円寺は、鎌倉時代初頭まで南泉寺と称し、その後正治元（1199）年に東円寺となったと伝えられる。忍草浅間神社の別当寺であり、文保四（1320）年銘を持つ正観音像を所蔵するなど、富士山麓の核となる寺院の一つである。東円寺は近世に台風の被害により現在地へ移転しており、今回は中世段階の所在地等を確認するために発掘調査を行った。

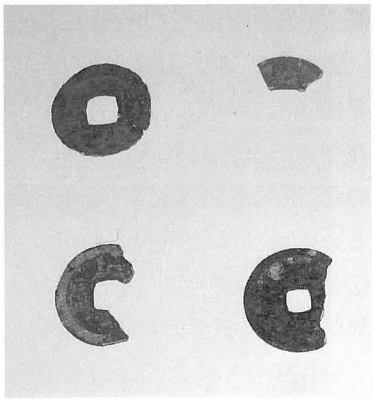
遺跡は、忍野村東部に連なる山々の一つ、高座山の西に位置する鳥居地峠南麓の扇状地上に所在する。調査は、高座山麓の傾斜変換点で、連続するテラス上及びそれより東側のテラス下で行った。この地点はすでに平安時代及び中世の遺跡である中尾根遺跡として周知化されている箇所である。調査では、合計９本のトレンチを設定した。このうち東側地点にはテラス下に３本のトレンチを、西側地点には６本のトレンチを設定し、人力により掘り下げを行った。

中尾根遺跡

調査の結果、東側地点ではいずれのトレンチでも地表下0.3m～0.5mの地点で黒褐色土層が確認され、平安時代の土器片が出土した。黒褐色土層の下層は、スコリアが混入する茶褐色土層で、平成９年度に忍野村教育委員会により発掘調査が行われた笹見原遺跡の平安時代の確認面と同一の層位であると思われるが、今回は遺構の確認には至らなかった。一方西側トレンチでは、東側より自然堆積の様相を顕著に確認することができたが、東側トレンチで確認した黒褐色土層中からは遺物の出土は見られなかった。上記のような結果から今回の調査地点においては、前段階の東円寺の痕跡を確認することはできなかった。

古観音遺跡現地説明会の様子

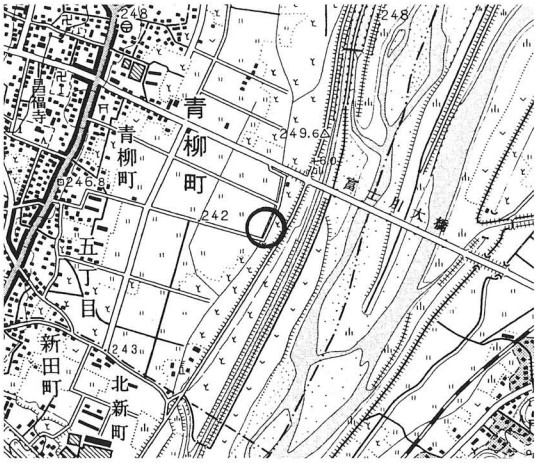

富士山二合目出土土器


富士山二合目出土銭

4　県内分布調査

4－1　防災ステーション建設事業に伴う試掘調査（青柳河岸跡）

所 在 地　南巨摩郡増穂町青柳地内
調査期間　2007年５月24・28日、11月27・28日
調査面積　第１回約80㎡、第２回約786㎡（調査対象面積6,600㎡）
担 当 者　山本茂樹・猪股一弘



試堀調査　位置図（青柳河岸跡）

国土交通省が計画している増穂町の防災ステーション建設に伴い、2007年５月24日、28日の両日において第１回目の試掘調査を実施した。

第1回目の試掘調査は、６本の試掘溝を設定し、現地表から2.40～2.60mまで掘削したところ青灰色粘土層が確認され、この層は湿地帯に存在している層であることから、この青灰色粘土層まで一部を掘削し、この層の上層で遺構確認に努めた。

周辺で発掘調査が行われた「町屋口遺跡」では、度重なる洪水により水田面の上層には砂が堆積し、更に上層では水田を営むために床土（粘土）が敷かれていた。今回の試掘調査では、このような砂層がシルト層の上面には存在しておらず、遺構も確認されなかった。

第２回目の試掘調査では、11本の試掘溝を設定し、前回の試掘調査結果に基づきこの青灰色粘土層を基本として、この層の上層で遺構確認を行った。この地域では青色の粘土層が広く堆積していることが明らかとなっており、この層及び青灰色粘土層以下には遺構が存在していないことが明らかであったため、粘土層の上層で遺構の確認を行った。

用地取得箇所では、地表下約2.50～2.90mで青灰色粘土層の広がりが確認され、堆積土層については、各試掘溝では同一の堆積を示している。掘削面の壁の精査を行い遺構確認に努めたが、各試掘溝では遺構は確認されなかった。

また、遺物については、関連する遺物の存在はなく明治時代よりも新しい陶磁器類が数点見つかったに過ぎない。これらの陶磁器類は小破片であり、河川などの氾濫により流れてきたものと考えられる。

「河岸お蔵道」については、現道の脇を掘削したが道は確認されなかったことから、この道は現道の下に存在しているものと考えられる。しかし、南北方向の道については、隣接する河川の西側に水田が広がっているものの、この河川に沿って畑が延びていることからこの下に道の存在が想定される。

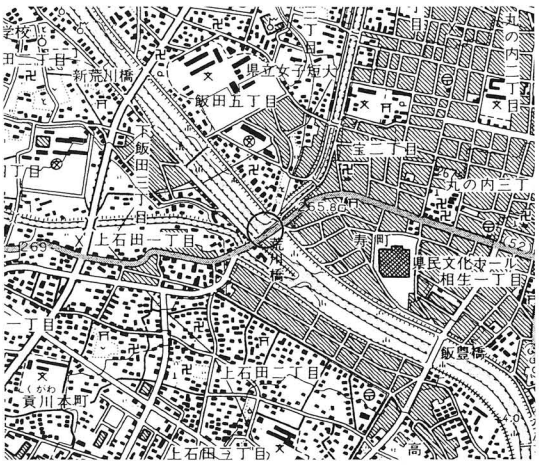
また、東西方向の「河岸お蔵道」に関しては、中部横断道路建設に伴う試掘調査を実施したが、現道の下に道が存在していることがほぼ明らかなため、本地点においても現道の下に存在している可能性は高い。

今回の試掘調査では、青柳河岸が形成されていた頃の遺構や遺物は確認されなかったが、未取得地においては河岸に関連する遺構や「河岸お蔵道」が存在している可能性が高く、今後も試掘調査を実施していく必要がある。

特に現道を改変する場合などについては、数カ所に現道を横断させる試掘調査を実施し、「河岸お蔵道」の幅や確認面までの深さ及び高さ、構造などを確認する必要性がある。

４－２　国道52号改良工事事業に伴う試掘調査（荒川の渡し）

所 在 地　甲府市上石田二丁目・飯田五丁目地内
遺 跡 名　荒川の渡し
調査期間　2007年６月13・15日
調査面積　42㎡（調査対象面積1,000㎡）
担 当 者　坂本美夫・小野正文



試堀調査　位置図（荒川の渡し）

試掘調査地点は、荒川とその西側に沿って貢川とが平行して流れる場所で、荒川橋の東・西詰及び貢川橋の西詰の地点であり、国道52号線道路改良工事の実施に伴う仮設道路建設予定地である。試掘地は５地点のうち現状、面積などから、３ヶ所にしぼった。この地点は、江戸時代から明治時代にかけて荒川の渡しとして知られ(『甲府市史』)、船の発着場跡、休憩場所跡や渡し船などの埋没の有無を目的として実施した。

第１号トレンチは、荒川橋の西詰（貢川橋の東詰）地点（甲府市上石田二丁目１番２号）である。試掘溝は土中の構造物などから、最終的には壺掘り状となった。アスファルト、砕石層を経て、以下に３層の褐色土層を確認したが、これらはいずれもコンクリート片、瓦などの廃棄物の混入された客土層であった。褐色土に続く最下層の砂礫層は、河川堆積層で掘削最深部の2.6m以下におよび、白色の砂に直径５cmほどの礫を含む。

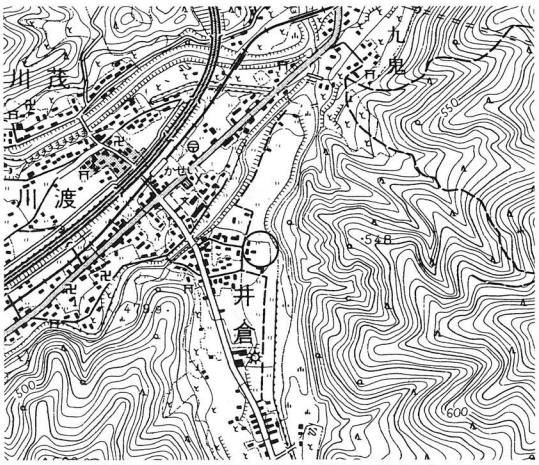
第２号トレンチは、貢川橋の西詰（甲府市上石田二丁目２番10号）に設定し、表土より1.2mほどまでコンクリート片などを含む客土層で、以下が河川堆積層の砂層である。

第３号トレンチは、荒川橋東詰で合流する相川の右岸上（甲府市飯田五丁目4番１号）である。表土（約40cm）以下が砂層となり相川に向かって表土以下が落ち込む。

試掘の結果、第１～３号のいずれのトレンチにおいても、遺構・遺物の確認はなかった。

４－３　都留バイパス建設事業に伴う試掘調査（美通遺跡）

所 在 地　都留市井倉字美通355番地ほか
遺 跡 名　美通遺跡
調査期間　2007年７月18日～７月27日
調査面積　510㎡（調査対象面積10,040㎡）
担 当 者　坂本美夫・酒井玄暁



試堀調査　位置図（美通遺跡）

試掘調査地点は、西流する朝日川と北流する菅野川とが合流する付近で、両河川に挟まれた南から北に向かって緩やかに傾斜する土地である。事業にあたり事業地の南側に隣接する美通遺跡の範囲の確認をおこなった。なお、試掘範囲は、事業地の杭No.385～No.408＋16の間で、南側から北に向かってＡ区、Ｂ区とした。

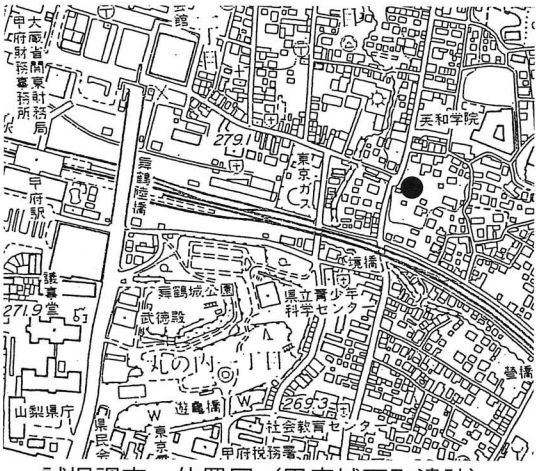
Ａ区（杭No.385～No.389＋10）には、１～10号トレンチ（５号トレンチ欠番）を設定した。このうち、１号トレンチで、深さ90cmほどの第４層（褐色土）より縄文土器片を伴う土坑１基、時期不明の土坑３基を、９号トレンチで、深さ60cmほどの第３層（黒褐色土）より竪穴住居跡（古墳時代末から奈良時代）１軒、同時期の土坑１基、時期不明の土坑1基、土師器を、２・３号トレンチでは、時期不明の土坑３基を確認し、本調査が必要である。

Ｂ区（中央）（杭No.394～No.403）には、1～10・16～18号のトレンチを、Ｂ区（北端）（杭No.406＋５～No.408＋16）には、11～15号のトレンチを設定した。このうち中央の１～10、16～18号トレンチからは、１号トレンチを除き多少の前後はあるがほぼ1.1m下の第５層となる褐色土層から縄文土器片（前期～中期）などが、

また、水田床土の下より微少の須恵器、灰釉陶器片が全体で数点確認された。なお、第２・３層といった浅い土層から切り込まれた土坑もみられる。北端で遺構・遺物の確認されたのは15号トレンチのみで、深さ90cmほどの第５層（褐色土）より縄文土器片（中期）、焼土、炭化物を伴った敷石住居跡１軒を確認し、いずれも本調査が必要である。

４－４　法務省甲府地方裁判所所長宿舎解体事業に伴う試掘調査（甲府城下町遺跡）

所 在 地　甲府市愛宕町85－２
遺 跡 名　甲府城下町遺跡（甲府城石切場跡）
調査期間　2007年８月２日～６日
調査面積　約3㎡（調査対象面積約2285㎡）
担 当 者　野代幸和・上原健弥



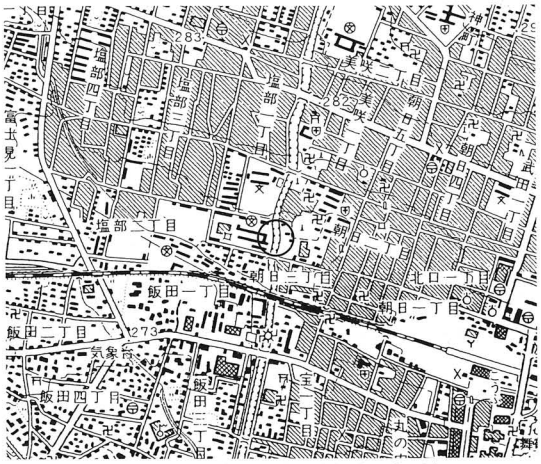
試堀調査　位置図（甲府城下町遺跡）

当該地域は甲府城に関連した石切場の存在が想定されており、敷地内にはその痕跡がみとめられる石材が散在することや、それらの痕跡を肯定する内容を記した石碑等が存在していること、また石切場の痕跡を活かして庭園が造られているなど史跡・名勝地の候補としても評価を受けており、解体工事後に財務省に移管される中でどのような形で活用していくことが望ましいのか検討されている地点である。試掘調査は、建物基礎を撤去した部分に東西二箇所設定して行った。西側第一地点では約１ｍ四方の範囲でトレンチを設定、約80cmの深度まで掘削して調査を行った。現地表下約40cmの基礎直下では、安山岩の礫群が認められ、除去すると水が湧き出す状況が確認されたため調査を中止した。東側第二地点では約３×１ｍの範囲でトレンチを設定、約60cmの深度まで掘削して調査を行なった。本地点では安山岩礫群を除去すると粘土層の存在が認められたが、同様に湧水が確認できたため調査を断念した。試掘調査による遺物の発見は認められなかった。

併せて敷地内に分布する矢穴等を有する石材加工痕ならびに加工石材の確認調査を実施した。加工痕の存在する石材の分布は11石確認した。矢穴の幅は概ね約二寸（５～６cm）の規格であり江戸期（寛文～宝永年間）と考えられ、甲府城坂下門、石切場付近に認められるものと同類である。また最大のもので約８cmのものを確認した。その他にも大正期以降と考えられる削岩機等の痕跡も数箇所確認され、継続的に砕石されていたことを窺わせる。分布としては、敷地東側の池周辺で多く発見されており、池そのものが石材採取による窪地から発祥したものと考えられる。住宅地であったにも係らず、国有地として保護されてきた経過もあり、良好な状態で石切場が保存されてきたことが判明したため、今後開発行為が行なわれる場合には、池の水を抜き底地の状況調査や加工場の痕跡など詳細な発掘調査が必要である。

４－５　甲府工業高等学校室内トレーニングルーム増設事業に伴う試掘調査（塩部遺跡）

所 在 地　甲府市塩部一丁目２番
遺 跡 名　塩部遺跡
調査期間　2007年８月６日
調査面積　10㎡（対象面積121㎡）
担 当 者　坂本美夫・酒井玄暁



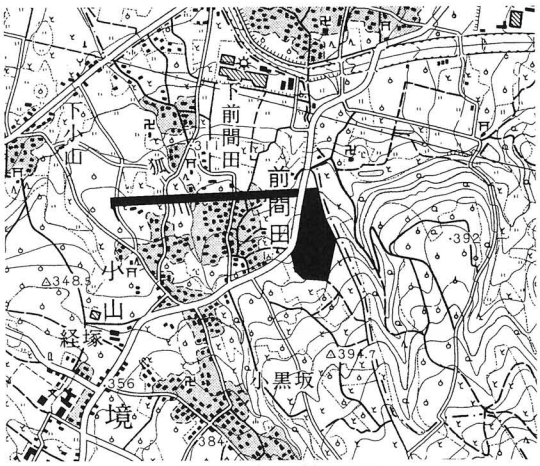
試堀調査　位置図（塩部遺跡）

試掘調査地点は、相川右岸に所在する塩部遺跡の東端に当たる現在の校舎は平成６年まではグランドであり、隣接地を含め平成７・15年度に県・市教育委員会により発掘調査され、弥生時代末から平安時代までの住居跡、低墳丘墓などの遺構、土師器、人形などの遺物が発見された。今回の調査地は、旧校舎の所在した場所の東門脇当たりであり、道路を挟んだ東側には相川が南流する。

事業は既存のトレーニングルームの東側への増設に伴うなうもので、集落跡などの存在の有無や広がりの確認調査を行うため、増設地に南北のトレンチ２本を設定して実施した。南側の１号トレンチでは、アスファルト舗装より50cmほどの深さが室内トレーニングルーム建設の際の展圧された層からなる砕石層であった。これ以下は、厚さ10cm前後の砂質ないし粘性の土層で、細かく分けると９層に渡る土層が確認できた。これらはいずれも水平堆積をみせるもので、遺構の切り込みや遺物の依存は認められなかった。トレンチ北側は一変して、砕石層下に旧校舎にかかわるとみられるコンクリート片、礫などを含み、これはさらに北側に続く状況であった。北側の２号トレンチでは、展圧の砂礫層が南から北に向かって薄くなり、１号トレンチに比べ半分ほどの厚さとなる。この下は小礫を含む埋土の褐色土層となり、中に旧校舎のものとみられるコンクリート基礎がしっかりと残存しているなど、トレンチ内にはもともとの土層の残存はみられず、また、遺構、遺物なども確認できなかった。このため塩部遺跡の範囲から外れているものと考えられる。

４－６　山梨リニア実験線建設事業に伴う試掘調査（笛吹市境川工区）

所 在 地　笛吹市境川町小山765外
遺 跡 名　中丸遺跡・中丸東遺跡・竜安寺川西遺跡
調査期間　2007年７月２日～８月31日
調査面積　約2,600㎡（調査対象面積約52,000㎡）
担 当 者　坂本美夫・田口明子・正木季洋



試堀調査　位置図

今回の試掘調査の対象となった区域は笛吹市境川町地内のリニア実験線建設予定地および、変電所建設予定地である。調査は調査区をリニア実験線起点から金川－曽根丘陵広域農道までの起点地点と変電所地点に分け、起点地点については小山地内をA区、前間田地内をB区とし、さらに用地内を南北に走る道路・河川によりA区をA-１～３区、B区をB-１～３区に分け、変電所地点については用地内の道路によりA～E区に分けて調査を行った。

起点地点では、東側の変電所地点から続く尾根の斜面部から、狐川扇状地を横断し、西側の台地縁辺までの全長約600m×幅約20mの範囲にある。用地内に計28本のトレンチを設定し、重機・人力による掘削後、人力による平面及び断面観察、記録を行った。

起点地点西端の台地縁辺部は周知の遺跡である中丸遺跡の範囲内であり、台地縁辺の斜面部に設定したA-１区

４号トレンチからは縄文土器の小破片が大量に出土している。台地平坦面に約１×１ｍの規模で設定したA-３区８号トレンチでは、古墳時代の須恵器片がまとまって出土している。８号トレンチでは地山層となる黄褐色土が地表下約90cmの深さで確認されたのに対し、周辺のトレンチでは約10～20cmの深さで確認されていることから、８号トレンチで出土した須恵器片は古墳時代の遺構に伴った遺物であると推測される。また、中丸東遺跡の範囲内となる狐川西側のA-２区では、盛土層下に縄文時代・平安時代の土器・土師器片が出土する遺物包含層を確認したが、遺構は確認されていない。その他の範囲においては、表土層中および河川堆積と考えられる砂礫層中より遺物の出土が若干みられるが、遺構は確認されていない。

変電所地点は、稲山から北西に延びる尾根末端の傾斜面地の約40,000㎡の範囲にあり、用地の大半が周知の遺跡である竜安寺川西遺跡の範囲内にある。調査は109本のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力による平面及び断面観察、記録を行った。

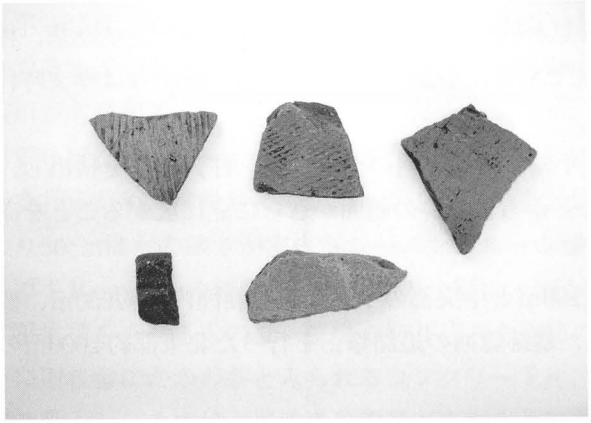
調査の結果、用地南側のA区南端とB区において、縄文時代の竪穴住居跡１軒と土坑２基、古墳時代の竪穴住居跡１軒、中世の土坑２基のほか、時期不明の竪穴住居跡と思われる遺構２基、溝状遺構４条、土坑28基、柱穴34基を耕作土層下より確認した。このうち、縄文時代の土坑であるB区22号トレンチ１号土坑からは縄文時代中期の深鉢形土器が横転した形で出土している。

また、用地北東部となるC区北部においては、中世の土坑１基と時期不明の土坑３基、柱穴１基を検出し、遺構の一部が竜安寺川西遺跡の範囲外北側に遺構が存在することから、遺跡の範囲がさらに北に広がることを確認した。

以上の結果から、起点地点の最西端の中丸遺跡範囲内約1,100㎡と中央部の中丸東遺跡範囲内の約950㎡、変電所地点では、竜安寺川西遺跡として用地南側の約10,000㎡と、遺跡範囲の追加修正を行った北東部約4,000㎡の本格的調査が必要となる。

起点地点A-１区４号トレンチ

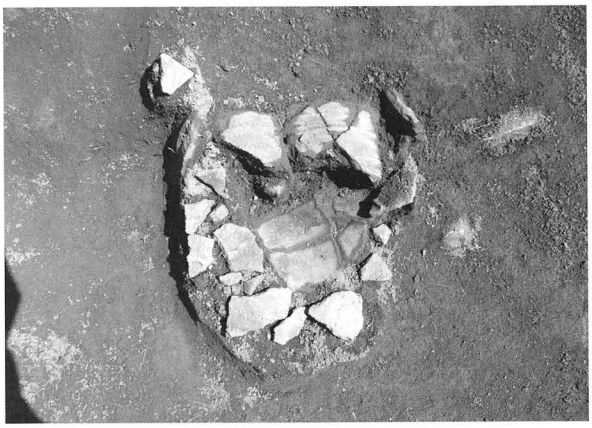
起点地点A-２区１号トレンチ



起点地点A-３区８号トレンチ出土須恵器

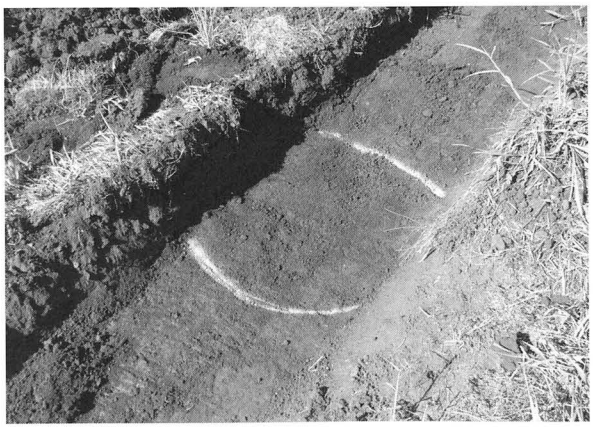
変電所地点作業風景

変電所地点B区１号トレンチ溝状遺構・柱穴



変電所地点B区22号トレンチ土坑出土縄文土器

変電所地点B区25号トレンチ古墳時代竪穴住居跡



変電所地点C区23号トレンチ土坑

４－７　山梨リニア実験線建設事業に伴う試掘調査（笛吹市八代・御坂工区）

所 在 地　笛吹市八代町竹居1487ほか
遺 跡 名　南原・柚木・三光・中丸・稲山・大鼓畑・六ツ長遺跡
調査期間　2007年９月18日～12月20日
調査面積　約2,200㎡（調査対象面積約46,000㎡）
担 当 者　田口明子・正木季洋

試掘調査の対象となった区域は笛吹市八代町・御坂町地内のリニア実験線建設予定地である。本線部分の中の約6.5kmの範囲で、トンネル部分を除く区域が試掘対象地域であるが、一部に未買収、立木がある、また土砂崩落のために調査不能箇所がある。調査は西から東に向かって進められた。トレンチは、掘削した順番に１～198まで番号を付した。予定地内には、周知の遺跡である南原遺跡・柚木遺跡・三光遺跡・中丸遺跡がある。また、古代からの若彦路・御坂路の存在が想定される地域であるため、それらの詳細を把握できるように努力した。

南原遺跡は、47～54・58・59トレンチ（以下Ｔと記す）にあたる。ほとんどが攪乱されており、遺物は49Ｔの攪乱層より黒曜石１と53Ｔの砂礫層から土器小片3・黒曜石１が発見されたが、遺構は発見されなかった。

柚木遺跡は、81～84Ｔにあたる。遺物は81Ｔの攪乱層から土器小片１、82Ｔから近世の擂り鉢片１、84Ｔから土器小片３が出土したが、遺構は認められなかった。

三光遺跡は、72～80・89～93Ｔにあたる。72～78・89～90・92Ｔからは、縄文土器片多数と打製石斧・黒曜石などが出土し、74Ｔでは、ピット3を確認した。１ピットは、現地表から約0.55mの深さで確認面があり、径約１m、深さ約0.5m、覆土中に縄文時代中期初頭の深鉢1個体が発見された。２ピットは、現地表から約0.3mで確認され、径約1.1m、深さ約0.8m、覆土中には径約0.3mの石が集中し、石棒１が認められた。また縄文時代中期の土器片と黒曜石が出土した。３ピットは、現地表から約0.3mで確認され、径約1.3m、深さ約0.6m、覆土中から縄文土器片２が出土した。１～３ピットは約半分がトレンチ外に伸びている。89Ｔでは、ピット１が確認された。１ピットは、現地表から約0.35mで確認され、径約１m、深さ約0.14mで、覆土中から縄文時代中期中葉の土器片が多数出土した。約半分はトレンチ外に伸びる。

中丸遺跡の範囲は、189～193Ｔにあたる。各トレンチからは、縄文時代前期～中期土器片や黒曜石片が出土した。190Ｔではピット５、191Ｔからはピット１が確認されたが、遺物の出土はないため時期不明である。

以上の結果から、南原遺跡・柚木遺跡は、遺物の出土は主に攪乱や盛土からで、遺物包含層も認められなかったため、本調査の必要はないと思われる。

試掘調査の結果、新たに稲山遺跡、大鼓畑遺跡と六ツ長遺跡が発見された。

稲山遺跡は、13～19・23・25～27Ｔにあたる。13～17・25・26Ｔから、縄文時代前期を中心とした土器片・黒曜石片などが出土した。遺構は13～18・25・26Ｔから発見された。13Ｔからピット10・溝2、14Ｔからピット１・溝２で、１ピットから黒曜石片、２溝から縄文土器片が出土した。15Ｔからは、古墳時代の土師器片が出土した溝１、16Ｔから縄文時代前期の土器片を伴うピット１、17Ｔからピット２、18Ｔからピット２、25Ｔからピット１・溝１、26Ｔからピット１が発見された。これらの遺構は、遺物を伴わないため時期不明である。

大鼓畑遺跡は、99Ｔにあたる。99Ｔからは遺構は発見されなかったものの、平安～近世の土器片22・釘１・陶器片１と多くの遺物が発見され、遺物包含層も厚さ約0.1mと0.3mの２層が確認された。北・西側より約1.7～３mの比高差がある台地の縁辺部にあたり、本遺跡はこれより南側に広がると考えられる。

六ツ長遺跡は166Ｔにあたる。166Ｔは、最初幅１m、長さ18mの範囲を精査したところ、溝２を確認した。１溝は、幅約２m、深さ約1.2mで、覆土中から土師器の台付甕片が出土した。溝はどちらも南北方向であったが、北側の164・165Ｔは、全体が攪乱されており、南側の167Ｔも全体が攪乱を受けていたために、溝の方向と残存状況を平面確認するために、南側にトレンチを拡張した。その結果、１溝は長さ約5.5mを確認した。2溝は最大幅約2.2m、深さ約0.8m、長さは約5.5mまで確認したが、遺物は出土していない。

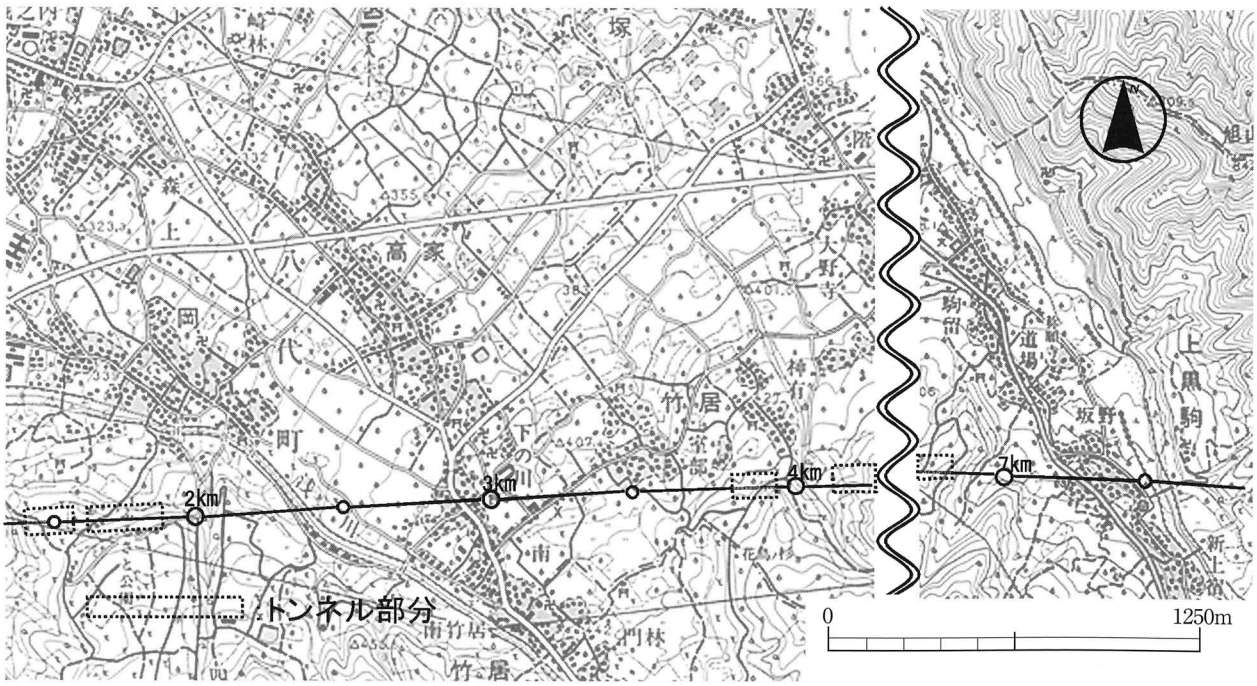
若彦路は、111Ｔのある区画の東側に古道が推定されているが、未買収地であるため不明である。

御坂路は、現在の県道上黒駒・石和線が推定されている。トレンチを県道際に設定しようとしたが、県道東側に簡易水道の管が敷設されているため、道際に設定できなかった。県道西側の176・177Tは、遺構・遺物ともに確認されず、180Tからは、土器細片が出土したが遺構は認められなかった。東側の181Tは、東側半分が攪乱を受け、県道に近い箇所は、現地表から約0.45mで、砂礫槽になる。遺構は認められなかった。これらの結果から、御坂路は県道下に存在する可能性が高いと考えられる。

これら以外のトレンチからも遺物の出土がみられた。2Tからは、耕作土中より縄文土器片5が集中して出土した。5・6Tからは、縄文・平安土器片及び近世陶磁器片が数点出土したが、いずれも摩耗した小片である。21・22Tからは、土器片が各1出土した。24Tは、盛土または、砂層から平安～近世の土器・陶磁器片が各2出土した。28Tからは土師器片3、31Tは攪乱または盛土から縄文土器片1・土師器片1、55Tは耕作土から平安～近世の土器・陶器片10が出土した。61・62Tは砂層から平安～近世の土器片が各3、63・64Tは、攪乱層から時期不明の羽口と鉄滓が多数発見されたが、遺構は発見されなかった。66・68Tは攪乱中から縄文・平安土器片数点、71Tは耕作土から土器片1が出土した。85～87Tは、当初、古墳の存在が考えられたが、遺構はなく、耕作土などから縄文・平安～近世の土器片などが出土した。88Tからは縄文土器片2、95Tからは、縄文土器片・黒曜石片各1が出土した。101～103・105Tからは、縄文・平安土器片など数点、106・112・117Tからは土器細片数点が出土した。120～122・126Tからは土器片・黒曜石片、129・130・132・134・136・138Tは、摩耗した縄文・平安土器片など、143Tは土器片1、旧河道である149～151Tは土器片1～2、154Tからは砂層から縄文土器片2、155Tからは平安土師器10、157Tは土器細片2が出土した。161・162Tからは縄文・平安～近代の土器・陶磁器片が攪乱より出土した。169Tからは、平安時代の土師器片4、170Tは攪乱から平安時代・近代の土器・陶磁器・ガラス瓶、171・174Tは縄文・平安土器片、175Tは近世の土器片、179Tは埋土から近代以降の土器・陶磁器片が多数出土した。旧河道の182～184Tからは平安・近世の土器片が出土した。以上のトレンチからは、遺物が出土しているが、遺物包含層が無く、耕作土・盛土・攪乱からの出土または、遺物包含層はあるが、遺物の出土が散漫なために、本調査の必要はないと考えられる。

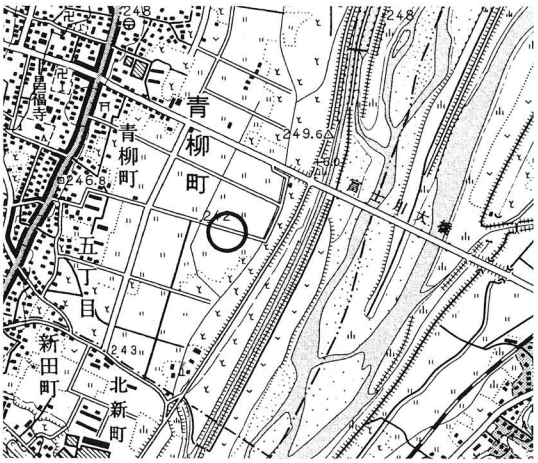
以上の結果から、三光遺跡・稲山遺跡・大鼓畑遺跡・六ツ長遺跡・中丸遺跡の範囲で、本調査が必要と考えられる。各遺跡の本調査が必要な面積は、三光遺跡が約2900㎡、稲山遺跡が約3,800㎡、大鼓畑遺跡が約140㎡、六ツ長遺跡が約260㎡、中丸遺跡が約1,200㎡である。

また未買収、立木があるところでは、今後試掘調査が必要である。



４－８　中部横断自動車道建設に伴う試掘調査（藤田池遺跡）

所 在 地　南巨摩郡増穂町青柳字整理地内
遺 跡 名　藤田池遺跡・河岸お蔵道
調査期間　2007年11月19日～21日
　　2008年２月22日、25日～27日
調査面積　第１回目約448㎡、第２回目約360㎡
　　（調査対象面積9,800㎡）
担 当 者　坂本美夫・山本茂樹・猪股一弘・上原健弥



試掘調査　位置図（藤田池遺跡）

第１回目の試掘調査は、７本の試掘溝を設定し、「藤田池遺跡」の範囲確認および青柳河岸跡へ通ずる「河岸お蔵道」の確認のために実施した。

用地取得箇所では、地表下約1.70mで青灰色粘土層の広がりが確認され、堆積土層については、各試掘溝では同一の堆積を示しているが、東へ行くに従ってこの粘土層は深くなっていくことが明らかとなった。また、表土下80cm前後で畦が確認されたが、試掘溝から発見された陶磁器片から明治時代後半から大正時代のものと思われることから、畦がつくられた水田についても同時代のものと考えられる。

「河岸お蔵道」については、現道の両側を掘削したが道は確認されなかったことから、現道の下に存在しているものと思われる。

第２回目の試掘調査では、９本の試掘溝を設定し、「藤田池遺跡」の範囲確認および現道部分の調査を行った。現道では、アスファルトを除去した後に道に直交する２本の試掘溝を設定し、断ち割り調査を行った。その結果、第１試掘溝では３面の道が確認され、それぞれの面の上面には小砂利が敷かれており、非常に硬く締まっていた。最下層の第３面は、現地表から約1.45m下に存在しており、道幅は2.60m前後、砂利の敷かれた幅は1.50m前後である。第２面の道は、現地表から約1.0m下に位置し、第３面の上面から約0.45m上に存在する。道幅は、2.25m前後である。砂利が敷かれた幅は1.50m前後で、第３面とほとんど変わらない。第１面の道は、現地表から約0.85m下に位置し、第2面の上面から約0.12m上に存在する。道幅は、2.50m前後である。また、砂利が敷かれた幅は2.40m前後であるが、道の北側端では掘削を受けている。

第２試掘溝は、第１試掘溝から西へ27mの地点に設定した。その結果、「河岸お蔵道」が３面存在していることが明らかとなった。最下層の第3面は、現地表から1.50m前後に存在し、幅は2.20m前後である。上面には砂利が敷かれ、道の南裾部分では青灰色粘土を削りこんで、排水施設のためか握り拳大の礫が入れられていた。第２面の道は現地表から1.15m下に位置する。第３面からの高さは0.35m上に存在する。道幅は、2.30m前後である。第１面は、現地表から0.80m下に位置する。第2面からの高さは0.35m上に存在する。道幅は、1.95m前後である。

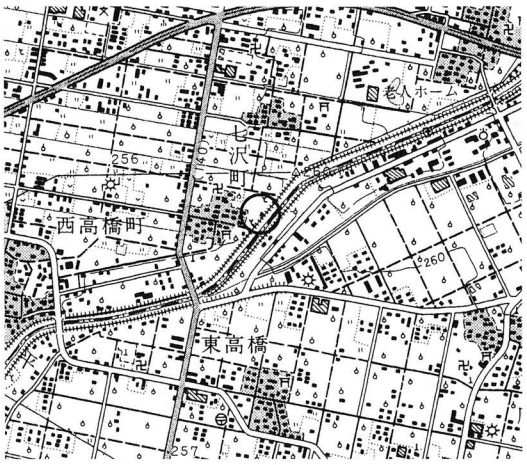
以上のことから、第3面は江戸時代の青柳河岸がつくられた頃と考えられ、第２面は幕末から明治頃の絵図に描かれた道と思われる。第１面は明治20年以降頃に存在していた道と思われる。

第３～第９試掘溝では、遺構は確認されなかったが、現地表下90cmあたりで寛永通宝が１点見つかった。

今回の調査では、事業主体者及び学術文化財課、埋蔵文化財センターとの事前協議により、「河岸お蔵道」が確認されたので記録保存のための断面実測および平板実測による位置図作成、記録写真撮影などを行い、工事着手の運びとなった。

４－９　平等川河川改修事業に伴う試掘調査
（堤防遺跡推定地・七沢の渡し場）

所 在 地　甲府市上阿原・七沢地内
遺 跡 名　堤防遺跡推定地・七沢の渡し場
調査期間　2008年１月28日～29日
調査面積　約120㎡（調査対象面積約2,050㎡）
担 当 者　坂本美夫・猪股一弘・正木季洋



試掘調査　位置図

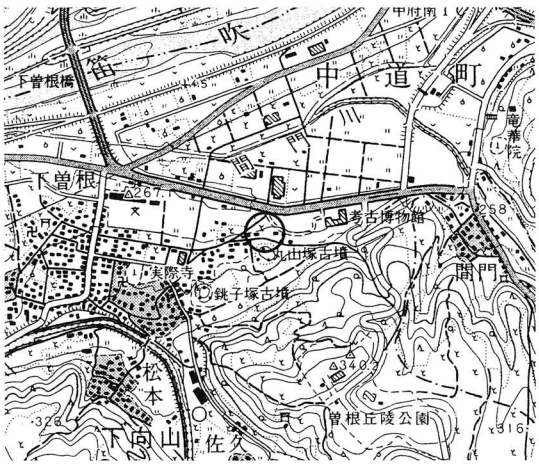
試掘調査対象地内を走る下水道管・温泉管を避けて長さ４～10m、幅1～3mのトレンチを計11本設定し、重機による掘削、および人力による平面及び断面観察・記録を行った。

１・２号トレンチにおいては耕作土層下に3層の砂層及び砂礫層の堆積を確認したが、いずれも水平に堆積している状況にある。なお、１号トレンチにおいては深さ約95cmの地点で湧水を確認している。３～７・10・11号トレンチにおいては、地表から90～120cmの深さまで整地層を確認し、この層以下では河川堆積層が水平に堆積する状況を確認した。８・９号トレンチでは地表下約10～20cmの厚さで堆積する表土層の下に約60～70cmの厚さの黄褐色土の客土層を確認し、客土層下に河川堆積層が水平に堆積する状況を確認した。遺物や遺構の存在はいずれのトレンチからも確認できなかった。

以上のことから、今回の試掘調査範囲内に埋蔵文化財は確認されなかったため、工事を行うに当たり、支障ないものと判断される。

４－10　生活関連土木施設整備事業に伴う試掘調査（丸山塚古墳）

所 在 地　甲府市下曽根地内
遺 跡 名　丸山塚古墳
調査期間　2008年２月14日～15日
調査面積　約130㎡（調査対象面積約1,930㎡）
担 当 者　小野正文・坂本美夫・正木季洋



試掘調査　位置図

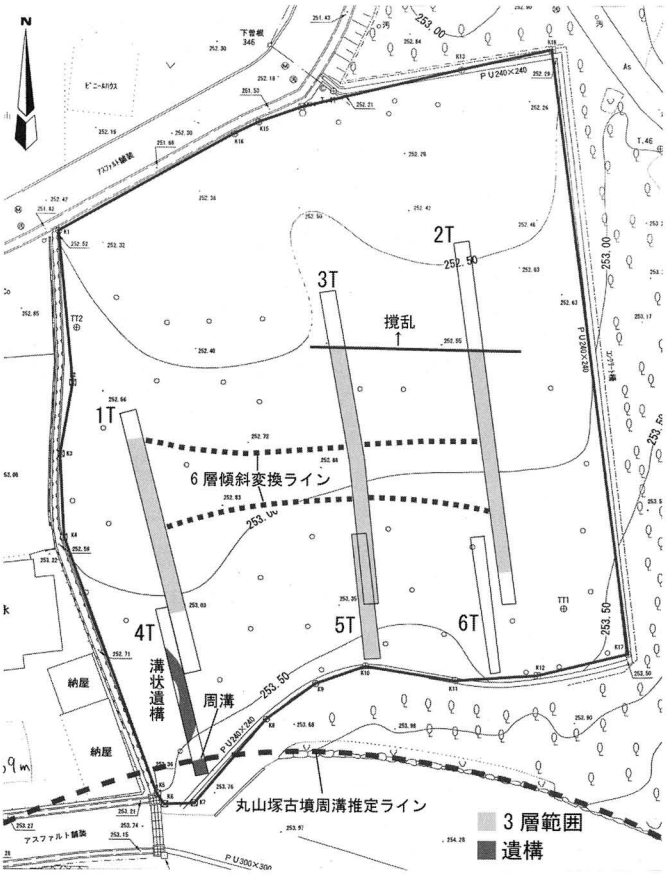
今回の調査対象地は甲府市下曽根町地内にある国指定史跡丸山塚古墳の北側にあり、風土記の丘曽根丘陵公園の新敷地として取得され、用地内に駐車場と遊歩道建設が計画された。

計画に先立ち、平成20年２月14日から15日の期間で試掘調査を行い、対象地の中央部に３本と南部に３本の計６本のトレンチを南北方向に設定し、重機による掘削を行った後、人力により遺構・遺物の有無確認作業を行った。

今回の試掘調査において確認された土層は、地表から１層：暗褐色土層（耕作土）・２層：褐色土層・３層：角礫を多量に含む暗褐色土層・４層：暗褐色土層・５層：暗黄褐色土中に黒褐色土粒を多量に含む自然堆積層・６層：暗黄褐色土中に黒褐色土粒と角礫を多量に含む自然堆積層の順に堆積し、いずれも北に向かって傾斜している。

このうち3層は、１～３・５号トレンチにおいて堆積が認められ、丸山塚古墳周溝の外側に設けられた周堤帯の可能性が考えられたが、範囲や土層の堆積状況から自然作用に起因した堆積によるものと思われる。

１～３号トレンチの６層上面において、それぞれ2つの傾斜変換点が認められている。各トレンチの北側の変換点を結んだラインは、地表部分の等高線に近い状況が認められ、２・３号トレンチにおいては変換点以北の傾斜が急傾斜に変化し、湧水が確認されることから、自然作用による変化の可能性が高いと考えられる。また、南側の変換点を結んだラインは丸山塚古墳と同心円状のラインを推定することが可能であるが、これが人為的なも



試掘トレンチ配置図

のか、自然作用に起因するかについては現時点において不明である。

また、調査区南西端に設定した４号トレンチでは南端部に丸山塚古墳の周溝端、中央部に溝状遺構の２つの遺構が確認されている。中央部の溝状遺構には水路、周溝墓や古墳の周溝等の性格が考えられるが、民家や水路に近く、湧水が著しい為、トレンチを拡張して全体形を確認することができなかった。遺物は出土していない。

調査の結果、駐車場の範囲については２・３号トレンチ北端の撹乱範囲以北では可能であるが、それ以南の範囲については、国史跡の保護上、安全帯を設置する必要があるため、その保存範囲については、今後さらなる検討が必要である。また、遊歩道については4号トレンチ中央部において発見された溝状の遺構をさけて計画する必要がある旨を報告した。

４－11　中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査

所 在 地　山梨県南巨摩郡南部町中野地内
調査期間　2008年２月18～２月20日・３月７日
調査面積　288㎡（調査対象面積5,450㎡）
担 当 者　坂本美夫・依田幸浩

試掘調査　位置図

試掘調査地点は、南部町中野地内国道52号線西側の中部横断自動車道南部インターチェンジ予定地である。調査は、インターチェンジ予定地の内、2007年12月31日までに土地の引き渡しが終了している部分に試掘トレンチを合計23本設定し、それぞれ地山を確認するまで掘り下げた。

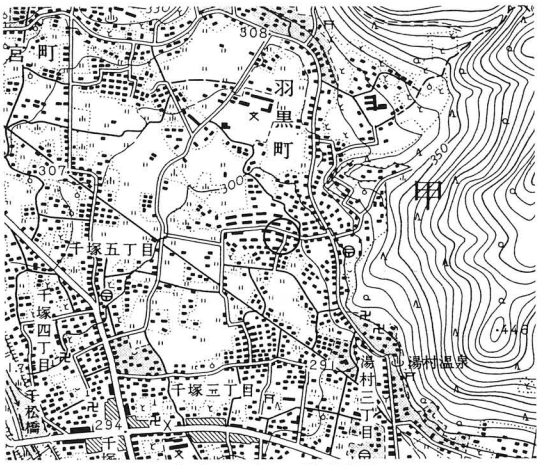
調査地点の南側にあたる畑地・荒地部分では、耕作土の下層に褐色土、礫を多く含む黒褐色土、褐色土が堆積し、その下層が黄褐色粘土の地山になった。調査地点中央～西側の荒地・山林部分は、耕作土の下層が黄褐色粘土の地山であった。調査地点中央の水田部分では、耕作土の下層が褐色粘土の地山であった。調査地点中央～北側の水田・荒地部分は、耕作土の下層が青灰色・褐色・黄褐色粘土の地山となる。調査地点の北側にあたる水田部分では、耕作土の下層が褐色・青灰色粘土の地山となる。

いずれの地点においても遺構・遺物は発見されなかったことから、工事に着手しても支障はない。

なお、今回は茶の木が残っていたために調査ができなかった調査地点南側の茶畑部分については、改めて試掘調査を実施する必要がある。

4－12　県営住宅湯村団地建て替え事業に伴う立会調査

所 在 地　甲府市湯村３丁目地内
調査期間　2007年４月４日
調査面積　150㎡（調査対象面積4,234㎡）
担 当 者　保坂和博・野代恵子



立会調査　位置図

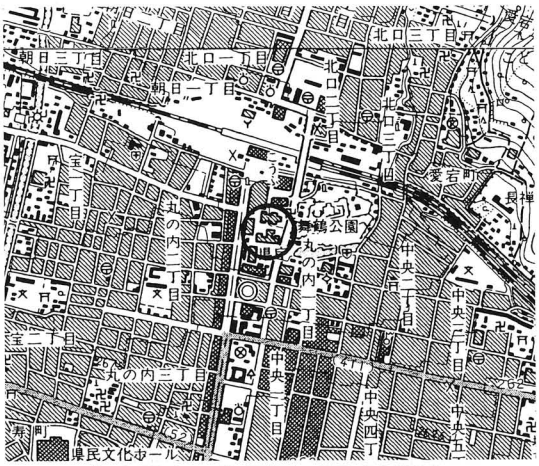
立会調査地点は、天神平遺跡、県指定史跡加牟那塚古墳、榎田遺跡などに隣接する地域であり、団地南東方向にある湯村山には古墳も分布する。このような状況から住宅課と学術文化財課との協議により、建物基礎撤去の際に立会調査を実施することとなった。

湯村団地は1965～1967年に建設されており、団地の周辺には湯川が流れている。今回立会調査を行なったのは①10号棟北東隅、②21号棟西端、③21号棟南側、④22号棟西端、⑤22号棟東端の５地点である。基本層序としては上から、攪乱層、暗褐色粘土層、青灰色粘質土混砂層、黒褐色砂礫層、灰褐色砂礫層となっており、地点によってそれぞれの層の厚さが異なったり、その質に若干の変化が見られた。

調査の結果、周辺に川が流れている関係上、氾濫などにより砂や粘土が堆積したものと判断され、遺構や遺物も確認されなかったため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。

4－13　県庁構内西門の電柱設置事業に伴う立会調査（甲府城跡）

所 在 地　甲府市丸の内一丁目県庁構内
遺 跡 名　甲府城跡
調査期間　2007年６月30日、７月７日
調査面積　2㎡
担 当 者　山本茂樹



立会調査　位置図（甲府城跡）

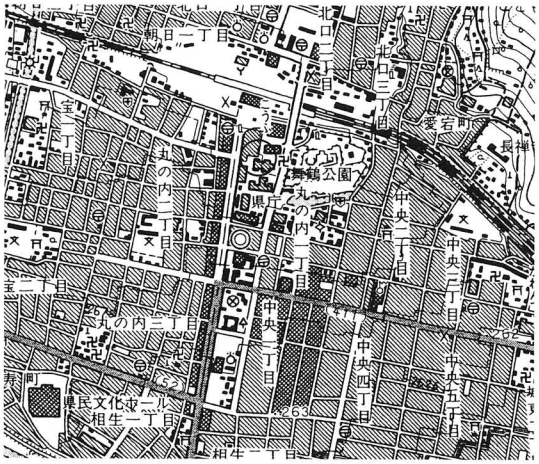
県庁構内西門の北側および南側に電柱設置を行うことについては、周知の埋蔵文化財包蔵地である「甲府城跡」内であるため立会調査を実施した。

６月30日、県庁西門の南側では、掘削の直下で水道の止水弁が、そしてすぐ隣では深さ約90cmで土管が埋設されていたため、一旦この地点での掘削および電柱の設置を見合わせることとなった。次に、西門の北側であるが、2003年８月にこの地点付近で立会調査が実施されており、その際、堀に伴う石垣が確認されていた。今回の立会調査によって前回確認された石垣の続きと考えられる一部が深さ約115cmで確認された。このため、石垣を除けた場所に電柱の設置を行った。

７月７日、県庁北別館西側にある県警駐車場内で電柱設置工事があり、2003年８月に試掘調査が実施されているため立会を行った。この地点は、堀の中であることが確認されている。機械により旧地盤まで掘削し、更にその下を掘削したが、遺構および遺物は確認されなかった。

４－14　県庁構内水道修理事業に伴う立会調査（甲府城跡）

所 在 地　甲府市丸の内１－６－１
遺 跡 名　甲府城跡
調査期間　2007年12月４日
調査面積　0.5㎡（調査対象面積約2㎡）
担 当 者　今福利恵（学術文化財課）

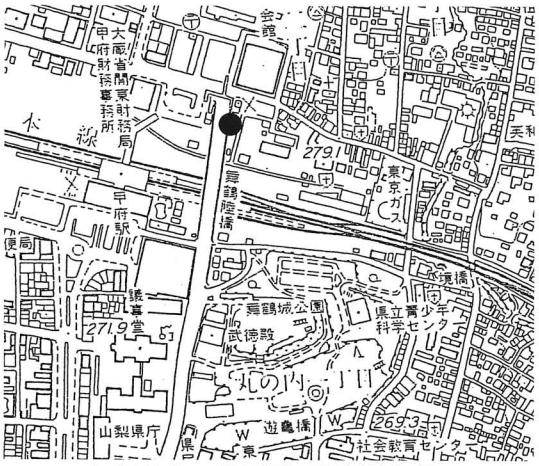


立会調査　位置図（甲府城跡）

立会調査地点は、県庁構内で、西門から入った警察車庫前である。歴史的には甲府城内西側の柳門がかかる石垣付近となる。工事は、警察車庫前に埋設されている水道の破損修理であり、現況はすでに掘削がなされたところと判断できる。軽微なもので県庁構内であることから県教育庁学術文化財課で対応することとした。工事は、既設貯水槽をそのまま埋め戻し、水道管を交換再接続するもので、掘削範囲はおよそ100cm×50cm、深さ50cm程であった。掘削状況は、過去の水道工事による埋め土部分のみの掘削であり、新規な掘削はなかった。よって埋蔵文化財には影響ないものと判断し、終了した。

４－15　舞鶴陸橋（主要地方道甲府・山梨線）北側歩道拡幅改良事業に伴う立会調査（甲府城跡）

所 在 地　甲府市北口二丁目地内
遺 跡 名　甲府城跡
調査期間　2007年５月８日～10日
調査面積　32㎡
担 当 者　野代幸和・上原健弥



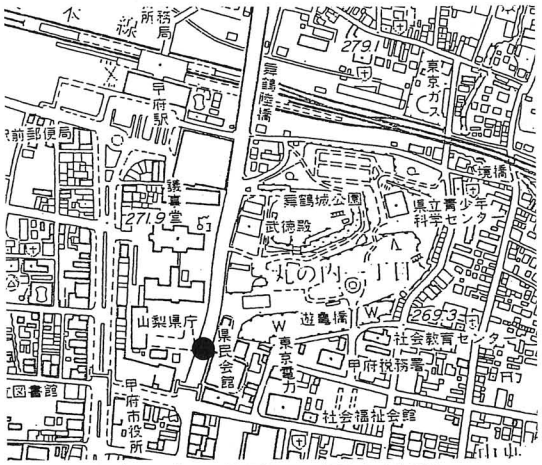
立会調査　位置図（甲府城跡）

甲府市教育委員会による隣地部分の調査データより、予定している掘削深度では遺構面ないし包含層には達しないことが判明したが、本地点が甲府城跡内の清水曲輪北側石垣付近に位置するため、立会調査で対応することを確認した。清水曲輪北側石垣推定地付近より、石垣の裏栗石と考えられるものの集中地点が認められたが、枕木片やスレート等のゴミが混在していた。砂利盛土層下より旧地表面の表土（灰褐色シルト層）を確認。表土内からはレンガ、枕木、石炭等舞鶴陸橋敷設以前の旧国鉄用地に関係するものが混在していた。隣接地の発掘調査でも機関車用の貯炭施設に係るものが発見されており、同種のものと考えられる。また歩道橋階段付近から清水曲輪に係る石垣裏栗石と考えられるものが集中して認められたが、塵芥が混入していることから後世の撹乱を受けているものと判断された。石垣の存在は把握できなかった。

今後反対側の拡幅工事も予定されているため、同種のものが確認されれば清水曲輪の範囲確定に大きく貢献するものと思われる。現況の掘削深度では地下遺構に影響が及ぶ状況は認められなかった。

4－16　主要地方道甲府・山梨線（舞鶴通り）配水管敷設工事に伴う立会調査（甲府城跡）

所 在 地　甲府市丸の内一丁目地内
遺 跡 名　甲府城跡
調査期間　2007年７月６日～20日
調査面積　約710㎡
担 当 者　山本茂樹・野代幸和



立会調査　位置図（甲府城跡）

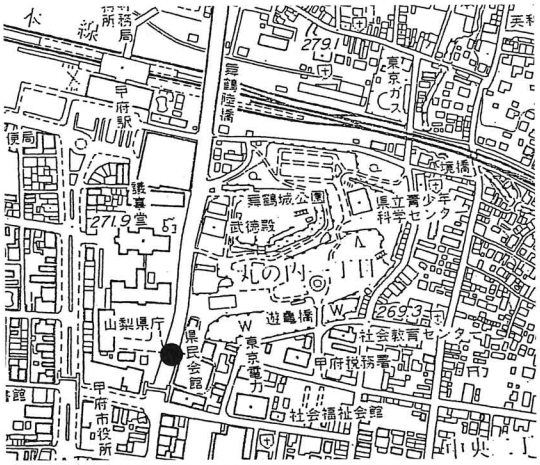
本地点は甲府城跡楽屋曲輪、追手門付近に位置する。

史跡隣接地であることから、協議結果に基づき、甲府市教育委員会と当センターと共同で実施した。道路占有の関係から深夜22:00以降からの対応となった。

県庁東門北側付近から枡形虎口北側の南石垣を確認した。栗石が2.50mの幅で認められ、大型の石材の混入もあった。根石と考えられるものは、約90cm下より発見された。幅65cm、厚さ45cmを測る巨大な石材であり、状況から二石程度存在する可能性が考えられる。県庁東門南側の追手門付近より根石付近より礎石が二基発見された。ホゾ穴15×18cm、水抜き溝８cmを伴う。面取り部分46×39cm、厚さ43cm、露出部分18cmを測るが、発見状況から原位置ならびに帰属年代は不明である。また周囲より敷石と考えられる板状の石が５点出土、二寸幅の矢穴痕から寛文～宝永年間の江戸期の所産と考えられる。スクランブル交差点付近において、堀に対応する石垣ならび栗石、護岸の木杭が発見された。狭小な範囲であったが、概ね想定された地点にそれぞれの遺構が予想以上に確認でき記録保存できたことは、当該地域における今後の文化財保護のデータ蓄積の中で大きな糧となるものと思われる。

4－17　主要地方道甲府・山梨線（舞鶴通り）舗装工事に伴う立会調査（甲府城跡）

所 在 地　甲府市丸の内一丁目地内
遺 跡 名　甲府城跡
調査期間　2007年９月１日
調査面積　約710㎡
担 当 者　野代幸和



立会調査　位置図（甲府城跡）

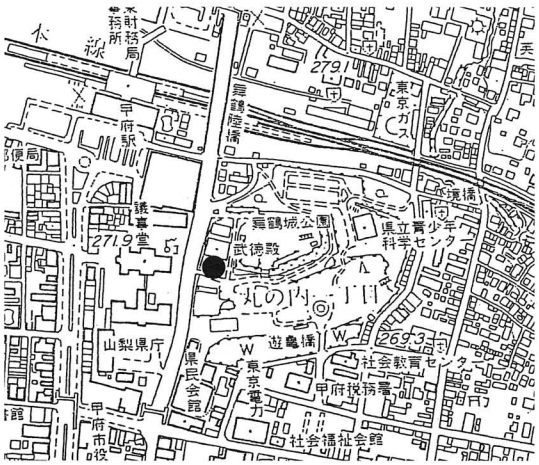
本地点は甲府城跡楽屋曲輪、追手門付近に位置する。

史跡隣接地であることから、協議結果に基づき、甲府市教育委員会と当センターと共同で実施した。道路占有の関係から深夜22:00以降からの対応となった。

工事内容としては、舗装工事に伴う現況アスファルトの剥ぎ取り作業であり、路盤より下への掘削はほとんど見られなかった。全体的には既掘の範囲内に収まると共に、包含層等に影響を及ぼす内容は確認できなかった。また、岩盤等の露出も想定されたが、全く確認するには至らなかった。

４－18　山梨県議員会館解体事業に伴う立会調査（甲府城跡）

所 在 地　甲府市丸の内一丁目地内
遺 跡 名　県指定史跡　甲府城跡
調査期間　2007年６月25日～７月26日、８月21日
調査面積　約440㎡
担 当 者　山本茂樹・野代幸和・上原健弥



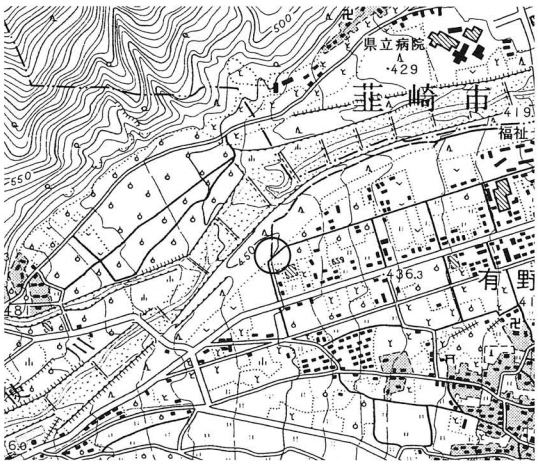
立会調査　位置図（甲府城跡）

本地点は県指定史跡甲府城跡二の丸内に位置する。

既存建物の正門の撤去に係る基礎確認作業を実施したところ、約50cmの深さまで掘削が及んでいることを確認し、隣接する石垣の根石と密着した状態が確認できたことから、石垣保護のため撤去は中止した。水道管移設作業に伴う調査では、現地表下50cmで地山の粘土質灰白色土層を確認した。崩落石垣部分では一部工事に支障が予想される部分について、３石を移設し保護をした。浄化槽の撤去工事では、地山保護のため盛土部分約70cm分についてコンクリート壁の撤去を行なった。断面観察により盛土下から白色粘土を含む茶褐色土層の地山を確認。浄化槽最深部において黄褐色土層ならびに軟岩層が確認できたが、安山岩の岩脈は見られなかった。コンクリート土間撤去時においては、暗渠遺構が発見されたため範囲確認ならびに計測調査を実施した。上蓋石長約二尺一寸（63cm）、厚さ約五寸（15cm）、短径約七寸（21cm）を測る。溝の深さは約七寸（21cm）、幅も約七寸の正方形に近い。一部状況把握のために試し掘りを行なったところ、溝内から瓦が出土し、寛文年間以降の所産である軒平瓦が認められた。暗渠の範囲を確認したところ、北へ続いている状況が確認できたが、南側は石垣手前で断絶している状況が認められた。今回は確認作業のため、埋設保存で対応する措置をとったが、整備等を行なう際には発掘調査を実施し、その成果に基づいた整備が必要である。

４－19　御勅使川福祉公園（５番堤）整備事業に伴う立会調査

所 在 地　南アルプス市有野地先（５番堤）
調査期間　2007年７月９日
調査面積　10㎡
担 当 者　野代恵子



立会調査　位置図（５番堤）

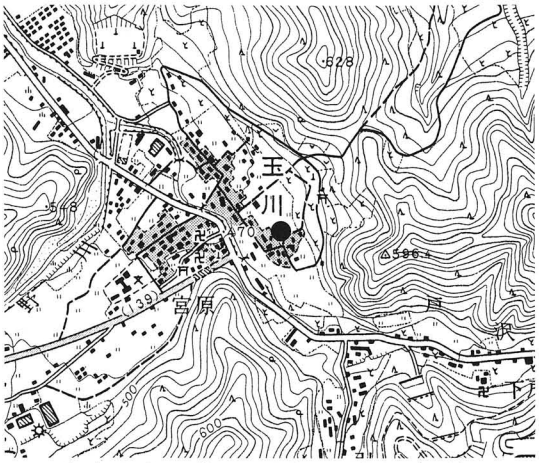
立会調査地点は、御勅使川に沿って５番堤が延びる箇所であり、今回の立会調査は治水歴史広場東側において新設歩道が５番堤を横切る箇所について行なった。

工事は既存通路をそのまま使う形で、そこに縁石を敷設するため、現地表下15cm程度の掘削を行なった。現地にはすでに５番堤を切り崩して通路がつくられているが、この通路と５番堤部分が接する部分を２ヶ所それぞれ幅50cmで掘削した。その結果、堤防の上部は既存通路によってすでに削り取られているものの、それより下については石積みや堤体がほぼ残っていることが確認された。これは堤防の川裏側（南側）にある堀状の窪みを横断するように盛土をし、堤防の切り崩しを少なくして既存通路がつくられていた為である。堤体の土層については、基本的に小礫と砂を主体としており、上部では拳大の礫、下部ではそれより小さい礫が含まれている状況が見られた。

調査の結果、工事箇所においては石積みおよび堤体が残っていることが確認された。しかしながら工事に伴う掘削は15cm程度であり、それよりも下に遺存する堤防には破壊が及ばないことから、工事を進めても差し支えない旨を報告した。しかし今後5番堤周辺の開発を行なう際には注意が必要である。

４－20　都留バイパス建設事業に伴う立会調査（玉川金山遺跡）

所 在 地　山梨県都留市玉川字上ノ原200－１他
遺 跡 名　玉川金山遺跡
調査期間　2007年11月26～28日、12月７・10日
調査面積　約57.68㎡
担 当 者　網倉邦生・酒井玄暁



立会調査　位置図（玉川金山遺跡）

都留バイパスは都留市十日市場から都留市田野倉に至る２車線バイパスとして計画されており、調査が実施された地点はその第２トンネル地点西南側に位置する。玉川金山遺跡は平成16年度より発掘調査が行われており、縄文・奈良・中世・近世の遺構、縄文～近世の遺物が検出されている。

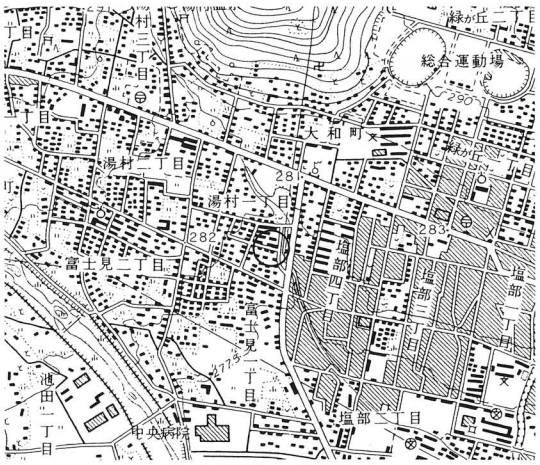
立会調査地点は平成16・19年度に調査を実施した１区と８区に位置している。道路建設工事に伴い、２区と４区の間に水路埋設の工事を行う必要があるため、立会調査を行うこととなった。

11月26日に西南隅集水枡の設置・南側埋設水路の掘削を行った。この結果、第Ⅰ面の構成土壌である黒色土層（中近世の遺構確認面）が検出されたものの、遺構・遺物は検出されなかった。11月27日に西側埋設水路の掘削を行ったが、第Ⅰ面の構成土壌である黒色土層まで掘削が及ばなかった。11月28日に東側埋設水路の掘削を行った。この結果、第Ⅰ面の構成土壌である黒色土層が検出されたものの、遺構・遺物は検出されなかった。12月７日に北西隅・北東隅集水枡の設置、西側・東側埋設水路の掘削を行った。この結果、第Ⅰ面の構成土壌である黒色土層が検出されたものの、遺構・遺物は検出されなかった。12月10日に西側埋設水路の掘削を行った。この結果、第Ⅰ面の構成土壌である黒色土層が検出されたものの、遺構・遺物は検出されなかった。

工事の結果、中近世の遺構確認面である第Ⅰ面まで掘削が及んだが、遺構・遺物は確認されなかった。このため、工事進捗状況と土層断面の記録写真をとり、立会調査を終了した。

４－21　県営住宅千塚北団地解体事業に伴う立会調査

所 在 地　甲府市湯村一丁目７番23号
調査期間　2007年10月18日、11月５・12日
調査面積　45㎡
担 当 者　坂本美夫・猪股一弘



立会調査　位置図

立会箇所は、甲府市荒川左岸にある。榎田遺跡、音羽遺跡、緑ヶ丘遺跡、塩部遺跡などが周囲を取り囲んでいる。このため県営団地の解体に先だって遺跡の有無の確認を目的として実施したものである。北より北棟、中棟、南棟とし、調査順序は解体工程に従い中棟に１ヶ所、北・南棟にそれぞれ２ヶ所の５ヶ所を設定した。

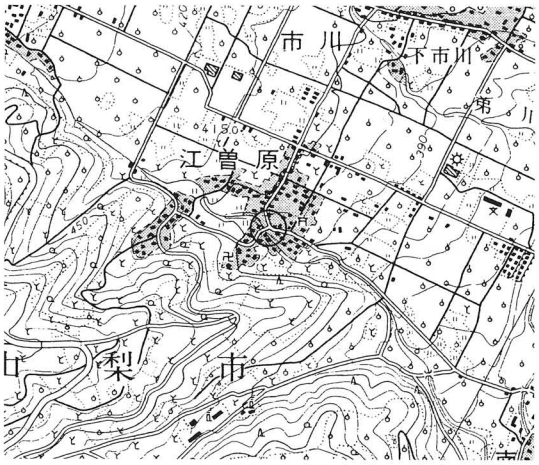
土層は堆積の多少はあるものの、基本的には表面から褐色土層、茶褐色土層、黒褐色土層（粘質土）、砂・礫の互層である。黒色土層は粘質が強いもので地表から40～90cm下から、砂・礫層の互層は地表から70～110cm下にみられ、地表下２m前後で湧水が確認された。

事業地内の黒褐色土層は、30cm前後の小さな起伏はみられるものの、おおよそ水平堆積をみせ、その上下の土層にしてもほぼ同じ状況を呈しており、これらの土層の中に人為的な遺構の切り込まれた状況は全くみられず、また、陶器、土器類などの遺物についても皆無の状況であった。僅かに５号トレンチの砂・礫の互層中から杭状の木材が１点確認されたに過ぎなかった。

いずれのトレンチにおいても、遺構、遺物が確認されなかったことから、遺跡の存在はないものとみられ工事するも支障ないものと判断された。

４－22　兄川県単河川改良事業に伴う立会調査

所 在 地　山梨市江曽原598番地
調査期間　2007年11月９日
調査面積　14㎡
担 当 者　坂本美夫・猪股一弘



立会調査　位置図

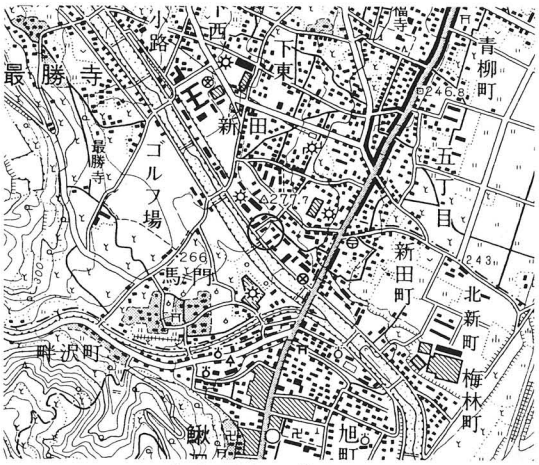
立会箇所の河川は、昭和36年に河床よりナウマン象の化石骨が出土した河川である。平成６年度の化石発見付近（同市南地内）の河川護岸工事に伴う発掘調査においてナウマン象の化石骨が再び発見された。この地点は、今回の地点からは約500m下流に位置している。今回の調査地付近にはこれといった周知の遺跡の存在はみられないのであるが、化石骨の出土した同じ河川の上流部にあたることから、同河川沿いに建設される親水公園と護岸工事に伴い、その可能性の有無の確認、及び他時期の遺跡の存在有無を含め実施したものである。

立会は、事業地が狭小な面積のため、かつ河床により近く掘削ができるように河川に上り下りする階段の建設位置に幅2.6m、長さ5.7mほどのトレンチを設定し、深さ2.5mまで重機により掘削した。トレンチの平面及び断面において化石骨や他の時代の遺構や遺物の有無の確認を行った。

掘削トレンチの土層は、耕作土（約40cm）以下の土層は河川の扇状地を形成した砂、礫などを含む堆積土で、褐色土層、大礫混入褐色土層、暗褐色砂礫層、黄褐色砂礫層（地山）であった。この間において、ナウマン象のなどの化石骨はもちろんのこと、他の時期の遺物、遺構の存在は全く確認されなかったことから、遺跡の存在等はないものと思われる。

４－23　峡南高等技術専門校下水道接続事業に伴う立会調査

所 在 地　南巨摩郡増穂町3492番地
調査期間　2007年12月25日
調査面積　17㎡
担 当 者　坂本美夫・依田幸浩



立会調査　位置図

立会箇所は、戸川左岸上にある。現存の堤防が東西向きに作られ、さらにほぼこの堤防の上部を利用して東西方向に道路がはしるが、事業地はこの道路の脇にある。このため一般の集落跡などの遺跡の存在は極めて低いことが想定されることから、主に堤防や堤防にかかわる遺構などの有無の確認を目的として実施したものである。

立会は、東西に走る道路より校内に接続する下水管の敷設ラインを立会用トレンチ（長さ21m、幅0.6～１m）として掘削した。その結果、アスファルト舗装（５cm）の下は、砕石の展圧層（15cm）、褐色砂礫土層（５cm）、砂礫層（小礫混入、35cm）、砂礫層（中礫混入、90cm）と続くが、深さは敷設溝の掘削最大深度1.5mまでとした。

土層は、基本的には砂礫層の互層で、堤防の断面を形成するような状況の土層の堆積は全く認められなかった。また、立面の壁面観察でも中央付近のアスファルト下に大形のコンクリート片、北端最下層あたりに送風用蛇腹

ホースが埋められていた攪乱部分を除き、他はほぼ水平堆積をみせ、かつ、最下層の平面における確認においても堤防に関わる様な遺構、施設等の存在は全くみられず、さらに遺物についても全く確認できなかった。よって遺跡の存在は無いものと考える。

第Ⅲ章　県内の状況

1　届出件数と内容

本年度より文化財保護法施行令第５条の規定により県教育委員会が行うこととされている文化財保護法第93条の指示及び第94条の勧告に係る権限の一部を市（富士吉田市を除く）へ移譲した。権限移譲を行ったのは指示・勧告のうち工事立会、慎重工事等の軽微なもので、「発掘調査」や「試掘・確認調査」の指示・勧告は現行どおり県教育委員会にて行う。権限移譲にあたって、埋蔵文化財の専門知識と客観的かつ合理的な基準が必要となることから埋蔵文化財専門職員が設置されている市とした。山梨県教育委員会の事務処理の特例に関する条例の一部を改正する条例（平成19年４月１日施行）により実施した。よって届出件数について、権限移譲した分は県への届出件数が減少している。

平成19年度、県内の埋蔵文化財調査による県教育委員会への届出件数については、法92条：３（２）件、法93条：270（717）件、法94条：56（171）件、法96条：２（１）件、法97条：４（４）件、法99条：123（267）件である。届出の総件数は458（1,162）件であり、前年度と比較すると、その件数は704件（60%）の減少となっている。　※（　　）内数字は前年度。過去20年間の件数の変遷は45頁の表のとおり。

2　発掘調査

平成19年度に実施された県内の発掘調査件数は、46頁の表のとおり試掘調査を含めて205（267）件（発掘調査学術調査等含む）となっている。その内訳は、県が12（15）件・市町村が193（252）件である。発掘調査の原因は、道路17件（32）、学校4件（２）、集合住宅16件（12）、個人住宅64件（121）、工場２件（３）、店舗11件（６）、個人住宅兼工場又は店舗32件（６）、その他建物25件（23）、宅地造成12件（19）、公園造成１件（０）、鉄道２件（０）、河川２件（０）、ガス・電気・電話・水道１件（12）、農業基盤７件（４）、その他開発４件（６）といった緊急調査と、学術調査4件、保存目的の範囲確認５件、遺跡整備５件があった。緊急調査では、地方公共団体が行う公共事業では道路などが目立つものの大きな変動はないが、民間開発における店舗や、個人住宅兼工場又は店舗等で大幅な変化がみられる。　※（　　）内数字は前年度。

3　県指定有形文化財（考古資料）及び県指定史跡

平成19年度では、平成19年４月26日に甲州市勝沼町大善寺の中世墓出土の陶器７点と甲州市大和町木賊の棲雲寺開山墓出土の常滑甕が県指定文化財（有形文化財）に指定された。大善寺の陶器は、古瀬戸・常滑・美濃須衛で13世紀鎌倉時代のもので、平安時代前期に創建された大善寺と在地豪族の三枝氏との関わりがうかがえるものである。棲雲寺の常滑甕は、県指定建造物の宝筐印塔の下から出土したもので、開山の業海本浄禅師の墓と推定されている。文和二年（1353）の宝筐印塔と一体のもので、大甕は蔵骨器として使われ、おさめられた人物、年代がわかるたいへん貴重な資料である。

4　発掘調査の成果と保存整備事業

今年度県内各地で行われた発掘調査（学術調査等含む）は、205件ある。北杜市宮尾根Ｃ遺跡は、八ヶ岳南麓の油川右岸に尾根上にあり、発掘によって縄文時代中期の住居跡24軒と土坑等133基、古墳時代の住居跡20軒が調査された。特に縄文時代の住居は環状集落であることが確認され、遺構の分布から当時の集落景観が一層理解されつつある。

韮崎市の女夫遺跡では、縄文時代中期の住居跡15軒が調査されたが、なかでも黒曜石の剥片約40点が埋納された状態で出土している。

北杜市の頭無Ａ遺跡は、旧石器時代のナイフ形石器の出土をはじめ、縄文時代の住居跡５軒と平安時代の住居６軒が発見されているが、８基を数える弥生時代末の方形周溝墓が発見されている。八ヶ岳南麓で方形周溝墓が発見されるのは２例目であるが、５号周溝墓の埋葬主体部からは鉄剣１点と鉄釧（鉄製腕輪）１点が出土してい

る。また、鉄剣には鞘と判断できる木質の残骸が付着していた。埋葬主体部と出土遺物の位置関係から被葬者の埋葬状況の推定が可能となり、貴重な発見といえる。

甲府市の朝気遺跡では、古墳時代から江戸時代までの住居跡34軒をはじめとする遺構・遺物が検出されるなか、体長1.7mの馬の全身骨格が出土している。本県では馬の出土事例は比較的多く、全身骨格の事例としては6事例目となるが、骨格を詳細に検討することで馬にまつわる当時の祭祀儀礼等を理解する手掛かりになる可能性がある。なお、本年度は甲斐市の間々下遺跡でも馬の歯が発見される事例が続いた。

南アルプス市の野牛島・西ノ久保遺跡Ⅴ・Ⅵ区では、谷状地形の底から奈良平安時代の須恵器の甕が融着した状態で数枚発見された。融着は須恵器の焼成段階で生じる現象と考えられることから、当該地に須恵器窯跡が存在したのではないかと想定される興味深い発見となった。

鰍沢町の鰍沢河岸跡C遺跡は、江戸時代に開かれた富士川舟運の拠点的河岸であり、平成8年度から継続して調査を実施しているが、本年度は一分判金（元禄）が出土してる。一分判金は甲府城跡でも出土しており、今回の発見で2事例となる。

甲府城跡では、甲府駅周辺整備事業に伴う発掘調査が実施され、駅北口では甲府城の北西に位置する清水曲輪の石垣が発見された。発見された石垣は、甲府城築城期（1590年代）の野面積み石垣で、当時の姿を良好に留めていた。調査終了後は、埋設保存とした。

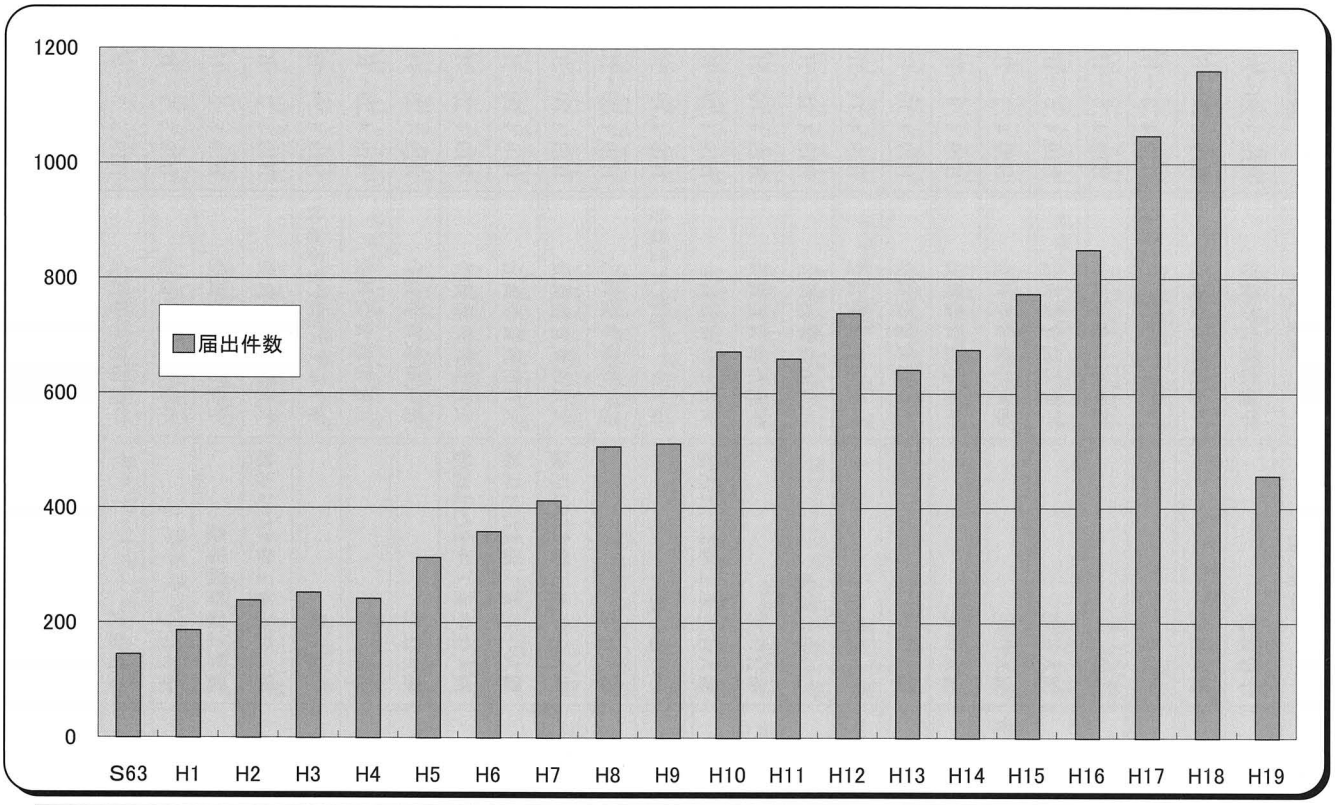
本県には12件14か所の国指定史跡、25か所の県指定史跡があり、これらの貴重な史跡の保存と活用を図るため、指定地の公有地化や保存整備事業が進められている。今年度、国指定史跡では武田氏館跡（甲府市）が大手周辺の整備に着手した他、新府城跡（韮崎市）と谷戸城跡が復元整備と調査を継続しておこない、谷戸城跡は本年度末をもって整備が一段落し、新設をしたガイダンス施設とあわせ今後は積極的な史跡の活用が期待される。また、甲斐国分寺跡・甲斐国分尼寺跡（笛吹市）の整備に向けた検討が進められた。

県指定史跡では万寿森古墳（甲府市）、連方屋敷（山梨市）、勝山城跡（都留市）の整備活用を図るための調査をはじめ、武田勝頼の墓（甲州市）の保存修理事業、甲府城跡（甲府市）に関わる石垣維持管理工事がおこなわれた。この他、史跡御勅使川旧堤防（南アルプス市）では史跡隣接地から連続する堤防が発見され、史跡の追加指定等を含め検討が必要となる。

5　発掘調査体制

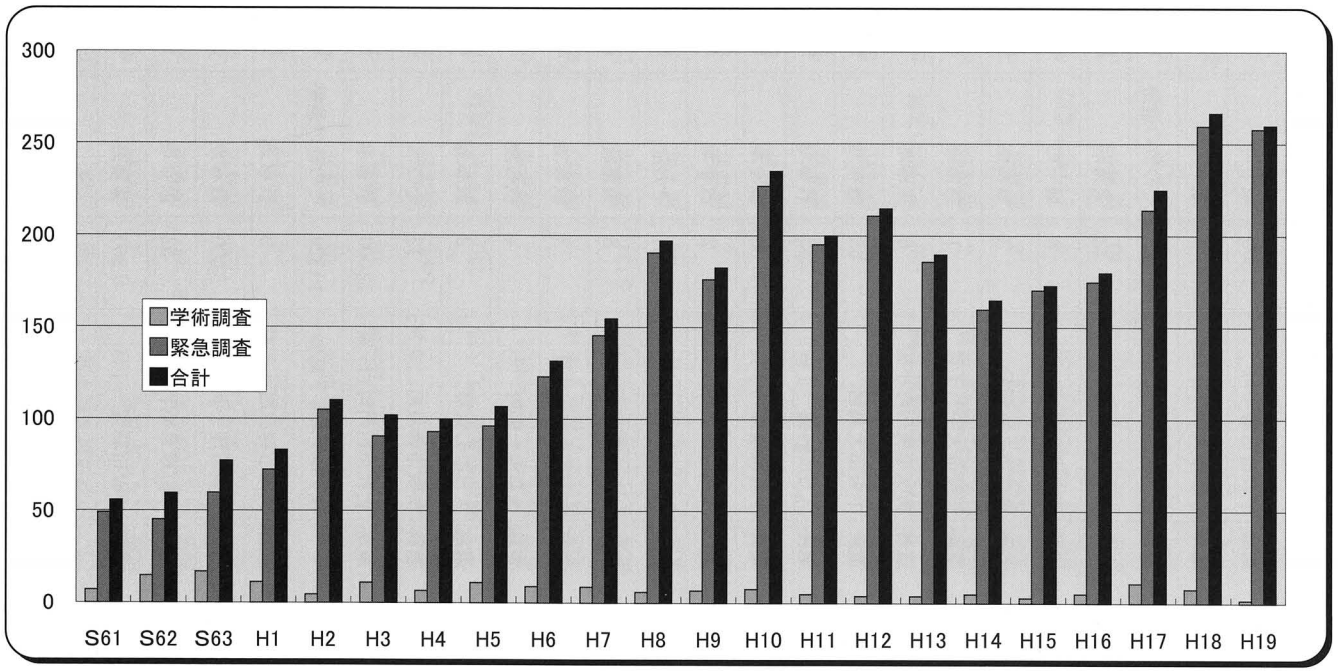
埋蔵文化財専門職員について、県では学術文化財課5名（うち文化財保護担当1名）、埋蔵文化財センター23名（うち教員派遣交流3名、非常勤嘱託5名）、博物館2名、考古博物館5名（外に非常勤嘱託1名）である。市町村では、甲府市6名、富士吉田市2名、甲州市2名、大月市2名、韮崎市2名、南アルプス市3名、笛吹市5名（外に非常勤嘱託2名）、甲斐市1名（外に非常勤嘱託1名）、北杜市8名、山梨市2名、中央市1名（昭和町を兼務）、都留市1名、上野原市1名（外に非常勤嘱託1名）、市川三郷町1名、増穂町1名、身延町1名（臨時職員）、忍野村1名（非常勤嘱託）、富士河口湖町1名となっている。埋蔵文化財担当者の配置率は、28市町村のうち18市町村で64%となり、平成15年度の61%（64市町村のうち39市町村）と比べわずかに増加している。また、担当職員数も54名から9名減の45名（嘱託等含む）の配置状況である。市町村合併や発掘調査事業量の減少に伴い組織編成が行われ、埋蔵文化財専門職員の配置換えによって実質的に配置職員数の減少となっている。また専門職員の退職がここ数年で大きな山を迎えることが予想される。行財政改革が進められ、埋蔵文化財行政をとりまく環境は大きく変化しつつあり、実情に見合った適切な専門職員配置は大きな課題である。行政としては、記録保存のための発掘調査の実施にとどまらず、これまでの膨大な調査成果の蓄積を適切に保存・活用し、歴史を活かした地域作りに資するなど、多様な業務を実施し、国民の期待に応えることが求められている。

発掘届出等件数の推移図



年度	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19
届出件数	145	187	238	253	243	315	359	410	508	513	671	659	738	642	677	775	850	1050	1161	458

発掘調査件数の推移



年度	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19
学術調査	2	7	15	17	11	5	11	7	11	9	9	6	7	8	5	4	4	5	3	5	11	8	2
緊急調査	44	49	45	60	72	105	91	93	96	123	146	191	176	227	195	211	186	160	170	175	214	259	258
合計	46	56	60	77	83	110	102	100	107	132	155	197	183	235	200	215	190	165	173	180	225	267	260

2007年度　県内発掘調査一覧表

No	遺跡名	所在地	面積（㎡）	遺跡の種別	遺跡の現状	遺跡の年代	調査目的	調査主体	調査期間
1	武田城下町　遺跡	甲府市古府中町	300	城下町	その他	中世	学校建設	甲府市教育委員会	H19.3.26～H19.8.31
2	武田城下町　遺跡	甲府市大手一丁目	4	城下町	宅地	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H19.3.30～H19.4.13
3	大師　遺跡	南アルプス市大師	27	その他の遺跡	その他	その他	宅地造成	南アルプス市教育委員会	H19.4.3～H19.4.3
4	身洗沢　遺跡	笛吹市八代町南	12	集落跡	畑地	弥生～古墳	道路	笛吹市教育委員会	H19.4.5～H19.4.13
5	甲府城下町　遺跡	甲府市北口三丁目	8	城下町	宅地	近世	個人住宅	甲府市教育委員会	H19.4.5～H19.4.5
6	笠木地蔵　遺跡	笛吹市一宮国分	3	集落跡	宅地	縄文　古墳～中世	個人住宅	笛吹市教育委員会	H19.4.5～H19.4.13
7	大手下　武田城下町　遺跡	甲府市大手三丁目	1	集落跡	宅地	縄文　中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H19.4.9～H19.4.27
8	京原　遺跡	笛吹市境川町小山	6	集落跡	宅地	縄文～弥生	個人住宅	笛吹市教育委員会	H19.4.10～H19.5.31
9	城原　遺跡	中央市大鳥居	55	散布地	畑地	縄文～古墳　中世	その他開発	中央市教育委員会	H19.4.14～H19.4.27
10	四本木　遺跡	大月市駒橋一丁目	255	散布地	宅地	縄文	その他の建物	大月市教育委員会	H19.4.18～H19.4.18
11	塩部　遺跡	甲府市塩部三丁目	80	散布地	宅地	弥生～平安	集合住宅	甲府市教育委員会	H19.4.19～H19.5.2
12	真木地内　遺跡	大月市真木町	2	散布地	宅地		個人住宅兼工場または店舗	大月市教育委員会	H19.4.19～H19.4.19
13	沢登　十五所　遺跡	南アルプス市沢登	264	その他	畑地	弥生	その他の建物	南アルプス市教育委員会	H19.4.19～H19.7.20
14	石和高校周辺　遺跡	笛吹市石和町下平井	8	集落跡	畑地	弥生	個人住宅	笛吹市教育委員会	H19.4.20～H19.7.20
15	大月地内　遺跡	大月市大月一丁目	3	散布地	宅地		個人住宅兼工場または店舗	大月市教育委員会	H19.4.20～H19.4.20
16	七保地内　遺跡	大月市七保町	1	散布地	その他		個人住宅兼工場または店舗	大月市教育委員会	H19.4.20～H19.4.20
17	七保地内　遺跡	大月市七保町	2	散布地	その他		個人住宅兼工場または店舗	大月市教育委員会	H19.4.20～H19.4.20
18	埋没条里遺構　遺跡	笛吹市御坂町二之宮	12	その他	畑地	古墳～奈良	集合住宅	笛吹市教育委員会	H19.4.23～H19.8.30
19	大久保　遺跡	北杜市白州町台ヶ原	12,000	散布地	畑地	縄文　平安	道路	北杜市教育委員会	H19.4.23～H19.7.31
20	釜無川堤防址	南アルプス市下高砂	10,329	その他の遺跡	その他	近世～近現代	宅地造成	南アルプス市教育委員会	H19.4.24～H19.5.31
21	下初狩地内　遺跡	大月市初狩町下初狩	2	散布地	宅地		個人住宅兼工場または店舗	大月市教育委員会	H19.5.2～H19.5.2
22	曽利　遺跡	甲斐市団子新居	3,000	散布地	畑地	縄文	農業基盤整備事業	甲斐市教育委員会	H19.5.2～H19.5.8
23	岡畑　遺跡	中巨摩郡昭和町西条	52	散布地	水田	中世～近世	集合住宅	中央市教育委員会	H19.5.5～H19.5.18
24	朝気　遺跡	甲府市朝気一丁目	1,360	集落跡	その他	縄文～平安	学校建設	甲府市教育委員会	H19.5.7～H19.7.31
25	橋詰　遺跡	笛吹市御坂町栗合	1,600	散布地	その他	平安	その他の建物	笛吹市教育委員会	H19.5.7～H19.7.31
26	古屋　遺跡	笛吹市石和町山崎	8	集落跡	宅地	奈良～平安	個人住宅	笛吹市教育委員会	H19.5.8～H19.5.8

No	遺跡名	所在地	面積（㎡）	遺跡の種別	遺跡の現状	遺跡の年代	調査目的	調査主体	調査期間
27	横根積石塚古墳群9・17号墳	甲府市横根町平林	2,200	古墳	山林	古墳	その他開発	甲府市教育委員会	H19.5.8～H19.7.30
28	猿橋地内　遺跡	大月市猿橋町	2	散布地	宅地		個人住宅兼工場または店舗	大月市教育委員会	H19.5.9～H19.5.9
29	上川手　遺跡	北杜市須玉町下津金	85,300	散布地	水田	縄文　平安	農業基盤整備事業	北杜市教育委員会	H19.5.9～H19.7.31
30	大野地内　遺跡	南巨摩郡身延町大野	200	散布地	水田　原野	中世	その他の建物	身延町教育委員会	H19.5.10～H19.5.11
31	甲斐国分寺跡　遺跡	甲府市一宮東原	6	社寺跡	宅地	奈良～中世	個人住宅	笛吹市教育委員会	H19.5.10～H19.5.10
32	西久保　遺跡	北杜市高根町蔵原	93	集落跡	宅地	縄文～平安	個人住宅	北杜市教育委員会	H19.5.11～H19.5.28
33	御崎前　遺跡	南アルプス市十日市場	16	その他	荒蕪地	弥生～古墳	集合住宅	南アルプス市教育委員会	H19.5.11～H19.5.11
34	玉川金山　遺跡	都留市玉川	2,496	集落跡	水田　道路	縄文　奈良～中世	道路	山梨県教育委員会	H19.5.14～H19.12.27
35	鰍沢河岸跡	南巨摩郡鰍沢町八幡	210	その他の遺跡	宅地	近世	道路	山梨県教育委員会	H19.5.14～H19.7.31
36	保雲寺橋　遺跡	笛吹市春日居町鎮目	4	散布地	畑地	古墳　平安	その他の建物	笛吹市教育委員会	H19.5.14～H19.5.14
37	満中田　遺跡	笛吹市石和町下平井	7	散布地	宅地	縄文　奈良～平安	個人住宅	笛吹市教育委員会	H19.5.15～H19.5.15
38	宮尾根C　遺跡	北杜市高根町上黒沢	5,124	散布地	山林	縄文	農業基盤整備事業	北杜市教育委員会	H19.5.15～H19.8.31
39	武田城下町　遺跡	甲府市屋形三丁目	44	城下町	宅地	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H19.5.15～H19.5.16
40	富浜地内　遺跡	大月市富浜町	2	散布地	宅地		個人住宅兼工場または店舗	大月市教育委員会	H19.5.16～H19.5.16
41	堀ノ内　遺跡	笛吹市八代町南	21	集落跡	宅地	縄文　古墳～近世	その他の建物	笛吹市教育委員会	H19.5.16～H19.5.16
42	下初狩地内　遺跡	大月市初狩町下初狩	2	散布地	宅地		個人住宅兼工場または店舗	大月市教育委員会	H19.5.22～H19.5.22
43	久保　遺跡	南アルプス市山寺	16	散布地	畑地	中世	個人住宅	南アルプス市教育委員会	H19.5.22～H19.5.23
44	青柳河岸跡　・	南巨摩郡増穂町青柳	120	その他の遺跡	畑地	近世～近現代	その他の建物	山梨県教育委員会	H19.5.24～H19.5.31
45	満中田　遺跡	笛吹市石和町下平井	6	散布地	宅地	縄文　奈良～平安	その他の建物	笛吹市教育委員会	H19.5.24～H19.5.24
46	久保B　遺跡	笛吹市八代町北	6	散布地	宅地	奈良～平安　近世	個人住宅	笛吹市教育委員会	H19.5.28～H19.5.28
47	百々・上八田　遺跡	南アルプス市上八田	9	その他の遺跡	その他	近世～近現代	宅地造成	南アルプス市教育委員会	H19.5.29～H19.5.29
48	武田城下町　遺跡	甲府市大手一丁目	10	城下町	宅地	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H19.5.29～H19.5.29
49	富浜地内　遺跡	大月市富浜町	1	散布地	宅地		店舗	大月市教育委員会	H19.5.30～H19.5.30
50	賑岡地内　遺跡	大月市賑岡町	2	散布地	畑地		ガス・電気・電話・水道	大月市教育委員会	H19.5.31～H19.5.31
51	音羽　遺跡	甲府市音羽町	25	散布地	宅地	弥生～古墳	個人住宅	甲府市教育委員会	H19.5.31～H19.5.31
52	青柳河岸跡	南巨摩郡増穂町青柳	2,250	その他の遺跡	その他	近世～近現代	河川	山梨県教育委員会	H19.6.4～H19.9.30

No	遺跡名	所在地	面積（㎡）	遺跡の種別	遺跡の現状	遺跡の年代	調査目的	調査主体	調査期間
53	堂佛寺　遺跡	北杜市武川町牧原	200	散布地	宅地	中世～近世	集合住宅	北杜市教育委員会	H19.6.4～H19.6.5
54	お船石古墳　間々下　遺跡	甲斐市志田	11,732	散布地	畑地	古墳　平安～近世	店舗	甲斐市教育委員会	H19.6.4～H19.8.17
55	日影　遺跡	大月市賑岡町	1	散布地	宅地		個人住宅兼工場または店舗	大月市教育委員会	H19.6.5～H19.6.5
56	富浜地内　遺跡	大月市富浜町	3	散布地	宅地		個人住宅兼工場または店舗	大月市教育委員会	H19.6.5～H19.6.5
57	大目新田　遺跡	上野原市大野	12	散布地	畑地	縄文	道路	上野原市教育委員会	H19.6.7～H19.6.7
58	古屋　遺跡	笛吹市石和町古屋	4	集落跡	宅地	奈良～平安	個人住宅	笛吹市教育委員会	H19.6.11～H19.6.11
59	毘沙門　遺跡	笛吹境川村石橋	12	散布地	畑地	縄文　平安	店舗	笛吹市教育委員会	H19.6.11～H19.6.11
60	大井ヶ森地内　遺跡	北杜市長坂町大井ヶ森	22	散布地	宅地	縄文	道路	北杜市教育委員会	H19.6.12～H19.6.15
61	堤防遺跡推定地　・	甲府市上石田	1,000	その他の遺跡	宅地	中世～近世	道路	山梨県教育委員会	H19.6.13～H19.6.15
62	埋没条里遺構　中通　遺跡	笛吹市御坂町二之宮	4	その他	宅地	古墳～平安	個人住宅	笛吹市教育委員会	H19.6.13～H19.6.13
63	平石　遺跡	甲府市荒川二丁目	1,832	散布地	畑地	平安	店舗	甲府市教育委員会	H19.6.18～H19.6.18
64	塩部　遺跡	甲府市塩部三丁目	4	包蔵地	宅地	弥生～平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H19.6.19～H19.6.19
65	御崎前　遺跡	南アルプス市寺部	30	散布地	荒蕪地	古墳	集合住宅	南アルプス市教育委員会	H19.6.19～H19.7.6
66	甲府城下町　遺跡	甲府市武田一丁目	5	城下町	宅地	近世	個人住宅兼工場または店舗	甲府市教育委員会	H19.6.21～H19.6.22
67	千手院前　遺跡	甲州市塩山上塩後	70	集落跡	宅地	縄文	個人住宅	甲州市教育委員会	H19.6.21～H19.7.20
68	馬場・前付　大祥寺　遺跡	笛吹市境川町寺尾	500	散布地	畑地	縄文～古墳　平安	その他の開発	笛吹市教育委員会	H19.6.25～H19.9.14
69	勝山城跡	都留市川棚	100	城館跡	山林	平安～中世	学術研究	都留市教育委員会	H19.6.28～H20.3.31
70	武田城下町　遺跡	甲府市屋形二丁目	312	城下町	宅地	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H19.6.29～H19.6.29
71	埋没条里遺構、中通　遺跡	笛吹市御坂町二之宮	2	散布地	宅地	古墳　平安	個人住宅	笛吹市教育委員会	H19.7.2～H19.7.2
72	中丸東　遺跡	笛吹市境川町小山	27,000	散布地	畑地	縄文　古墳～平安	鉄道	山梨県教育委員会	H19.7.2～H31.8.31
73	小石原　遺跡	笛吹市石和町下平井	7	散布地	宅地	縄文　奈良～平安	個人住宅	笛吹市教育委員会	H19.7.2～H19.7.2
74	前御勅使川堤防址群	南アルプス市六科	8	その他	宅地	中世～近世	集合住宅	南アルプス市教育委員会	H19.7.3～H19.7.3
75	甲府城下町　遺跡	甲府市中央五丁目	1	城下町	宅地	近世	個人住宅	甲府市教育委員会	H19.7.5～H19.7.20
76	鰍沢河岸跡	南巨摩郡鰍沢町八幡	6	その他の遺跡	宅地	近世	個人住宅	鰍沢町教育委員会	H19.7.13～H19.7.13
77	武田城下町　遺跡	甲府市屋形一丁目	227	城下町	宅地	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H19.7.17～H19.7.17
78	上中丸　遺跡	富士吉田市小明見	3,500	集落跡	荒蕪地	縄文～弥生　平安	道路	富士吉田市教育委員会	H19.7.17～H20.3.31

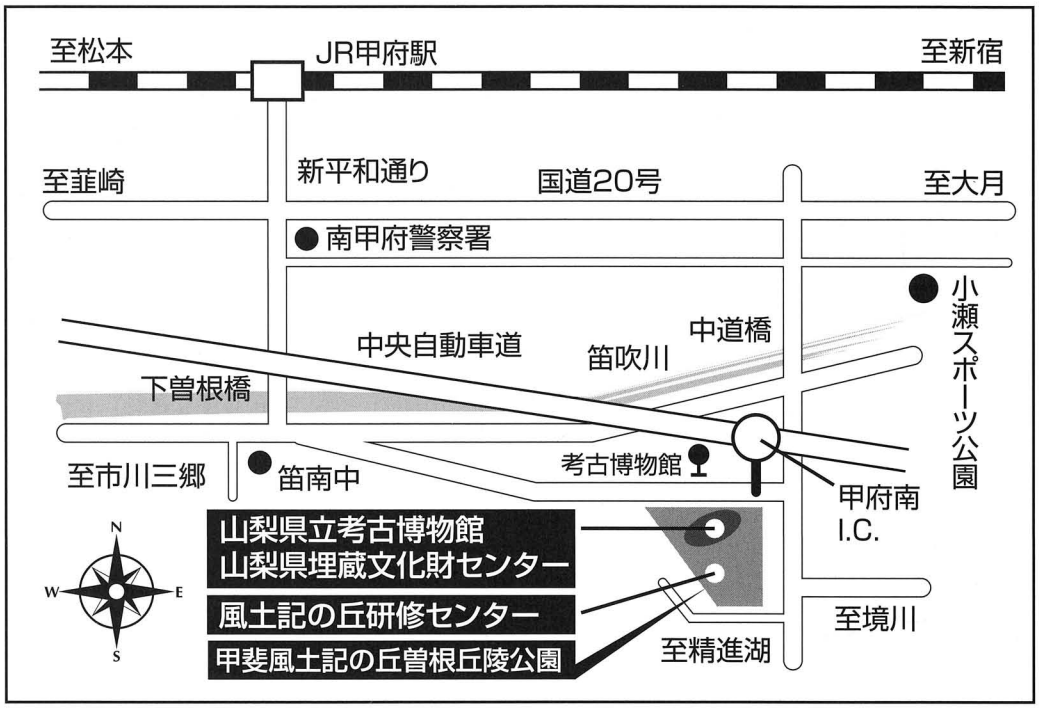
No	遺跡名	所在地	面積（㎡）	遺跡の種別	遺跡の現状	遺跡の年代	調査目的	調査主体	調査期間
79	石骨　遺跡	甲州市塩山熊野	100	散布地	畑地	平安	宅地造成	甲州市教育委員会	H19.7.18～H19.7.31
80	美通　遺跡	都留市井倉	10,040	集落跡	畑地	縄文	道路	山梨県教育委員会	H19.7.18～H19.7.30
81	加賀美条里遺構	南アルプス市加賀美	8	その他	荒蕪地	古墳～平安	集合住宅	南アルプス市教育委員会	H19.7.20～H19.7.20
82	赤根　遺跡	笛吹市御坂町八千蔵	6	散布地	宅地	縄文　平安	個人住宅	笛吹市教育委員会	H19.7.25～H19.7.25
83	大堀　遺跡	上野原市上野原	50	散布地	その他	縄文	店舗	上野原市教育委員会	H19.7.26～H19.7.26
84	下宮地　遺跡	南アルプス市江原	18	散布地	原野	弥生～古墳　中世	集合住宅	南アルプス市教育委員会	H19.7.31～H19.7.31
85	花咲地内　遺跡	大月市大月町花咲	2	散布地	宅地		個人住宅兼工場または店舗	大月市教育委員会	H19.7.31～H19.7.31
86	武田城下町　遺跡	甲府市古府中町	176	城下町	宅地	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H19.8.1～H19.8.1
87	甲府城下町　遺跡	甲府市愛宕町	285	その他の遺跡	宅地	近世	その他の建物	山梨県教育委員会	H19.8.2～H19.8.6
88	塩部　遺跡	甲府市塩部一丁目	100	散布地	その他	弥生～平安	その他の建物	山梨県教育委員会	H19.8.6～H19.8.6
89	金鋳塚古墳　遺跡	笛吹市御坂町下野原	3	古墳	宅地	古墳	個人住宅	笛吹市教育委員会	H19.8.6～H19.8.6
90	新倉地内　遺跡	大月市梁川町新倉	4	散布地	宅地		個人住宅兼工場または店舗	大月市教育委員会	H19.8.8～H19.8.8
91	八ツ沢　遺跡	上野原市八ツ沢	6	散布地	宅地	縄文	集合住宅	上野原市教育委員会	H19.8.8～H19.8.8
92	八ツ沢　遺跡	上野原市八ツ沢	6	散布地	宅地	縄文	集合住宅	上野原市教育委員会	H19.8.8～H19.8.8
93	下西畑　遺跡	甲州市塩山赤尾	100	散布地	畑地	平安	店舗	甲州市教育委員会	H19.8.8～H19.9.30
94	萩原氏屋敷	甲州市塩山中萩原	30	その他	宅地	近世	個人住宅	甲州市教育委員会	H19.8.8～H19.8.24
95	下初狩地内　遺跡	大月市初狩町下初狩	2	散布地	宅地		個人住宅兼工場または店舗	大月市教育委員会	H19.8.9～H19.8.9
96	清水　遺跡	北杜市高根町西井出	500	集落跡	宅地	縄文　平安～中世	個人住宅	北杜市教育委員会	H19.8.9～H19.8.31
97	居村村上　遺跡	甲府市池田二丁目	18	散布地	その他	縄文　平安	その他の建物	甲府市教育委員会	H19.8.16～H19.8.24
98	埋没条里遺構　二之宮氏館跡　中通　遺跡	笛吹市御坂町二之宮	8	その他	宅地	古墳～中世	個人住宅	笛吹市教育委員会	H19.8.20～H19.10.31
99	四本木　遺跡	大月市駒橋一丁目	329	散布地	宅地	縄文	個人住宅兼工場	大月市教育委員会	H19.8.21～H19.8.21
100	若神子宿　遺跡	北杜市須玉町若神子	207	社寺跡	畑地	中世	個人住宅	北杜市教育委員会	H19.8.21～H19.9.21
101	西耕地C　遺跡	甲府市大里町	16	散布地	宅地	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H19.8.21～H19.8.21
102	甲府城下町　遺跡	甲府市丸の内一丁目	10	城下町	宅地	近世	集合住宅　店舗	甲府市教育委員会	H19.8.22～H19.8.22
103	鷹ノ巣　遺跡	都留市つる四丁目	1,565	散布地	畑地	縄文　奈良～平安	道路	都留市教育委員会	H19.8.23～H19.12.28
104	殿屋敷北　遺跡	中巨摩郡昭和町押越	4	散布地	その他	中世～近世	個人住宅	昭和町教育委員会	H19.8.27～H19.8.27

No	遺跡名	所在地	面積（㎡）	遺跡の種別	遺跡の現状	遺跡の年代	調査目的	調査主体	調査期間
105	古屋　遺跡	笛吹市石和町山崎	4	集落跡	宅地	奈良～平安	個人住宅	笛吹市教育委員会	H19.8.29～H19.8.29
106	吉田城山　遺跡	富士吉田市上吉田	302	城館跡	荒蕪地	中世	個人住宅	富士吉田市教育委員会	H19.9.1～H19.9.2
107	武田城下町　遺跡	甲府市武田三丁目	14	城下町	宅地	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H19.9.3～H19.9.3
108	裏町　遺跡	笛吹市春日居町桑度	2	集落跡	その他	古墳～平安	学校建設	笛吹市教育委員会	H19.9.3～H19.9.3
109	神ノ木　遺跡	南アルプス市在家塚	8	散布地	原野	中世	宅地造成	南アルプス市教育委員会	H19.9.10～H19.9.10
110	五里原　遺跡	笛吹市八代町南	12	集落跡	宅地	縄文　古墳～平安	その他の建物	笛吹市教育委員会	H19.9.18～H19.9.19
111	吉田北原A　遺跡	南アルプス市下今井	100	散布地	畑地　荒蕪地	縄文　近世	個人住宅兼工場	南アルプス市教育委員会	H19.9.18～H19.9.20
112	古観音　遺跡	北都留郡小菅村字古観音	150	社寺跡	山林	中世	学術調査	山梨県教育委員会	H19.9.18～H19.9.21
113	南原　他　遺跡	笛吹市八代町竹居	46,500	散布地　集落跡	畑地	縄文～近世	鉄道	山梨県教育委員会	H19.9.18～H19.12.28
114	真道澤　遺跡	笛吹市八代町南	40	散布地	畑地	平安	店舗	笛吹市教育委員会	H19.9.19～H19.9.19
115	畑倉ヤスバ　遺跡	大月市賑岡町	1	散布地	宅地		個人住宅兼工場または店舗	大月市教育委員会	H19.9.19～H19.9.19
116	熊野南　遺跡	笛吹市春日居町石橋	20	散布地	宅地	古墳・平安	宅地造成	笛吹市教育委員会	H19.9.25～H19.9.28
117	車居　遺跡	笛吹市一宮町一ノ宮	5	集落跡	宅地	古墳～中世	個人住宅	笛吹市教育委員会	H19.9.25～H19.9.25
118	谷村の烽火台	都留市下谷	18	城館跡	その他	中世	その他の建物	都留市教育委員会	H19.9.26～H19.10.4
119	中津森館跡	都留市金井	500	城館址	その他	中世	個人住宅兼工場または店舗	都留市教育委員会	H19.9.26～H19.10.4
120	甲ッ原　遺跡	北杜市高根町五町田	24,000	集落跡	畑地　道路	縄文～弥生、平安	農業基盤整備事業	北杜市教育委員会	H19.9.28～H19.10.30
121	武田城下町　遺跡	甲府市古府中町	180	城下町	その他	中世	学校建設	甲府市教育委員会	H19.10.1～H19.10.15
122	景徳院境内　遺跡	甲州市大和町田野	4	その他の墓	その他	近世	遺跡整備	甲州市教育委員会	H19.10.1～H19.10.12
123	毘沙門　遺跡	笛吹市春日居町石橋	80	散布地	畑地	縄文　平安	その他の建物	笛吹市教育委員会	H19.10.1～H19.10.9
124	三ノ側　遺跡	都留市田原	663	散布地	その他	縄文　奈良～中世	店舗	都留市教育委員会	H19.10.2～H19.10.9
125	埋没条里遺構	笛吹市御坂町二之宮	4	その他	宅地	古墳～平安	個人住宅	笛吹市教育委員会	H19.10.3～H19.10.5
126	白野地内　遺跡	大月市笹子町	3	散布地	宅地		個人住宅兼工場または店舗	大月市教育委員会	H19.10.5～H19.10.5
127	武田城下町　遺跡	甲府市武田三丁目	20	城下町	宅地	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H19.10.9～H19.10.17
128	行者堂跡	南都留郡富士河口湖町勝山	90	社寺跡	山林	中世	学術調査	山梨県教育委員会	H19.10.9～H19.10.26
129	中坪　遺跡	甲府市里吉二丁目	70	散布地	畑地	古墳	その他の建物	甲府市教育委員会	H19.10.10～H19.10.26
130	朝気　遺跡	甲府市朝気三丁目	227	集落跡	宅地	古墳～平安	集合住宅	甲府市教育委員会	H19.10.11～H19.10.11

No	遺跡名	所在地	面積（㎡）	遺跡の種別	遺跡の現状	遺跡の年代	調査目的	調査主体	調査期間
131	朝気　遺跡	甲府市朝気二丁目	2	集落跡	宅地	縄文～平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H19.10.13～H19.10.13
132	石橋条里遺構　遺跡	笛吹市境川町富士牟田	3	その他	宅地	平安	個人住宅	笛吹市教育委員会	H19.10.17～H19.10.17
133	猿橋地内　遺跡	大月市猿橋町	2	散布地	宅地		個人住宅兼工場または店舗	大月市教育委員会	H19.10.17～H19.10.17
134	真木地内　遺跡	大月市真木町	3	散布地	その他		その他の建物	大月市教育委員会	H19.10.18～H19.10.18
135	十丁　遺跡	甲府市里吉三丁目	200	散布地	宅地	古墳	その他の建物	甲府市教育委員会	H19.10.19～H19.11.19
136	御太刀地内　遺跡	大月市御太刀一丁目	1	散布地	その他		店舗	大月市教育委員会	H19.10.19～H19.10.19
137	石橋条里制	笛吹市境川町石橋	12	その他の遺跡	水田	古墳～中世	道路	笛吹市教育委員会	H19.10.22～H19.10.24
138	曽根　遺跡	南アルプス市上宮地	100	散布地	畑地	縄文～古墳	道路	南アルプス市教育委員会	H19.10.23～H19.11.30
139	古屋	笛吹市石和町山碕	4	散布地	宅地	古墳～平安	個人住宅	笛吹市教育委員会	H19.10.25～H19.10.25
140	五里原　遺跡	笛吹市八代町南	123	集落跡	宅地	縄文　古墳～平安	個人住宅	笛吹市教育委員会	H19.10.25～H20.1.31
141	武田城下町　遺跡	甲府市宮前町	4	城下町	宅地	中世	集合住宅	甲府市教育委員会	H19.10.25～H19.10.25
142	大庭　遺跡	甲斐市島上条	963	散布地	畑地	古墳	宅地造成	甲斐市教育委員会	H19.10.25～H19.10.30
143	穴山氏館跡	南巨摩郡身延町下山	140	城館跡	その他	中世	その他の建物	身延町教育委員会	H19.10.29～H19.10.30
144	青柳　遺跡	南巨摩郡増穂町青柳町	1,870	散布地	その他	弥生～古墳、近世	宅地造成	増穂町教育委員会	H19.10.30～H19.10.30
145	武田城下町　遺跡	甲府市天神町	26	城下町	宅地	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H19.10.30～H19.11.8
146	中尾根　遺跡	南都留郡忍野村忍草	80	社寺跡	畑地　山林	平安～中世	学術研究	山梨県教育委員会	H19.11.1～H19.11.29
147	榎原　遺跡	南アルプス市榎原	16	その他の遺跡	畑地	その他	その他の建物	南アルプス市教育委員会	H19.11.1～H19.11.1
148	万寿森古墳	甲府市湯村三丁目	2,998	古墳	その他	古墳	宅地造成	甲府市教育委員会	H19.11.5～H19.12.3
149	百々　遺跡	南アルプス市百々	2	散布地	宅地	縄文～平安	個人住宅	南アルプス市教育委員会	H19.11.5～H19.11.5
150	西久保　遺跡	北杜市高根町蔵原	400	集落跡	山林	縄文～平安	個人住宅	北杜市教育委員会	H19.11.5～H19.11.26
151	御勅使川堤防址群	南アルプス市六科	160	その他の遺跡	荒蕪地	近世～近現代	工場	南アルプス市教育委員会	H19.11.6～H19.12.21
152	八幡廻A　遺跡	南アルプス市下宮地	6	散布地	宅地	平安	個人住宅	南アルプス市教育委員会	H19.11.7～H19.11.7
153	松留　遺跡	上野原市松留	3	散布地	荒蕪地	縄文	その他開発	上野原市教育委員会	H19.11.8～H19.11.8
154	筑前原　遺跡	笛吹市一宮町東原	443	集落跡	畑地	弥生～近世	個人住宅	笛吹市教育委員会	H19.11.9～H19.11.9
155	甲府城下町　遺跡	甲府市北口二丁目	28	城下町	宅地	中～近世	集合住宅	甲府市教育委員会	H19.11.13～H19.11.13
156	武田城下町　遺跡	甲府市天神町	18	散布地	宅地	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H19.11.15～H19.11.26

No	遺跡名	所在地	面積（㎡）	遺跡の種別	遺跡の現状	遺跡の年代	調査目的	調査主体	調査期間
157	武田城下町　遺跡	甲府市天神町	20	城下町	宅地	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H19.11.15～H19.11.22
158	武田城下町　遺跡	甲府市天神町	19	城下町	宅地	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H19.11.15～H19.11.30
159	埋没条里遺構　扇田　遺跡	笛吹市御坂町二之宮	4	その他	宅地	古墳～平安	個人住宅	笛吹市教育委員会	H19.11.15～H19.11.15
160	榎田　遺跡	甲府市千塚5丁目	13	散布地	宅地	弥生～平安	集合住宅	甲府市教育委員会	H19.11.21～H19.11.21
161	中初狩地内　遺跡	大月市初狩町中初狩	4	散布地	宅地		その他の建物	大月市教育委員会	H19.11.22～H19.11.22
162	堀之内　遺跡	都留市川茂	198	散布地	宅地	奈良～平安	個人住宅兼工場または店舗	都留市教育委員会	H19.11.25～H20.4.24
163	榎田　遺跡	甲府市千塚5丁目	3	散布地	宅地	弥生～平安	個人住宅	甲府市教育委員会	H19.11.26～H19.11.26
164	念場原B　遺跡	北杜市高根町清里	750	散布地	山林	縄文	道路	北杜市教育委員会	H19.11.26～H19.11.30
165	矢倉　遺跡	北杜市須玉町上津金	878	散布地	水田	縄文　平安	道路	北杜市教育委員会	H19.11.26～H19.11.30
166	小川奥右衛門屋敷跡	笛吹市春日居町徳条	56	その他	宅地	近世	その他の建物	笛吹市教育委員会	H19.11.26～H19.11.26
167	白野地内　遺跡	大月市笹子町	1	散布地	宅地		個人住宅兼工場または店舗	大月市教育委員会	H19.11.30～H19.11.30
168	青柳河岸跡　町屋口　遺跡	南巨摩郡増穂町青柳	18,181	その他の遺跡	水田　畑地	中世～近現代	その他の建物	増穂町教育委員会	H19.12.3～H19.12.21
169	塩部　遺跡	甲府市塩部1丁目	30	散布地	宅地	弥生～平安	店舗	甲府市教育委員会	H19.12.4～H19.12.4
170	武田城下町　遺跡	甲府市下積翠寺	10	城下町	宅地	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H19.12.6～H19.12.10
171	武田城下町　遺跡	甲府市武田三丁目	15	城下町	宅地	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H19.12.7～H19.12.14
172	武田城下町　遺跡	甲府市屋形一丁目	840	城下町	宅地	中世	集合住宅	甲府市教育委員会	H19.12.7～H19.12.7
173	鷹ノ巣　遺跡	都留市つる五丁目	264	散布地	原野	奈良～平安	個人住宅兼工場または店舗	都留市教育委員会	H19.12.10～H20.3.20
174	東原　遺跡	北杜市長坂町大八田	500	散布地	畑地	中世	個人住宅	北杜市教育委員会	H19.12.10～H20.1.10
175	竹森東田　遺跡	甲州市塩山竹森	150	散布地	畑地	縄文	農業基盤整備事業	甲州市教育委員会	H19.12.10～H20.1.30
176	大月地内　遺跡	大月市大月町大月	2	散布地	宅地		個人住宅兼工場または店舗	大月市教育委員会	H19.12.12～H19.12.12
177	三光　遺跡	笛吹市御坂町竹居	2	集落跡	宅地	縄文	個人住宅	笛吹市教育委員会	H19.12.14～H19.12.14
178	波木井城跡	南巨摩郡身延町波木井	20	散布地	宅地	中世	個人住宅	身延町教育委員会	H19.12.17～H19.12.8
179	上窪　遺跡	中央市下河東	2,190	田畑跡	水田	平安～近世	道路	中央市教育委員会	H19.12.17～H19.12.28
180	満中田　遺跡	笛吹市石和町下平井	2	散布地	宅地	縄文　奈良～平安	個人住宅	笛吹市教育委員会	H19.12.19～H19.12.19
181	平林　平林南　遺跡	北杜市明野町上手	81	散布地	畑地	縄文	個人住宅	北杜市教育委員会	H19.12.20～H20.1.10
182	加賀美条里遺構	南アルプス市加賀美	8	散布地	水田	古墳～平安	宅地造成	南アルプス市教育委員会	H19.12.26～H19.12.26

No	遺跡名	所在地	面積（㎡）	遺跡の種別	遺跡の現状	遺跡の年代	調査目的	調査主体	調査期間
183	甲府城下町　遺跡	甲府市丸の内一丁目	1,400	城下町	宅地	近世	集合住宅　店舗	甲府市教育委員会	H19.12.27～H20.3.28
184	桑西宮の前　遺跡	大月市真木町	3	散布地	宅地	縄文	個人住宅兼工場または店舗	大月市教育委員会	H20.1.9～H20.1.9
185	甲府城下町　遺跡	甲府市武田一丁目	126	城下町	宅地	近世	集合住宅　店舗	甲府市教育委員会	H20.1.18～H20.2.1
186	堤防遺跡推定地	甲府市上阿原	4,600	その他の遺跡	畑地	中世～近世	河川	山梨県教育委員会	H20.1.28～H20.1.29
187	賑岡地内　遺跡	大月市賑岡町	1	散布地	宅地		個人住宅兼工場または店舗	大月市教育委員会	H20.1.29～H20.1.29
188	連野　遺跡	大月市初狩町下初狩	2	散布地	宅地		個人住宅兼工場または店舗	大月市教育委員会	H20.1.31～H20.1.31
189	古屋　遺跡	笛吹市石和町山崎	7	集落跡	宅地	奈良～平安	個人住宅	笛吹市教育委員会	H20.2.1～H20.2.1
190	中尾条里遺構　早川氏屋敷跡	笛吹市一宮町中尾	26	城館跡　その他	畑地	奈良～中世	宅地造成	笛吹市教育委員会	H20.2.5～H20.2.12
191	蓮台原　遺跡	甲州市塩山下塩後	65	散布地	畑地	近世	店舗	甲州市教育委員会	H20.2.6～H20.2.7
192	埋没条里遺構	笛吹市御坂町二之宮	4	その他	宅地	古墳～平安	個人住宅	笛吹市教育委員会	H20.2.6～H20.2.6
193	丸山塚古墳	甲府市下曽根	2,000	古墳	畑地	古墳	公園造成	山梨県教育委員会	H20.2.14 1 H20.2.20
194	駒橋地内　遺跡	大月市駒橋二丁目	1	散布地	宅地		個人住宅兼工場または店舗	大月市教育委員会	H20.2.14～H20.2.14
195	信虎誕生屋敷跡　中川田　遺跡	笛吹市春日居町下岩下	29	散布地　城館跡	畑地　道路	弥生～古墳　平安～中世	農業基盤整備事業	笛吹市教育委員会	H20.2.18～H20.2.20
196	御所　遺跡	北杜市高根町五町田	500	集落跡	水田　畑地	縄文　平安	道路	北杜市教育委員会	H20.2.18～H20.2.28
197	谷戸城周辺	北杜市大泉町谷戸	464	城館跡	水田　畑地	中世	道路	北杜市教育委員会	H20.2.18～H20.2.28
198	物見塚　天神　遺跡	笛吹市境川町宮ノ前	2	集落跡	道路	縄文～弥生　平安	農業基盤整備事業	笛吹市教育委員会	H20.2.19～H20.2.19
199	新町　遺跡	上野原市上野原	48	散布地	宅地	縄文	宅地造成	上野原市教育委員会	H20.2.20～H20.2.21
200	根の神　遺跡	大月市真木町	2	集落跡	宅地	縄文	個人住宅兼工場または店舗	大月市教育委員会	H20.3.5～H20.3.5
201	富浜地内　遺跡	大月市富浜町	2	散布地	宅地		個人住宅兼工場または店舗	大月市教育委員会	H20.3.7～H19.5.16
202	七保地内　遺跡	大月市七保町	2	散布地	その他		個人住宅兼工場または店舗	大月市教育委員会	H20.3.18～H20.3.18
203	武田城下町　遺跡	甲府市屋形三丁目	9	城下町	宅地	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	H20.3.19～H20.3.31
204	賑岡地内　遺跡	大月市賑岡町	2	散布地	宅地		個人住宅兼工場または店舗	大月市教育委員会	H20.3.25～H20.3.25
205	西畑　遺跡	大月市賑岡町	60	集落跡	宅地	縄文　奈良～平安	工場	大月市教育委員会	H20.3.26～H20.3.26



●路線バスご利用
甲府－豊富（中道橋経由）考古博物館で下車
●高速バスのご利用（2時間）
新宿西口・・・南回り、甲府行（中道下車）徒歩5分
南甲府インター下車・徒歩10分

年　報　24

印刷日　2008 年 11 月 21 日
発行日　2008 年 11 月 28 日

発行所　山梨県埋蔵文化財センター
山梨県甲府市下曽根町923
TEL　055－266－3881・055－266－3016
FAX　055－266－3882
E-mail：maizou-bnk@pref.yamanashi.lg.jp
印刷所　港北出版印刷株式会社
山梨県甲府市高室町155
TEL 055－244－0466